使用説明書
〈ネットワーク&システム初期設定編〉

1 システム初期設定
2 接続と設定
3 プリントサーバーの準備
4 機器の監視
5 宛先・ユーザーを登録する
6 Windowsの補足情報
7 Mac OS Xで使う
8 UNIXで使う
9 付録

ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『本機をお使いになる方へ』「安全上のご注意」をお読みください。

目次

使用説明書の紹介.....11
はじめに.....13
複製、印刷が禁止されているもの.....13
おことわり.....14
この本の読みかた.....15
正しくお使いいただくために.....15
マークについて.....15
本書についてのご注意.....15
おもなオプションと略称.....16
画面について.....17
初期設定を変更する.....18
初期設定の変更.....18
初期設定の終了.....19
IP アドレスについて.....19

1. システム初期設定

基本設定.....21
用紙設定.....27
時刻タイマー設定.....33
インターフェース設定.....36
ネットワーク.....36
パラレルインターフェース.....42
無線 LAN.....43
リスト印刷.....45
ファイル転送設定.....47
管理者用設定.....53
LDAP サーバーを設定する.....63
LDAP サーバーを登録する.....63
登録した LDAP サーバーを変更する.....68
登録した LDAP サーバーを消去する.....68
レルムを設定する.....70
レルムを登録する.....70
登録したレルムを変更する.....71
登録したレルムを消去する.....72

2. 接続と設定

インターフェースを接続する....73
イーサネットインターフェースに接続する....74
GigaBit イーサネットインターフェースに接続する....75
USB（B コネクター）インターフェースに接続する....76
USB ホストインターフェースに接続する....77
IEEE 1284 インターフェースに接続する....78
無線 LAN インターフェースの接続を確認する....79
セットアップの流れ....79
電波状態を確認する....81
ネットワークの設定....82
プリンターを使うには....82
イーサネット....82
無線 LAN....84
メール送信機能を使うには....85
イーサネット....85
無線 LAN....87
ファイル送信機能を使うには....89
イーサネット....89
無線 LAN....91
ネットワーク配信機能を使うには....92
イーサネット....92
無線 LAN....94
ネットワーク TWAIN スキャナー機能を使うには....95
イーサネット....96
無線 LAN....97
ドキュメントボックス機能を使うには....98
イーサネット....98
無線 LAN....100
本機以外からの設定方法....101
インターフェース設定....101
ファイル転送設定....106

3. プリントサーバーの準備

Windows ネットワークプリンターを設定する.....109
NetWare を使用する.....110
プリントサーバーを使用する（NetWare 3.xJ）.....110
プリントサーバーを使用する（NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J）.....112
プリントサーバーを使用する（NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境）.....113
プリントサーバーを使用する（NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境）.....116
リモートプリンターとして使用する（NetWare 3.xJ）.....118
リモートプリンターとして使用する（NetWare 4.xJ、5/5.1J）.....121
リモートプリンターとして使用する（NetWare 6/6.5J）.....124

4. 機器の監視

Web ブラウザーを使う.....127
トップページを表示する.....128
ユーザー認証が設定されているとき.....130
Web Image Monitor からのログインのしかた.....130
Web Image Monitor からのログアウトのしかた.....130
メニュー構成とモード.....131
管理者モードでアクセスする.....132
Web ブラウザーでの設定項目一覧.....133
Web ブラウザーでの設定.....133
Web Image Monitor のヘルプについて.....137
ダウンロードしたヘルプへのリンク（URL）.....137
Network Monitor for Client で IPP を使用する場合.....139
機器の状態をメールで通知する.....140
メール通知用アカウントの設定.....141
メールの認証について.....142
「自動メール通知」の設定.....144
「要求時メール通知」の設定.....145
要求メールの書式について.....146
telnet を使う.....147
操作の流れ.....147
access.....148
authfree.....149

autonet.....150
bonjour.....151
devicename.....152
dhcp.....153
dhcp6.....154
diprint.....154
dns.....155
domainname.....157
etherauth.....157
etherconfig.....158
help.....158
hostname.....158
ifconfig.....159
info.....160
ipp.....160
ipsec.....161
ipv6.....161
logout.....162
lpr.....162
netware.....163
passwd.....164
pathmtu.....165
prnlog.....165
route.....165
set.....167
show.....170
slp.....170
smb.....171
snmp.....171
sntp.....175
spoolsw.....176
ssdp.....176
ssh.....177
status.....178

syslog....178
upnp....178
web....178
wiconfig....179
wins....183
wsmfp....184
8021x....184
SNMP....187
ネットワーク経由で確認できる情報....188
機器の状態....188
機器情報....191
取得情報の内容....193
プリントジョブ情報....193
プリントログ情報....193
ネットワークインターフェースボードの情報....194
メッセージ一覧....199
システムログ情報....199

5. 宛先・ユーザーを登録する

アドレス帳について....211
ユーザー名や宛先を管理する....214
ワンタッチでメールを送信する....214
ワンタッチでファイルをフォルダーに直接送信する....214
成りすまし送信や、本機から共有フォルダーへの未承認アクセスを防ぐ....214
本機の利用者及び使用状況を管理する....215
名前の登録....216
名前を登録する....216
名前を変更する....217
登録番号を変更する....218
ユーザーを消去する....219
アドレス帳自動登録時に登録されているデータを利用する....221
ユーザーコード認証について....222
ユーザーコードを登録する....222
登録してあるユーザーコードを変更する....224

ユーザーコードを消去する.....225
ユーザー別にカウンターを表示する.....227
ユーザー別カウンターを印刷する.....227
ユーザーごとのカウンターを印刷する.....228
すべてのユーザーのカウンターを印刷する.....229
カウンターをクリアする.....230
ユーザーごとのカウンターをクリアする.....230
すべてのユーザーのカウンターをクリアする.....232
メール宛先について.....233
メール宛先を登録する.....233
登録したメール宛先を変更する.....235
登録したメール宛先を消去する.....236
フォルダーを登録する.....238
SMB のフォルダー宛先を登録する.....238
SMB のフォルダーを直接指定する.....241
SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する.....242
ログイン画面が表示されたとき.....242
SMB のフォルダー宛先を変更する.....243
プロトコルを変更するとき.....244
SMB のフォルダー宛先を消去する.....244
FTP のフォルダー宛先を登録する.....245
FTP のフォルダー宛先を変更する.....248
FTP の項目を変更する.....249
プロトコルを変更する.....250
FTP のフォルダー宛先を消去する.....250
NCP のフォルダー宛先を登録する.....251
NCP のフォルダーを直接指定する.....253
NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定する.....254
NCP のフォルダー宛先を変更する.....254
プロトコルを変更する.....256
NCP のフォルダー宛先を消去する.....256
宛先をグループに登録する.....258
グループを登録する.....258
宛先をグループに登録する.....259

グループを別のグループに登録する.....261
グループに登録されている宛先を確認する.....262
登録した宛先をグループから削除する.....263
登録したグループをグループから削除する.....265
グループ名を変更する.....266
グループを消去する.....268
認証保護について.....269
ユーザーに認証保護を設定する.....269
グループに認証保護を設定する.....271
認証について.....273
SMTP 認証.....273
LDAP 認証.....274

6. Windows の補足情報

Windows からのファイル直接印刷.....277
セットアップ.....277
IP アドレスの代わりにホスト名を使用する.....277
DNS を使用している場合.....278
DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合.....278
その他の場合.....278
印刷方法.....279
lpr.....279
ftp/sftp.....280

7. Mac OS X で使う

USB インターフェースを使う.....283
Mac OS X 10.5 以前の場合.....283
Mac OS X 10.5 以降の場合.....284
Rendezvous を使う.....286
Bonjour を使う.....287
Mac OS X 10.4 の場合.....287
Mac OS X 10.5 以降の場合.....288

8. UNIX で使う

セットアップ（UNIX）.....291
LPD の設定方法.....291

BSD ベースの LPD システム.....291
Solaris の LP システム.....293
オプション指定.....296
エミュレーションとプログラム.....297
給紙トレイ.....298
用紙サイズ.....299
用紙種類.....299
排紙トレイ.....299
印刷部数.....300
ソート部数.....300
解像度.....301
オプション指定の変更方法.....301
本機の状態表示.....302
表示する場合.....302
ファイルにコピーする場合.....302

9. 付録

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server を使用する場合.....303
動作環境.....303
制限.....303
DHCP を使用する.....305
AutoNet 機能を使用する.....305
WINS サーバーを使用する場合.....307
Web ブラウザーを使用する方法.....307
telnet を使用する方法.....308
ダイナミック DNS 機能を使用する.....309
更新処理について.....309
動作対象の DNS サーバー.....310
動作対象の DHCPv4 サーバー.....310
ダイナミック DNS 機能の設定方法.....311
使用上の注意.....312
ネットワークに ISDN 回線を接続している場合.....312
ネットワーク管理上の対応方法.....312
NetWare 環境で印刷する場合.....313

フォームフィードの設定.....313
バナーページの設定.....313
本機のリセット後に印刷するとき.....313
拡張無線 LAN ボード（オプション）ご使用時の注意.....314
IEEE 802.1X を設定する.....316
サイト証明書の導入手順.....316
機器証明書の導入手順.....317
イーサネットで IEEE 802.1X を使用する.....318
無線 LAN で IEEE 802.1X を使用する.....320
ネットワーク仕様.....323
対応インターフェース／フォーマット／プロトコル.....323
搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報.....324
expat について.....324
FreeBSD 4.6.2 について.....324
Heimdal.....325
ILU.....325
IPS™ print language emulations.....326
JPEG LIBRARY.....326
The m17n library.....326
MD4.....326
MD5.....327
nana.....327
NetBSD について.....328
Open LDAP.....338
Open SSH.....338
Open SSL.....343
racoon.....345
RSA BSAFE®.....345
Sablotron (Version 0.82).....345
samba.....346
SASL について.....352
SPX/IPX.....353
TIFF ライブラリー.....353
TrouSerS.....354

WPA Supplicant.....358
リサイクル部品について.....360
商標.....361
索引.....363

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書と画面で見る使用説明書（PDF）が用意されています。画面で見る使用説明書は付属の CD-ROM に収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『本機をお使いになる方へ』「画面で見る使用説明書の使いかた」を参照してください。

以下は本機で用意されている説明書の一覧です。

本機をお使いになる方へ（）

「安全上のご注意」について記載しています。本機のご利用前に必ずお読みください。

また、本機で使用できる機能の概要、機械を使うための準備、操作部の説明、文字入力方法、付属の CD-ROM のインストール方法、消耗品の交換などについても説明しています。

トラブル解決編（）

困ったときの対処方法などについて説明しています。

コピー機能＆ドキュメントボックス機能編（）

コピーを使うための設定、機能と操作方法、原稿の設定方法について説明しています。また、ドキュメントボックスの使用方法についても説明しています。

プリンター機能編（）

プリンターを使うための設定、機能と操作方法について説明しています。

スキャナー機能編（）

スキャナーを使うための設定、機能と操作方法について説明しています。

ネットワーク&システム初期設定編（）

ネットワーク環境で使う方法、機器の接続方法、および付属の CD-ROM に収録されたソフトウェアを使う方法について説明しています。また、システム初期設定の変更方法やアドレス帳の登録方法についても説明しています。

セキュリティー編（）

管理者向けの説明書です。本機のセキュリティー機能を活用することにより、機器の不正使用、データ改ざん、情報漏洩などを未然に防止することができます。

セキュリティー強化のために、最初に下記の設定を行うことをお勧めします。

- 機器証明書を導入する
- SSL を有効にする
- Web Image Monitor で、管理者のユーザー名とパスワードを変更する

詳しくは、『セキュリティー編』「まずはじめに」を参照してください。

セキュリティー強化機能や認証の設定を行うときには必ずお読みください。

PostScript 3 編（）

PostScript 3 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

RP-GL/2 編（）

RP-GL/2 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

RTIFF 編（）

RTIFF エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

その他の使用説明書

- クイックガイド（）

補足

- PDF 形式の使用説明書をご覧になるには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Reader が必要です。
- 使用説明書の分冊により、提供形態が異なります。
- RPDL エミュレーションについては、販売店にご確認ください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1. 複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

- 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- 日本や外国の郵便切手、印紙
- **（関係法律）**
    - 紙幣類似証券取締法
    - 通貨及証券模造取締法
    - 郵便切手類模造等取締法
    - 印紙等模造取締法
    - （刑法 第 148 条 第 162 条）

2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- 外国の紙幣、貨幣、銀行券
- 株券、手形、小切手などの有価証券
- 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
- **（関係法律）**
    - 刑法 第 149 条 第 155 条 第 159 条 第 162 条
    - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3. 著作権法で保護されているもの

著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

おことわり

本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。

本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

この本の読みかた

この説明書の読みかたや、使われているマークについて説明します。

正しくお使いいただくために

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『本機をお使いになる方へ』「安全上のご注意」をお読みください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。

各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

本書についてのご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

本書は、原則的にオプションを装着した状態の画面と外観イラストを使って説明しています。

本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

おもなオプションと略称

おもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
ロール給紙ユニット 1 段	1 段ロール紙トレイ
ロール給紙ユニット 2 段	2 段ロール紙トレイ
カセット CT6500	カセット紙トレイ
PS3 カード WG4/WG5	PS3 カード
拡張無線 LAN ボード タイプ 7	拡張無線 LAN ボード
拡張 1284 ボード タイプ B	拡張 1284 ボード
GigaBit イーサネットボード タイプ 7	拡張ギガビットイーサネットボード
メディアスロット タイプ W7	メディアスロット

補足

- その他のオプションについては、『本機をお使いになる方へ』「おもなオプションと略称」を参照してください。

画面について

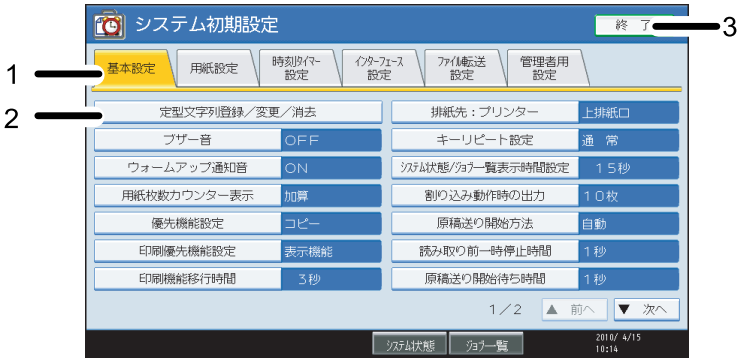
画面には、操作の状態、メッセージや機能のメニューが表示されます。

表示されているそれぞれの機能項目は、選択キーになっています。軽く押すことによって、項目を選んだり、指定したりすることができます。

機能項目が選択、または指定されたとき、登録／変更のように反転表示されます。機能項目が選択、または指定できないときは、ＯＫのようにうすく表示されます。

下記画面は［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押して初期設定メニュー画面を表示させ、［システム初期設定］を押したあとのものです。

システム初期設定メニューの画面を例に画面の操作方法を説明します。



CBC007

1. 各設定別のメニュータブが表示されます。設定／変更したい項目があるメニュータブを押して設定メニューを選択すると各設定項目が表示されます。
2. 設定項目が表示されます。設定／変更したい項目を選択すると設定画面が表示されます。
3. 初期設定を終了するときに押します。

初期設定を変更する

本機の運用に沿って、初期設定値や操作の条件を変更します。

補足

- 初期設定値の変更は、通常の機能とは別の機能で操作します。操作後は、通常の画面に戻してください。通常の画面への戻り方は、「初期設定の終了」を参照してください。
- 設定／変更した内容は、設定し直さないかぎり有効です。主電源スイッチを切ったり、［電源］キー、［リセット］キー、［予熱］キーを押しても取り消されません。

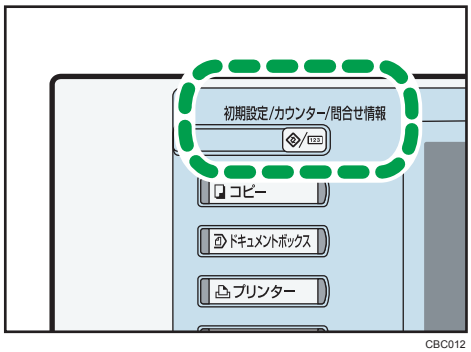
初期設定の変更

初期設定の変更方法を説明します。

重要

- **管理者認証が設定されているときは、管理者に問い合わせてください。**

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。



2. ［システム初期設定］を押します。

3. 設定する項目を選択します。

4. 画面のメッセージにしたがって初期設定値を変更し、［設定］を押します。

初期設定値の変更を中止し通常の画面に戻したいときは、［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- システム初期設定の各設定項目については「システム初期設定」を参照してください。
- 言語切り替えについては、『本機をお使いになる方へ』「表示言語切り替え」を参照してください。

- 連絡先の確認については、『本機をお使いになる方へ』「問い合わせ情報」を参照してください。
- カウンターの確認については、『本機をお使いになる方へ』「カウンター」を参照してください。

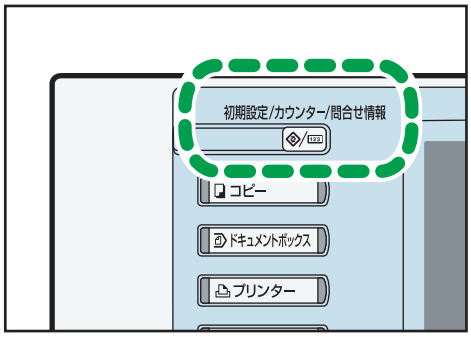
参照

- P.21「システム初期設定」

初期設定の終了

初期設定の終了方法を説明します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。



CBC012

補足

- 初期設定のメニュー画面の［終了］を押しても終了できます。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

1. システム初期設定

本機にある［システム初期設定］の各種項目について説明します。［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

基本設定

［システム初期設定］にある［基本設定］タブの各種項目について説明します。

定型文字列登録／変更／消去

各種設定で文字入力をするときによく使う文字列を登録します。

「.co.jp」や「いつもお世話になっております。」など、よく使われる文字列をあらかじめ登録しておくと、文字入力するときに便利です。

定型文字列は 40 件まで登録できます。

- 登録／変更
  1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
  2. ［システム初期設定］を押します。
  3. ［基本設定］タブが選択されていることを確認します。
  4. ［定型文字列登録／変更／消去］を押します。
  5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
  6. ［＊未登録］と表示されているキーを選択します。

     登録されている定型文字列を変更するときは、変更したい定型文字列のキーを選択します。
  7. 登録する文字列を入力し、［OK］を押します。

     登録する文字列は、全角 40 文字、半角 80 文字以内で入力してください。
  8. ［閉じる］を押します。
  9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
- 消去
  1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
  2. ［システム初期設定］を押します。
  3. ［基本設定］タブが選択されていることを確認します。
  4. ［定型文字列登録／変更／消去］を押します。
  5. ［消去］を押します。
  6. 消去したい定型文字列のキーを選択します。
  7. ［消去する］を押します。
  8. ［閉じる］を押します。

9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

ブザー音

キーを押したときのブザー音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

- 最小
- 小
- 中
- 大
- OFF

工場出荷時の設定：**中**

ウォームアップ通知音（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

予熱を解除したときや電源を入れたときに、コピーできるようになったことを知らせるウォームアップ通知音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**ON**

「ブザー音」を［OFF］に設定した場合、「ウォームアップ通知音」を［ON］に設定しても、ウォームアップ通知音は鳴りません。

用紙枚数カウンター表示（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー枚数の表示方法を加算表示にするか減算表示にするかを設定します。

- 加算
- 減算

工場出荷時の設定：**加算**

優先機能設定

電源を入れた直後やシステムオートクリアされたときに、優先的に表示する機能を設定します。

- コピー
- ドキュメントボックス
- プリンター
- スキャナー
- 拡張機能

工場出荷時の設定：**コピー**

印刷優先機能設定

印刷を優先する機能を設定します。

- 表示機能

画面に表示されている機能の印刷を優先します。

- コピー／ドキュメントボックス

  コピー／ドキュメントボックス機能の印刷を優先します。

- プリンター

  プリンター機能の印刷を優先します。

- 割り込み印刷

  ［割り込み動作時の出力］で設定した枚数で切り替えて印刷します。

- 予約順印刷

  予約されている順に印刷します。

工場出荷時の設定：**表示機能**

印刷機能移行時間

マルチアクセスで機能が切り替わるまでの待機時間を設定します。

1 枚ずつ設定を変えながらコピーをする機会が多い場合、印刷機能移行時間の値を大きくしておくと、途中で他機能の印刷が始まってしまうことを防止できます。

- 指定時間後
- 即時

工場出荷時の設定：**指定時間後：3 秒**

「指定時間後」を選択したときは、3-30 秒（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

「印刷優先機能設定」で「割り込み印刷」、または「予約順印刷」が設定されているときは無効になります。

排紙先：プリンター（プリンター機能のみ）

プリンター機能の排紙先を設定します。

排紙先は、プリンタードライバーで設定した排紙先が優先されます。

- 上排紙口
- 下排紙口

工場出荷時の設定：**上排紙口**

キーリピート設定

画面や操作部のキーを押しつづけたときに、操作をリピートするかしないかを設定します。

- リピートしない
- 通常
- リピート時間：中
- リピート時間：長

工場出荷時の設定：**通常**

システム状態／ジョブ一覧表示時間設定

システム状態画面とジョブ一覧画面の表示時間を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**：**15 秒**

［する］に設定したときは、表示させる時間を 10-999 秒の範囲で設定します。

割り込み動作時の出力

割り込み動作時の出力の枚数を設定します。

「1-20 枚」（1 枚単位）の範囲を、テンキーで入力します。

工場出荷時の設定：**10 枚**

原稿送り開始方法

原稿の搬送を自動的に開始するか、［スタート］キーを押した時点で搬送を開始するかを設定します。

- 自動
- スタートキー押下

工場出荷時の設定：**自動**

読み取り前一時停止時間

原稿挿入から読み取りを開始するまでの一時停止時間を設定します。原稿のななめ送りがくり返されるときや、原稿種類によって適切な時間設定をしてください。

「1-5 秒」（1 秒単位）の範囲で、テンキーで入力します。

工場出荷時の設定：**1 秒**

原稿送り開始待ち時間

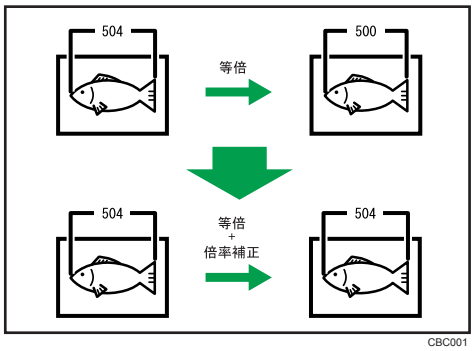
原稿をセットしてから搬送されるまでの時間（突き当て待機時間）を設定します。原稿のななめ送りがくり返されるときや、原稿種類によって適切な時間設定をしてください。

「0-5 秒」（1 秒単位）の範囲で、テンキーで入力します。

工場出荷時の設定：**1 秒**

倍率補正：コピー

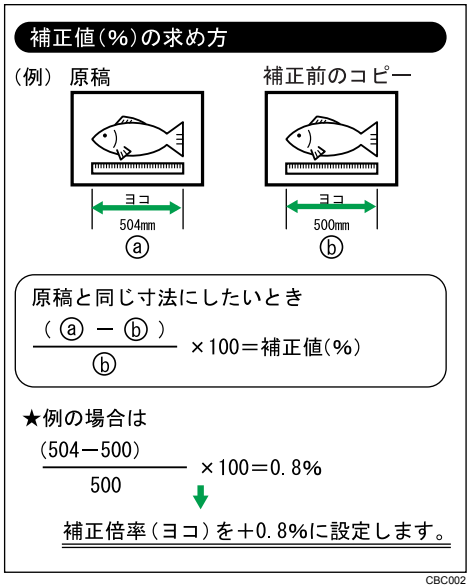
用紙の種類によっては、温度・湿度などの影響で用紙に伸び縮みが発生し、原稿とコピーの実測値が合わないことがあります。このような場合に、タテ・ヨコの補正倍率を設定します。用紙の種類（普通紙、再生紙、トレーシングペーパー、フィルム）ごとに設定できます。



「−1.0%〜+1.0%」（0.1%単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定：**0.0%**

補正倍率を設定するときは、原稿とコピーの画像の長さを測り、補正する倍率を割り出します。



倍率補正：プリンター

プリンター機能を使用するときに倍率補正を設定します。

用紙の種類によっては、温度・湿度などの影響で用紙に伸び縮みが発生し、原稿と出力紙の実測値が合わないことがあります。横の倍率がほぼ合い、縦の倍率がずれている場合に、縦の補正倍率を設定します。用紙の種類（普通紙、再生紙、トレーシングペーパー、フィルム）ごとに設定できます。

「−1.0%〜+1.0%」（0.1%単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定：**0.0%**

補正値の求め方については、「倍率補正：コピー」を参照してください。

1

画像ずれ補正

読み取り範囲ごとに画像のずれを補正します。

「−10〜+10」（1 単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定：**0**

プレビュー範囲設定

操作部画面で、ドキュメントボックス機能などで蓄積した画像のプレビューを表示する際に、表示する位置やサイズ、方向の初期値を設定します。用紙サイズにより画像全体をプレビュー表示できない場合に有効になります。

- 位置

  左上

  右上

  左下

  右下

工場出荷時の設定：**右下**

- サイズ

  小

  中

  大

工場出荷時の設定：**小**

- 向き

  縦方向

  横方向

工場出荷時の設定：**横方向**

印刷時優先画質

プリンター出力時に線画と階調のいずれを優先するか設定します。

- 線画優先
- 階調優先

工場出荷時の設定：**線画優先**

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」

用紙設定

［システム初期設定］にある［用紙設定］タブの各種項目について説明します。

重要

- **実際にセットした用紙のサイズと異なる設定を「用紙サイズ設定」ですると、サイズが正しく判断されません。この場合、用紙がつまったり画像がずれてコピーされることがあります。**

給紙トレイ優先設定：コピー（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー機能、およびドキュメントボックス機能で、優先する給紙トレイを設定します。

- トレイ 1
- トレイ 2
- トレイ 3

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

「トレイ 2」は 2 段ロール紙トレイ、またはカット紙トレイ装着時のみ表示されます。

「トレイ 3」は 2 段ロール紙トレイとカット紙トレイ装着時のみ表示されます。

カット紙トレイを装着している場合、工場出荷時の設定がカット紙トレイになります。

給紙トレイ優先設定：プリンター（プリンター機能のみ）

プリンター機能で、優先する給紙トレイを設定します。

- トレイ 1
- トレイ 2
- トレイ 3

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

「トレイ 2」は 2 段ロール紙トレイ、またはカット紙トレイ装着時のみ表示されます。

「トレイ 3」は 2 段ロール紙トレイとカット紙トレイ装着時のみ表示されます。

用紙サイズ設定：トレイ 1

給紙トレイ 1 にセットした用紙のサイズを設定します。

- A 系列

  「A0 幅（841mm）」「A1 幅（594mm）」「A2 幅（420mm）」「A3 幅（297mm）」「A4 幅（210mm）」

- B 系列

  「B1 幅（728mm）」「B2 幅（515mm）」「B3 幅（364mm）」「B4 幅（257mm）」

- 特殊サイズ

「880mm」「800mm」「707mm」「680mm」「660mm」「625mm」「620mm」「490mm」「440mm」

- Engineering

  「34inch」「22inch」「17inch」「11inch」「$8^1/_2$inch」

- Architecture

  「36inch/914mm」「24inch」「18inch」「12inch」「9inch」

- 特殊サイズ

  「30inch」

工場出荷時の設定：**A0 幅（841mm）**

「914mm」の用紙サイズをセットする場合は、「Architecture」にある「36inch/914mm」に設定してください。

用紙サイズ設定：トレイ 2

給紙トレイ 2 にセットした用紙のサイズを設定します。

- 2 段ロール紙トレイ装着時
  - A 系列

    「A0 幅（841mm）」「A1 幅（594mm）」「A2 幅（420mm）」「A3 幅（297mm）」「A4 幅（210mm）」

  - B 系列

    「B1 幅（728mm）」「B2 幅（515mm）」「B3 幅（364mm）」「B4 幅（257mm）」

  - 特殊サイズ

    「880mm」「800mm」「707mm」「680mm」「660mm」「625mm」「620mm」「490mm」「440mm」

  - Engineering

    「34inch」「22inch」「17inch」「11inch」「$8^1/_2$inch」

  - Architecture

    「36inch/914mm」「24inch」「18inch」「12inch」「9inch」

  - 特殊サイズ

    「30inch」

  工場出荷時の設定：**A0 幅（841mm）**

  「914mm」の用紙サイズをセットする場合は、「Architecture」にある「36inch/914mm」に設定してください。

- 1 段ロール紙トレイ、カット紙トレイ装着時

  「A3▯」「B4▯」「A4▯」「12×18▯」「11×17▯」「$8^1/_2$×14▯」「$8^1/_2$×13▯」「$8^1/_2$×11▯」

  工場出荷時の設定：**A3▯**

用紙サイズ設定：トレイ 3

給紙トレイ 3 にセットした用紙のサイズを設定します。

「A3▯」「B4▯」「A4▯」「12×18▯」「11×17▯」「$8^1/_2$×14▯」「$8^1/_2$×13▯」「$8^1/_2$×11▯」

工場出荷時の設定：**A3▯**

プリンター手差し用紙サイズ

手差しテーブルにセットした用紙のサイズを設定します。定形サイズまたは不定形サイズを選んで設定することができます。

「A0▯」「B1▯」「A1▯」「A1▭」「B2▯」「B2▭」「A2▯」「A2▭」「B3▯」「B3▭」「A3▯」「A3▭」「B4▯」「B4▭」「A4▯」「17×22▯」「17×22▭」「12×18▯」「12×18▭」「11×17▯」「11×17▭」「$8^1/_2$×14▯」「$8^1/_2$×11▯」「不定形サイズ指定」

不定形サイズは、縦 257.0〜2000.0mm、横 210.0〜914.4mm の範囲で設定できます。

用紙種類設定：用紙手差し

手差しテーブルにセットした用紙種類を設定します。

- 表示しない
- 再生紙
- トレーシングペーパー
- フィルム

工場出荷時の設定：**表示しない**

用紙種類設定：トレイ 1-3

給紙トレイ 1-3 にセットした用紙種類を設定します。プリンター機能の自動トレイ選択のときにも使用されます。

- 用紙種類
  - 表示しない
  - 再生紙
  - トレーシングペーパー
  - フィルム

  工場出荷時の設定：**表示しない**
- 自動用紙選択の対象
  - 対象
  - 対象外

  工場出荷時の設定：**対象**

「自動用紙選択の対象」で「対象外」を選択すると給紙トレイにカギマーク（1▯）が表示されます。

コピー機能では、「表示しない」と「再生紙」を選択したときのみ自動用紙選択の対象となります。ただし、「自動用紙選択の対象」で「対象外」を選択したときは自動用紙選択の対象になりません。

カット紙トレイを装着しているときは、カット紙トレイに「トレーシングペーパー」、「フィルム」を 設定することはできません。

紙厚設定：給紙トレイ

給紙トレイ 1〜3 にセットする用紙に応じた厚さを設定します。コピーの画像こすれやトレーシングペーパーの波打ちが発生したときに用紙の厚さを変更することで結果を改善できる場合があります。

- 普通紙：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：3
- 再生紙：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：3
- トレーシングペーパー：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：2
- フィルム：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：3

設定する番号は、次の表を参考にしてください。

紙厚設定：	1	2	3	4	5
普通紙	110g/m^2	90g/m^2	70g/m^2	60g/m^2	51g/m^2
再生紙	110g/m^2	90g/m^2	70g/m^2	60g/m^2	51g/m^2
トレーシングペーパー（第二原図用紙）	70〜90g/m^2	70〜80g/m^2	70〜80g/m^2	51〜70g/m^2	縁取り紙
フィルム	0.07〜0.095mm	0.07〜0.095mm	0.07〜0.095mm	和紙ポリエステル貼り合せ用紙（ケミカル和紙）	スーパーキモレック®SF70

「普通紙」で低温環境時（気温 10℃、湿度 15%）に使用する場合は、厚みを 3→2 に設定してください。

「トレーシングペーパー」で厚み 2 を設定していて波打ちが発生する場合は、厚み 1 を選択してください。

縁取り紙、和紙ポリエステル貼り合わせ用紙（ケミカル和紙）、スーパーキモレック®SF70 は、この設定で保証するものではありません。

使用する紙や環境により定着性が異なります。定着性を上げる場合は、厚みを 3→2→1 に設定してください。

薄紙などのこしの弱い用紙は、定着しわや画像ブレが発生する場合があります。この場合は、厚みを 3→4→5 に設定してください。

「トレーシングペーパー」で厚み 2 または 1 を選択した場合、「普通紙」「フィルム」から「トレーシングペーパー」に変更すると、コピーできるまで時間がかかることがあります（最長 2 分）。

「トレーシングペーパー」で厚み 2 または 1 を選択したとき、A1 サイズ以上での連続コピーでコピー間隔が開くことがあります。また、1 枚コピーでも次のコピーが開始されるまで約 1 分ほど時間がかかることがあります。

紙厚設定：用紙手差し

手差し給紙する用紙の厚さを設定します。コピーの画像こすれやトレーシングペーパーの波打ちが発生したときに用紙の厚さを変更することで結果を改善できる場合があります。

- 普通紙：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：**3**
- 再生紙：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：**3**
- トレーシングペーパー：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：**2**
- フィルム：1／2／3／4／5

  工場出荷時の設定：**3**

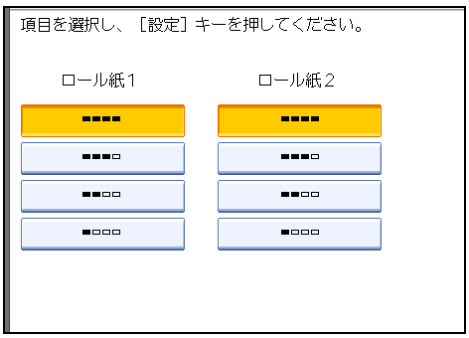
設定する番号については、「紙厚設定：給紙トレイ」の表を参照してください。

用紙残量設定

各給紙トレイに入れるロール紙の用紙残量表示がどのように変化するかを設定します。

ここで設定した用紙残量から、用紙の減り具合を元に残量を自動で検知します。 用紙をトレイにセットするたびに、再設定することをお勧めします。

新品＝ 150m のロール紙をセットするときは「新品（満杯）」に設定します。



- 新品（満杯）

- 残量：大（$^{3}/_{4}$）
- 残量：中（$^{2}/_{4}$）
- 残量：少（$^{1}/_{4}$）

工場出荷時の設定：**新品（満杯）**

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」

時刻タイマー設定

［システム初期設定］にある［時刻タイマー設定］タブの各種項目について説明します。

オートオフ時間設定

一定時間操作を行わなかったときに、節電のために自動的に電源が切れます。これを「オートオフ」といいます。オートオフ後の状態をオフモードまたはスリープモードといいます。

オートオフ機能が働くまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**14 分**

「10 秒-240 分」の範囲で時間をテンキーで入力します。

オフモード/ スリープモードからは約 2 分で使用できる状態になります。

エラー表示中のときなど、オートオフされないことがあります。

インストールされる Embedded Software Architecture アプリケーションの種類によって、スリープモードへの移行時間が設定よりも長くかかることがあります。

低電力移行時間設定

一定時間何も操作を行わなかったときに、低電力状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**7 分**

「1-240」（1 分単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

エラー表示中のときなどは、低電力の状態に移行されないことがあります。

予熱移行時間設定

一定時間操作を行わなかったときに、予熱状態になるまでの時間を設定します。

予熱状態から、コピーできる状態になるまでにはレベル 1 に設定してるときは約 3 秒、レベル 2 に設定しているときは約 15 秒かかります。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：1 分**

「する」を選択したときは、「10 秒-240 分」の範囲で時間をテンキーで入力します。

エラー表示中のときなどは、予熱の状態に移行されないことがあります。

システムオートリセット時間設定

一定時間操作を行わなかったとき、「優先機能」で設定した機能の画面に自動的に切り替えたり、割り込みコピーを解除する機能を「システムリセット」といいます。システムリセット機能が働くまでの時間を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、「10-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

コピー／ドキュメントボックスオートリセット時間設定（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー機能、ドキュメントボックス機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、「10-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

「しない」に設定すると、ユーザーコード入力画面への自動移行も行われなくなります。

プリンターオートリセット時間設定（プリンター機能のみ）

プリンター機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、「10-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

スキャナーオートリセット時間設定（スキャナー機能のみ）

スキャナー機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、「10-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

「しない」に設定すると、ユーザーコード入力画面への自動移行も行われなくなります。

年月日設定

システム時計の年月日を設定します。

「年」「月」「日」の切り替えは、[←]、[→] を押してカーソルを移動させます。

「年」「月」「日」はテンキーで入力します。

時刻設定

システム時計の時刻を設定します。

時刻は 24 時間制（1 秒単位）で入力します。

「時」「分」「秒」の切り替えは、[←]、[→] を押してカーソルを移動させます。

「時」「分」「秒」はテンキーで入力します。

オートログアウト時間設定

ログインして一定時間画面の操作を行わなかったときに、自動的にログアウトします。これは「オートログアウト」といいます。

オートログアウト機能が働くまでの時間を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：180 秒**

「する」を選択したときは、「60-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」

インターフェース設定

［システム初期設定］にある［インターフェース設定］タブの各種項目について説明します。

ネットワーク

［インターフェース設定］タブにある［ネットワーク］の各種項目について説明します。

本体 IPv4 アドレス

ネットワーク上における本機の IPv4 アドレスとサブネットマスクの設定方法を選択します。

［指定］を選択した場合、［本体 IPv4 アドレス］と［サブネットマスク］を「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

［指定］を選択した場合、［本体 IPv4 アドレス］は、ネットワーク内の他の機器の IPv4 アドレスと重複しないように設定してください。

物理アドレス（MAC アドレス）も表示されます。

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定
  - 本体 IPv4 アドレス：11.22.33.44
  - サブネットマスク：0.0.0.0

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

IPv4 ゲートウェイアドレス

別のネットワークのパソコン、または機器とのやり取りを行うとき、ゲートウェイとなるホストやルーターのアドレスです。（機器とのやり取りとは、印刷や情報の取得などです。）

別のネットワークのパソコン、または機器から本機を使用する場合に設定してください。

工場出荷時の設定：**0.0.0.0**

アドレスは「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

本体 IPv6 アドレス

ネットワーク上における本機の IPv6 アドレスを表示します。

- リンクローカルアドレス

  設定されている本機のリンクローカルアドレスを表示します。
- 手動設定アドレス

  設定されている本機の手動設定アドレスを表示します。

- ステートレスアドレス：1-5

  設定されているステートレスアドレスを表示します。

IPv6 ゲートウェイアドレス

ネットワーク上における本機の IPv6 ゲートウェイアドレスを表示します。

IPv6 ステートレスアドレス自動設定

IPv6 ステートレスアドレス自動設定の有効/無効を設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**有効**

DNS 設定

DNS サーバーの運用について設定します。

［指定］を選択した場合、DNS サーバーの IPv4 アドレスを「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定
  - DNS サーバー 1：0.0.0.0
  - DNS サーバー 2：0.0.0.0
  - DNS サーバー 3：0.0.0.0

  IPv4 アドレスを設定後［接続テスト］を押すと、DNS サーバーへの接続テストが実行されます。設定した DNS サーバーに接続できることを確認してください。

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

DDNS 設定

ダイナミック DNS について設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**有効**

IPsec

本機の IPsec 機能の有効／無効を設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**無効**

IPsec の詳細については、管理者に問い合わせてください。

ドメイン名

ドメイン名を設定します。

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定

  ドメイン名は半角英数 63 文字以内で入力してください。

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

WINS 設定

WINS サーバーの運用について設定します。

［使用する］を選択した場合、WINS サーバーの IPv4 アドレスを「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

DHCP を使用している場合は、［スコープ ID］を設定します。

［スコープ ID］は、半角文字で入力してください。

- 使用する
  - プライマリー WINS サーバー:0.0.0.0
  - セカンダリー WINS サーバー:0.0.0.0
  - スコープ ID
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用する**

プライマリー WINS サーバーアドレス、セカンダリー WINS サーバーアドレスに「255.255.255.255」を入力しないでください。

有効プロトコル

ネットワーク上で使用するプロトコルを選択します。

- IPv4：有効／無効
- IPv6：有効／無効
- NetWare:有効／無効
- SMB:有効／無効

工場出荷時の設定：

- IPv4：**有効**
- IPv6：**無効**
- NetWare：**無効**
- SMB：**有効**

NCP 配信時プロトコル

NCP 配信に使用するプロトコルを設定します。

- IPX 優先
- TCP/IP 優先
- IPX のみ

- TCP/IP のみ

工場出荷時の設定：**TCP/IP 優先**

「IPX のみ」または「TCP/IP のみ」は、接続ができない場合もプロトコルを切り替えません。

NetWare が無効の場合は、TCP/IP しか使えません。

NW フレームタイプ

NetWare のフレームタイプを選択します。

- 自動選択
- Ethernet II
- Ethernet 802.2
- Ethernet 802.3
- Ethernet SNAP

工場出荷時の設定：**自動選択**

SMB コンピューター名

SMB コンピューター名を設定します。

最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

"*+,/:;<>=?[¥]|.およびスペースは入力できません。

RNP および rnp ではじまるコンピューター名を設定することはできません。

アルファベットは大文字を使用してください。

SMB ワークグループ

SMB ワークグループを設定します。

最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

"*+,/:;<>=?[¥]|.およびスペースは入力できません。

アルファベットは大文字を使用してください。

イーサネット速度

イーサネットの通信速度を選択します。

ご使用の環境に合わせた速度を選択してください。通常は［自動選択］を選択してください。

- 自動選択
- 10Mbps 全二重固定
- 10Mbps 半二重固定
- 100Mbps 全二重固定
- 100Mbps 半二重固定

工場出荷時の設定：**自動選択**

		本機側の設定				
		10Mbps 全二重固定	10Mbps 半二重固定	100Mbps 全二重固定	100Mbps 半二重固定	自動選択
接続先	10Mbps 全二重固定	○	–	–	–	○
	10Mbps 半二重固定	–	○	–	–	–
	100Mbps 全二重固定	–	–	○	–	○
	100Mbps 半二重固定	–	–	–	○	–
	自動選択*	○	–	○	–	○

*接続先によって用語は変わります。

○ 接続可

– 接続不可

CFS005

ネットワークインターフェース選択

拡張無線 LAN ボードを装着したときに、無線 LAN でネットワーク接続するかイーサネット経由でネットワーク接続するかを選択します。

- イーサネット
- 無線 LAN

本機に拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

工場出荷時の設定：**イーサネット**

イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

Ping コマンド実行

ping コマンドで、IP アドレスを使用してネットワーク接続を確認します。

接続に失敗した場合、次のことを確認した後、再度 ping コマンドを実行してください。

- 本機の IPv4 が「有効」になっていることを確認してください。
- 指定した IP アドレスの機器が、ネットワークに接続されていることを確認してください。
- 指定した IP アドレスの機器に、同時アクセスされることがあります。

SNMPv3 通信許可設定

SNMPv3 の暗号化通信を設定します。

- 暗号化のみ

- 暗号化/平文

工場出荷時の設定：**暗号化/平文**

［暗号化のみ］を設定する場合、本機に暗号パスワードが設定されている必要があります。

SSL/TLS 通信許可設定

SSL/TLS の暗号化通信を設定します。

- 暗号文のみ
- 暗号文優先
- 暗号文/平文

工場出荷時の設定：**暗号文優先**

［暗号文のみ］を設定する場合、本機にサーバー証明書が導入されている必要があります。

ホスト名

ホスト名を設定します。

ホスト名は半角英数 63 文字以内で入力してください。

先頭末尾にハイフンを入力してホスト名を設定することはできません。

RNP または rnp ではじまるホスト名を設定することはできません。

本体名

本体名を設定します。

最大 31 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

イーサネット用 IEEE 802.1X 認証

イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**無効**

IEEE 802.1X 認証については、「IEEE 802.1X を設定する」を参照してください。

IEEE 802.1X 認証初期化

IEEE 802.1X の設定値を初期化します。

- 初期化しない
- 初期化する

IEEE 802.1X 認証については、「IEEE 802.1X を設定する」を参照してください。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」
- P.316「IEEE 802.1X を設定する」

パラレルインターフェース

［インターフェース設定］タブにある［パラレルインターフェース］の各種項目について説明します。

［パラレルインターフェース］は、本機に拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

パラレルタイミング

パラレルインターフェースの制御信号のタイミングを設定します。

- ACK inside
- ACK outside
- STB down

工場出荷時の設定：**ACK outside**

パラレル通信速度

パラレルインターフェースの通信速度を設定します。

- 高速
- 標準

工場出荷時の設定：**高速**

セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

- HIGH
- LOW

工場出荷時の設定：**HIGH**

インプットプライム

インプットプライム信号が送られてきたときに、プライム信号を有効にするかしないかを設定します。

- 有効
- 無効

工場出荷時の設定：**無効**

双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

「しない」に設定したときは、双方向通信機能が働きません。また、Windows の自動検知によるプリンタードライバーのインストールも行われません。

信号線制御

印刷時のエラーの処理を設定します。

- ジョブ受付優先
- プリンター優先

工場出荷時の設定：**ジョブ受付優先**

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」

無線 LAN

［インターフェース設定］タブにある［無線 LAN］の各種項目について説明します。［無線 LAN］は、本機に拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

各設定は同時に実施してください。

通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

- 802.11 アドホックモード
- インフラストラクチャーモード

工場出荷時の設定：**インフラストラクチャーモード**

SSID 設定

インフラストラクチャーモードと 802.11 アドホックモードのときに無線 LAN のネットワークを識別する SSID を設定します。

SSID で使用できる文字は、半角英数字と表示可能な半角記号で 32 バイト以内です。大文字と小文字も区別されます。

802.11 アドホックモードで空白が指定されているときは、「ASSID」で表示されます。

アドホックチャンネル

802.11 アドホックモードを選択したときに使用するチャンネルを設定します。

使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。

- IEEE 802.11 b/g（2.4GHz）を使用する場合

  1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14

- IEEE 802.11a（5GHz）を使用する場合

  36、40、44、48

工場出荷時の設定：**11**

セキュリティー方式選択

無線 LAN の暗号化を設定します。

［WEP］に設定したときは、必ず WEP キーを入力します。［WPA］に設定したときは、暗号方式と認証方式を設定します。

「WPA」はインフラストラクチャーモードを選択したときに設定できます。

- WEP
- WPA
  - WPA 暗号方式

    「TKIP」または「CCMP（AES）」を選択します。

  - WPA 認証方式

    「WPA-PSK」、「WPA」、「WPA2-PSK」または「WPA2」を選択します。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

WEP キーは、64bitWEP を使用する場合 16 進数では 10 桁、半角英数では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、半角英数では 13 桁の文字列が使用できます。

「WPA-PSK」または「WPA2-PSK」を選択したときは、PSK を入力します。PSK は半角英数を 8-63 文字の範囲で入力します。

電波状態

インフラストラクチャーモードのときに接続したアクセスポイントとの電波状態を表示します。

電波状態は、［電波状態］を押したときに測定されます。

設定値初期化

無線 LAN の設定を工場出荷時の設定に戻します。

- 初期化しない
- 初期化する

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

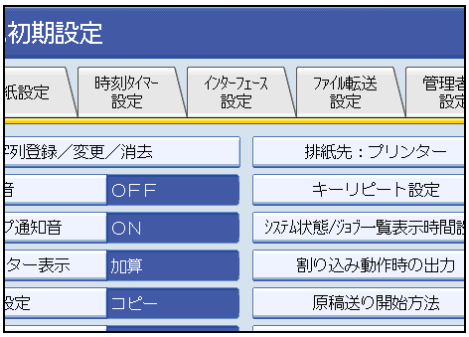
- P.18「初期設定を変更する」

リスト印刷

ご使用のネットワーク環境に関する項目を確認できます。

インターフェース設定リストは現在のネットワーク設定や、情報について記載しています。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［インターフェース設定］を押します。



4. ［リスト印刷］を押します。

5. ［スタート］キーを押します。

   インターフェース設定リストが出力されます。

6. ［終了］を押します。

7. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

ファイル転送設定

［システム初期設定］にある［ファイル転送設定］タブの各種項目について説明します。

SMTP サーバー

SMTP サーバー名を設定します。

DNS が有効な場合は、ホスト名を入力します。

DNS が無効な場合は、SMTP サーバーの IPv4 アドレスを入力します。

工場出荷時の設定：ポート番号：25

［サーバー名］では、スペースが使用できません。

［ポート番号］は、「1-65535」の範囲でテンキー入力し、［#］を押します。

SMTP 認証

SMTP 認証（PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5）を設定します。

SMTP サーバーへのメール送信時に、ユーザー名とパスワードを入力して認証を行うことで、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを強化することができます。

SMTP サーバーが認証を必要とする場合は、［SMTP AUTH］を［使用する］に設定し、［ユーザー名］、［メールアドレス］、［パスワード］、パスワードの［暗号化］方法を設定します。

- 使用する
  - ユーザー名

    ［ユーザー名］では、スペースが使用できません。SMTP サーバーの種類によっては、realm の指定が必要な場合があります。そのときは、ユーザー名の後に@を付加して、"ユーザー名@realm"と入力してください。
  - メールアドレス
  - パスワード

    ［パスワード］では、スペースが使用できません。
  - 暗号化

    自動：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

    する：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

    しない：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。

  工場出荷時の設定：**自動**
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用しない**

POP before SMTP

POP 認証（POP before SMTP）を設定します。

この機能は、本機が IPv4 を使用してネットワークに接続している場合のみ使用できます。IPv6 を使用している場合は使用できません。

SMTP サーバーにメールを送信する前に、まず POP サーバーに接続して認証を行うことで、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを強化することができます。

POP 認証を行う場合は、［POP before SMTP］を［する］に設定します。［認証後待機時間］で指定した時間後に、SMTP サーバーにメールを送信します。

［する］を選択した場合は、［POP3/IMAP4 設定］で［サーバー名］を入力します。また、［メール通信ポート設定］で［POP3］のポート番号を確認してください。

- する
  - 認証後待機時間：**300 ミリ秒**

    ［認証後待機時間］は、「0-10000」（1 ミリ秒単位）の範囲でテンキーで入力します。
  - ユーザー名

    ［ユーザー名］は、スペースが使用できません。
  - メールアドレス
  - パスワード

    ［パスワード］では、スペースが使用できません。
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

受信プロトコル

自動メール通知をする場合の受信プロトコルを設定します。

- POP3
- IMAP4
- SMTP

工場出荷時の設定：**POP3**

POP3/IMAP4 設定

メール送受信をする場合に、POP3/IMAP4 サーバー名を設定します。

ここで設定した POP3 サーバー名は［POP before SMTP］で使用されます。

- サーバー名

  DNS が有効な場合は、ホスト名を入力します。

  DNS が無効な場合は、POP3、または IMAP4 サーバーの IPv4 アドレスを入力します。

  POP3、または IMAP4 の［サーバー名］では、スペースが使用できません。
- 暗号化
  - 自動

POP サーバーの設定に合わせ、パスワードの暗号化を自動設定します。

- する

  パスワードを暗号化します。

- しない

  パスワードを暗号化しません。

工場出荷時の設定：**自動**

管理者メールアドレス

スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しない場合の送信者アドレスになります。

また、メール送信機能で以下の場合の送信者アドレスになります。

- 送信者を入力せず、本機のメールアドレスが登録されていない場合。
- 入力した送信者が本機のアドレス帳に登録されていない場合で、本機のメールアドレスが登録されていない場合。

エラー通知メールの Cc:、通信管理情報メールの To:としても使用されます。

スキャナー文書のメール送信機能で、［送信者名自動指定］が［しない］の場合は、送信者を指定してください。

メール通信ポート設定

メールを送受信する場合に使用するサーバーのポート番号を設定します。また、ここで設定した POP3 のポート番号は、［POP before SMTP］で使用されます。

工場出荷時の設定：

- POP3：**110**
- IMAP4：**143**

「1-65535」の範囲でテンキー入力し、［#］を押します。

メール受信間隔時間設定

POP3、IMAP4 サーバーに対して、自動メール通知で間隔（分）を指定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：15 分**

［する］を選択した場合、「2-1440」（1 分単位）の範囲でテンキーで入力します。

受信メールサイズ制限

自動メール通知のメールを受信する場合に、メールサイズの制限を設定します。

工場出荷時の設定：**2MB**

「1-50」（1MB 単位）の範囲でテンキーで入力します。

サーバー側メール保持

自動メール通知のメールを受信する場合に、メールを POP3/IMAP4 サーバーに保持するかを設定します。

- しない
- すべて
- エラー時のみ

工場出荷時の設定：**しない**

送信初期ユーザー名・パスワード

スキャナー機能で読み取った画像データを Windows および Mac OS の共有フォルダー、FTP サーバー、または NetWare サーバーに直接送信する場合、ユーザー名とパスワードを設定します。

ここで設定したユーザー名とパスワードは、全ユーザーで共有するユーザー名とパスワードとして使用します。

- SMB 送信ユーザー名
- SMB 送信パスワード
- FTP 送信ユーザー名*1
- FTP 送信パスワード*1
- NCP 送信ユーザー名
- NCP 送信パスワード*1

*1 全角文字は入力できません。

送信メール本文登録／変更／消去

スキャナーで読み取った画像を添付したメールの本文を設定します。

- 送信メール本文を登録／変更する
  1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
  2. ［システム初期設定］を押します。
  3. ［ファイル転送設定］を押します。
  4. ［送信メール本文登録／変更／消去］を押します。
  5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
  6. ［＊未登録］または変更したい送信メール本文を押します。
  7. ［変更］を押します。
  8. 名称を入力し、［OK］を押します。
  9. ［編集］を押します。

     改行する場合は、いったん［OK］を押してメール本文の画面に戻り、「編集行選択」の［▼］を押して改行してください。
  10. 文章を入力し、［OK］を押します。

文章は、1 行を全角 40 文字、半角 80 文字以内で入力してください。5 行まで使用できます。

11. ［設定］を押します。
12. ［閉じる］を押します。
13. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

- 送信メール本文を消去する
  1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
  2. ［システム初期設定］を押します。
  3. ［ファイル転送設定］を押します。
  4. ［送信メール本文登録／変更／消去］を押します。
  5. ［消去］を押します。
  6. 消去したい送信メール本文を選択します。

     消去するかどうかの確認画面が表示されます。
  7. ［消去する］を押します。
  8. ［閉じる］を押します。
  9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

送信者名自動指定

メール送信時に使用する送信者を指定するかしないかを設定します。

- する

  ［する］を選択した場合、指定されたメールアドレスが From:に使用されます。送信者のメールアドレスを指定しない場合、管理者メールアドレスが From:に使用されます。

  指定したメールアドレスが本機のアドレス帳に登録されていない場合は、本機のメールアドレスが From:に使用されます。また、本機のメールアドレスがない場合は、管理者メールアドレスが From:に使用されます。
- しない

  ［しない］を選択した場合、指定されたメールアドレスが From:に使用されますが、送信者のメールアドレスを指定しない場合は、メール送信できません。

工場出荷時の設定：**しない**

スキャナー再送信間隔時間

スキャナーで読み取ったデータをメールサーバーへ送信できなかったとき、再度配信するまでの時間の間隔を設定します。

工場出荷時の設定：**300 秒**

「60-900 秒」（1 秒単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

スキャナー機能のための設定項目です。

スキャナー再送信回数

スキャナーで読み取ったデータをメールサーバーへ再度配信するとき、最大何回まで再配信するかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：3 回**

［する］を選択した場合、「1-99」（1 回単位）の範囲でテンキーで入力します。

スキャナー機能のための設定項目です。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、「初期設定を変更する」を参照してください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」

管理者用設定

［システム初期設定］にある［管理者用設定］タブの各種項目について説明します。

管理者用設定は、管理者の方が設定する項目です。設定内容や設定の変更を行うときは、管理者に問い合わせてください。

管理者認証を設定して使用することをお勧めします。

アドレス帳登録／変更／消去

本機を使用するユーザーの情報や本機からスキャナー機能を使って送信する宛先を登録、変更、消去します。アドレス帳の設定方法についての詳細は、「アドレス帳について」を参照してください。

- 登録／変更

  ユーザーを新規登録、または登録したユーザー情報を変更します。登録／変更できる項目は次のとおりです。

  - 登録情報

    名前、キー表示名、ヨミガナ、登録番号、見出し選択

  - 認証情報

    ユーザーコード、SMTP 認証、フォルダー認証、LDAP 認証、使用できる機能

  - 認証保護

    使用対象、宛先保護、文書保護

  - メールアドレス

    メールアドレス

  - フォルダー

    プロトコル、サーバー名、パス名、日本語文字コード、ポート番号、接続種別

  - 登録先グループ

    登録先グループ名

- 消去

  ユーザーを消去します。

アドレス帳の登録は 2000 件まで登録できます。

ユーザーコードの登録は 500 件まで登録できます。

Web Image Monitor からもアドレス帳の登録／変更／消去をすることができます。

グループ登録／変更／消去

複数のメール宛先を 1 つのグループとして登録することができます。

相手先ごとにグループを作り登録しておくと便利です。

グループの設定方法についての詳細は、「宛先をグループに登録する」を参照してください。

- 登録／変更

  グループを新規登録します。登録／変更できる項目は次のとおりです。

  - 登録情報

    グループ名、キー表示名、ヨミガナ、登録番号、見出し選択
  - 登録済ユーザー／グループ

    登録済ユーザー／グループ名
  - 認証保護

    宛先保護
  - 登録先グループ

    登録先グループ名
- 消去

  グループを消去します。

グループは 100 件まで登録できます。

Web Image Monitor からもグループの登録／変更／消去をすることができます。

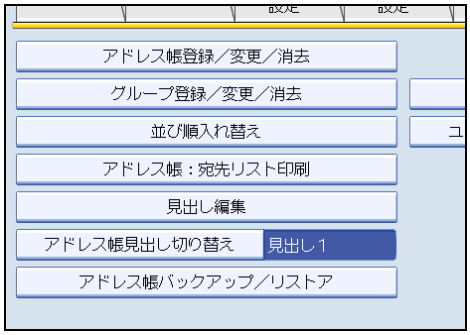
並び順入れ替え

登録したユーザーの並び順を入れ替えます。

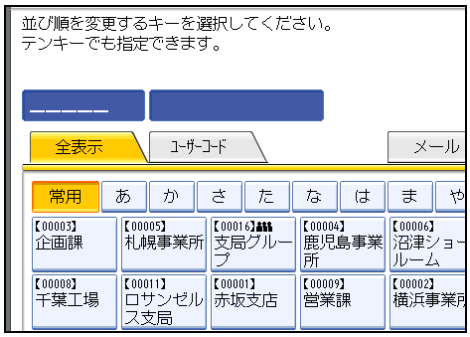
同じ見出し内での並び順入れ替えはできますが、見出しをまたいだ移動はできません。

（例：登録されているユーザー「企画課」を「常用」から「か」へ移動することはできません。）

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［並び順入れ替え］を押します。

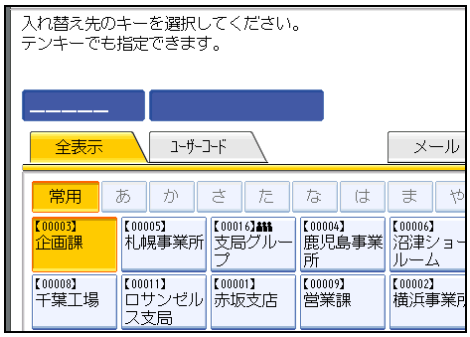


5. 移動させたいユーザーのキーを押します。



テンキーで登録番号を入力しても指定できます。

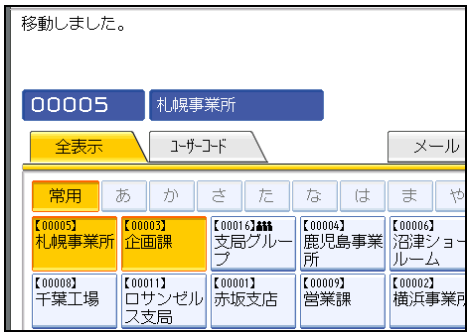
6. 移動したい場所にあるユーザーのキーを押します。



移動させたいユーザーのキーが選択した場所に移動し、選択した場所にあるユーザーのキーが前後に移動します。

移動させたいユーザーのキーを前に向かって移動させる場合、移動先にあるユーザーのキーは後に移動します。

移動させたいユーザーのキーを後に向かって移動させる場合、移動先にあるユーザーのキーは前に移動します。



テンキーで登録番号を入力しても指定できます。

アドレス帳：宛先リスト印刷

アドレス帳に登録した宛先のリストを印刷します。

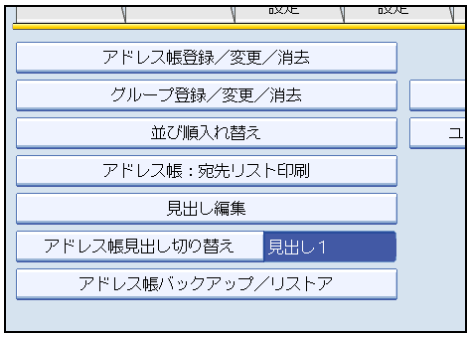
- 見出し 1 順印刷
  アドレス帳の宛先リストを見出し 1 の順番で印刷します。
- 見出し 2 順印刷
  アドレス帳の宛先リストを見出し 2 の順番で印刷します。
- 見出し 3 順印刷
  アドレス帳の宛先リストを見出し 3 の順番で印刷します。
- グループ宛先印刷
  グループ宛先リストを印刷します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳：宛先リスト印刷］を押します。
5. 印刷形式を選択します。
6. ［スタート］キーを押します。
   リストが印刷されます。

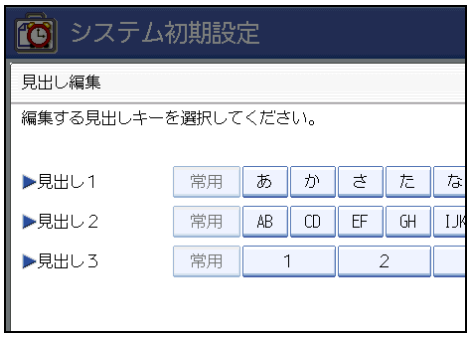
見出し編集

目的のユーザーコードを探しやすいように見出しの名称を編集します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［見出し編集］を押します。



5. 名称を変更する見出しキーを押します。



6. 変更する名称を入力し、[OK] を押します。
7. [設定] を押します。
8. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

アドレス帳見出し切り替え

ユーザーコードを選択するときに、表示する見出しを選択します。

- 見出し 1（五十音順）
- 見出し 2（アルファベット順）
- 見出し 3（5 分類用）

工場出荷時の設定：**見出し 1**（五十音順）

アドレス帳バックアップ／リストア

SD カードを使って本機のアドレス帳データの保存や、保存したアドレス帳データの本機への復元を行います。

- バックアップ

  本機のアドレス帳データを SD カードに保存します。
- リストア

  SD カードに保存したアドレス帳データを復元します。
- フォーマット

  SD カードをフォーマットします。
- メディア情報取得

  SD カードの空き容量やデータの内容などが表示されます。

SD カードの取り付けについては、サービス実施店に確認してください。

復元すると、本機に保存されているアドレス帳は上書きされます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。

アドレス帳のバックアップ／リストアは、Web Image Monitor でも設定できます。詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

アドレス帳自動登録時データ利用設定

「Windows 認証」、「LDAP 認証」におけるアドレス帳自動登録時に、登録されているユーザーと同じ認証管理に適応する設定にします。

- データを利用する
- データを利用しない

工場出荷時の設定：**データを利用しない**

「データを利用する」を選択した場合は、登録されている登録番号を指定します。

Windows 認証、LDAP 認証についての詳細は、管理者に問い合わせてください。

カウンター表示／印刷

各種カウンターの表示と印刷を行います。

- カウンター表示/印刷

  機能ごとのカウンターを表示します。（各機能には、トータル、コピー、プリンター、送信トータル、スキャナー送信があります。）

- カウンター一覧印刷

  機能ごとのカウンター使用量の一覧を印刷します。

ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷

ユーザーによる各種カウンターの表示や印刷をしたり、カウンターの数値を「0」に戻したりします。

5 件以上登録しているときは［▲前へ］［▼次へ］で全カウンターを表示します。

「ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷」で表示したカウンターは、「カウンター表示／印刷」で表示されるカウンターと数値が異なることがあります。

- ユーザー別一覧印刷

  ユーザーごとのカウンターの使用量を印刷します。

- ユーザー別クリア

  ユーザーごとの各カウンターの数値を 0 に戻します。

- 全ユーザー一覧印刷

  すべてのユーザーのカウンターの使用量を印刷します。

- 全ユーザークリア

  すべてのユーザーのカウンターの数値を 0 に戻します。

- ページ内全選択

  ページ内の全ユーザーを選択します。

印刷方法についての詳細は、「ユーザー別カウンターを印刷する」を参照してください。

ユーザー認証管理

- ユーザーコード認証

各機能ごとにユーザーコード認証による使用者の限定と、使用量の管理ができるように設定します。

ユーザーコード認証を行う場合は、ユーザーコードを登録してください。

「プリンター自動登録」を設定することにより、ドライバー側で入力したコードごとに印刷のログをとることができます。

プリンタージョブ認証についての詳細は、管理者に問い合わせてください。

制限する機能：

- コピー
- ドキュメントボックス
- プリンター
- プリンター自動登録
- スキャナー
- プリンタージョブ認証：

  「すべて」、「簡易（限定）」、「簡易」
- 限定対象：

  「変更」

- ベーシック認証
- Windows 認証
- LDAP 認証
- 認証しない

工場出荷時の設定：**認証しない**

ベーシック認証、Windows 認証、LDAP 認証についての詳細は、管理者に問い合わせてください。

拡張認証管理

詳細は管理者に問い合わせてください。

管理者認証管理

詳細は管理者に問い合わせてください。

管理者登録／変更

詳細は管理者に問い合わせてください。

セキュリティー強化

セキュリティー機能を利用するかしないかを設定します。詳細は管理者に問い合わせてください。

ドキュメントボックス蓄積文書自動消去

ドキュメントボックスに保存された文書を、一定日数経過後に自動的に消去するかどうかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：3 日**

「する」に設定した場合は、設定以後に保存した文書が対象になります。

「しない」を選択したときは自動消去されません。

「する」を選択したときは、「1-180」（1 日単位）の範囲で日数をテンキーで入力します。

工場出荷時の設定では、ドキュメントボックスに蓄積された文書は、蓄積してから 3 日目（72 時間後）に消去されます。

ドキュメントボックス蓄積文書一括消去

ドキュメントボックスに保存されている文書をすべて消去します。

パスワードが設定されている文書も消去されます。

確認画面が表示されます。消去する場合は「消去する」を押します。

LDAP サーバー登録／変更／消去

LDAP サーバーを登録することによってスキャナー機能から文書をメールで送信するときに、LDAP サーバー上のアドレス帳からメールアドレスを調べることができます。

- 名前
- サーバー名
- 検索開始位置
- ポート番号
- SSL
- 認証
- ユーザー名
- パスワード
- レルム名
- 日本語文字コード
- 検索条件
- 任意検索条件

LDAP 検索を行うためには、「サーバー名」、「検索開始位置」、「ポート番号」、「認証」、「日本語文字コード」、「検索条件」の項目を必ず設定してください。お使いのサーバー環境により、設定が必要な項目が異なります。お使いのサーバー環境をご確認の上、必要に応じて設定してください。

LDAP サーバーを利用したい場合には、管理者用設定の「LDAP 検索」で［する］を選択しておきます。

LDAP サーバーの対応バージョンは Ver2.0 と Ver3.0 です。ダイジェスト認証を使用できるのは、LDAP Ver.3.0 のみです。

LDAP サーバーの登録方法については、「LDAP サーバーを設定する」を参照してください。

LDAP 検索

LDAP サーバーを検索で使用するかしないかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

「しない」に設定したときは、検索画面に［LDAP 検索］が表示されなくなります。

サービスモード移行禁止設定

詳細は管理者に問い合わせてください。

ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワークセキュリティーレベル

詳細は管理者に問い合わせてください。

メモリー自動消去設定

詳細は管理者に問い合わせてください。

メモリー全消去

詳細は管理者に問い合わせてください。

ログ一括消去

詳細は管理者に問い合わせてください。

ログ転送設定

詳細は管理者に問い合わせてください。

USB ポート固定

USB ポートで新規接続時にプリンタードライバーを再度インストールするかしないかを設定します。

- しない
- レベル 1
- レベル 2

工場出荷時の設定：**しない**

「レベル 1」に設定した場合、プリンタードライバーをインストール済みの PC に本機と同一の機種を USB 接続するとき、新規のプリンタードライバーをインストールせずに機器を使用できます。

「レベル 2」に設定する場合は、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。

レルム登録／変更／消去

1

Kerberos 認証で使用するレルムを登録します。

- レルム名
- KDC サーバー名
- ドメイン名

レルムを登録するには、「レルム名」「KDC サーバー名」を必ず設定してください。

レルム登録についての詳細は、「レルムを設定する」を参照してください。

機器データ暗号化設定

詳細は管理者に問い合わせてください。

参照

- P.18「初期設定を変更する」
- P.63「LDAP サーバーを設定する」
- P.70「レルムを設定する」
- P.211「アドレス帳について」
- P.227「ユーザー別カウンターを印刷する」
- P.258「宛先をグループに登録する」
- P.221「アドレス帳自動登録時に登録されているデータを利用する」

LDAP サーバーを設定する

LDAP サーバーの設定方法を説明します。

LDAP サーバーの対応バージョンは Ver.2.0 と Ver.3.0 です。

LDAP サーバーを登録すると、スキャナー機能から文書をメールで送信するときに、LDAP サーバー上のアドレス帳からメールアドレスを調べることができます。

LDAP 検索を行うためには下記の項目を必ず設定してください。

- サーバー名
- 検索開始位置
- ポート番号
- 認証
- 日本語文字コード
- 検索条件

お使いのサーバー環境によって、上記以外で設定が必要な項目は異なります。お使いのサーバー環境をご確認の上、必要に応じて設定してください。

認証方法の選択で［Kerberos 認証］を選択したときは、「ユーザー名」、「パスワード」、「レルム名」を必ず設定してください。

認証方法の選択で［ダイジェスト認証］または［平文認証］を選択したときは、「ユーザー名」と「パスワード」を必ず設定してください。

ダイジェスト認証を使用できるのは、LDAP Ver.3.0 のみです。

Kerberos 認証を使用する場合は、あらかじめレルムを登録しておく必要があります。レルムの登録方法については、「レルムを設定する」を参照してください。

また、LDAP 検索を行うためには、管理者用設定の「LDAP 検索」で［する］を選択する必要があります。

参照

- P.70「レルムを設定する」

LDAP サーバーを登録する

LDAP サーバーを登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。
4. ［LDAP サーバー登録／変更／消去］を押します。

5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. ［＊未登録］を押します。

7. 「名前」の［変更］を押します。

LDAP 検索のサーバー選択画面で表示する LDAP サーバーの名称を任意の名前で登録します。

8. 名前を入力します。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. ［OK］を押します。

10. 「サーバー名」の［変更］を押します。

LDAP サーバーのホスト名または IPv4 アドレスを登録します。

11. サーバー名を入力します。

12. ［OK］を押します。

13. 「検索開始位置」の［変更］を押します。

検索を開始するルートフォルダーを選択します。ここで選択したフォルダーの中に登録されているメールアドレスが検索の対象となります。

14. 検索開始位置を入力します。

例えば、ABC 商事の販売部を検索対象とした場合、「dc=販売部、o=ABC 商事」と入力します。（ここではアクティブディレクトリを例にして説明します。dc が組織名、o が会社名です。）

お使いのサーバー環境によっては、検索開始位置の登録が必要になります。登録が必要な場合、何も指定せずに検索を行うとエラーとなります。お使いのサーバーの環境をご確認の上、入力してください。

15. ［OK］を押します。

16. 「ポート番号」の［変更］を押します。

LDAP サーバーと通信をする際に使用するポート番号を指定します。お使いの環境にあわせたポートを指定してください。

17. ポート番号をテンキーで入力し、［#］を押します。

SSL を［利用する］に設定するとポート番号が「636」に自動で切り替わります。

18. 「SSL」の［利用する］を押します。

LDAP サーバーと通信を行う際に SSL 通信を行います。

SSL 通信を行うには、LDAP サーバー側が SSL に対応している必要があります。

SSL を［利用する］に設定するとポート番号が「636」に自動で切り替わります。

SSL を利用しない場合、セキュリティー上で問題が発生することがあります。詳細は管理者に問い合わせてください。

19. ［次へ］を押します。

20. 認証方法を選択します。

［Kerberos 認証］、［ダイジェスト認証］、［平文認証］、［しない］のいずれかを押します。

LDAP サーバーに検索要求を行うにあたり、代表者アカウント等を用いて認証することができます。

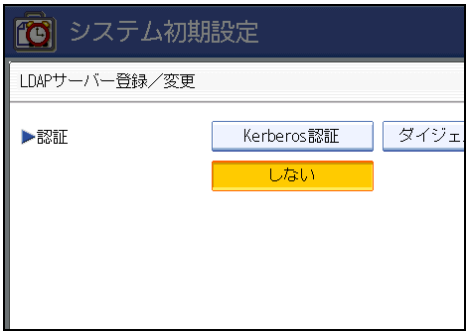
認証を行うにはお使いの LDAP サーバーの認証設定にあわせる必要があります。サーバーの設定をご確認の上、本機の設定を行ってください。

［Kerberos 認証］は、パスワードが解読できないように加工して KDC サーバーへ送信し、認証は KDC サーバーで行います。［ダイジェスト認証］は、本機でパスワードが解読できないように加工して LDAP サーバーへ送信します。［平文認証］はパスワードの加工を行わずにそのまま LDAP サーバーへ送信します。［ダイジェスト認証］は LDAP サーバーのバージョン 3.0 のみ設定できます。

［しない］を選択したときは、手順 26 へ進みます。

［ダイジェスト認証］、［平文認証］を選択したときは、手順 21-手順 24 を操作してから手順 26 へ進みます。

［Kerberos 認証］を選択したときは、手順 21-手順 25 を操作してから手順 26 へ進みます。



21. ユーザー名の［変更］を押します。

認証設定を［Kerberos 認証］、［ダイジェスト認証］、または［平文認証］に設定したときに、代表者アカウントのユーザー名とパスワードを入力することができます。個人ごと、検索の度に認証するときは、入力しないでください。

22. ユーザー名を入力し、［OK］を押します。

お使いのサーバー環境によりユーザー名の指定方法は異なります。お使いのサーバー環境をご確認の上、入力してください。

（例として Domain Name¥User Name、User Name@Domain Name、CN＝名前、OU＝部署名、DC＝サーバー名のような指定方法があります。）

1

23.「パスワード」の［変更］を押します。

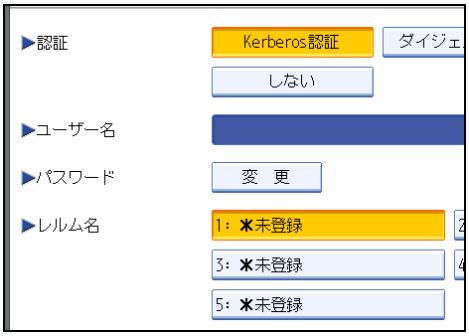
24. パスワードを入力し、［OK］を押します。

このユーザー名とパスワードは LDAP サーバーに接続する際の代表者認証に必要です。

本機のアドレス帳に登録したユーザー名、パスワードを使用して LDAP サーバーに接続することもできます。詳しくは「LDAP 認証」を参照してください。

［ダイジェスト認証］、［平文認証］を選択したときは、手順 26 に進みます。

25.［Kerberos 認証］を選択したときは、レルム名を選択します。



26.［接続テスト］を押します。

LDAP サーバーに接続を行い、正しく接続できるかを確認することができます。認証設定に応じて認証の確認も行います。

LDAP サーバーへの接続を試行します。

27.［確認］を押します。

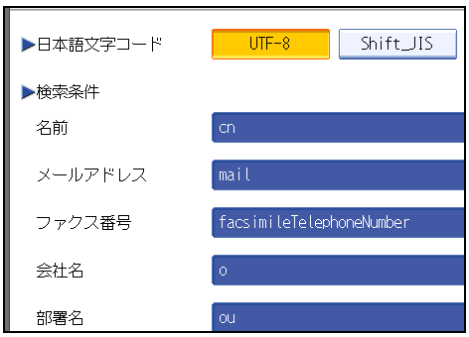
接続に失敗したときは、設定を確認し、再度接続テストをしてください。

本機能では、検索条件、検索開始位置の確認は行いません。

28.［▼次へ］を押します。

29. 使用する「日本語文字コード」を選択します。

LDAP サーバーで運用されている日本語文字コードを設定します。



30. 検索条件の［名前］、［メールアドレス］、［ファクス番号］、［会社名］、［部署名］で検索するために必要な項目の［変更］を押します。

代表的な検索のキーワードとして属性を入力することができます。入力した属性を使って、LDAP サーバーのアドレス帳から検索を行います。

31. 属性を入力し、［OK］を押します。

サーバー環境により属性の値が異なることがあります。お使いのサーバー環境でご確認の上、属性を設定してください。

各項目とも入力しないで登録することはできますが、空白の場合、LDAP サーバーのアドレス帳からその属性での検索はできません。

32. ［▼次へ］を押します。

33. 任意検索条件の「属性」の［変更］を押します。

34. 属性を入力し、［OK］を押します。

あらかじめ用意した名前・メールアドレス・ファクス番号・会社名・部署名以外のキーワードで検索したい場合には、使用の LDAP サーバーに登録されたそのキーワードに対応する属性と検索時に操作部に表示される表示名をここで任意に設定します。例えば、社員番号で検索したい場合には属性に“employeeNo”、キー表示名には“社員番号”を登録します。

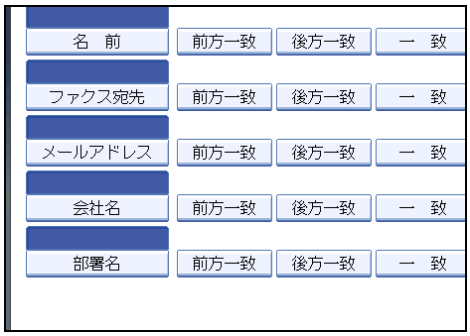
サーバー環境により属性の値が異なることがあります。お使いのサーバー環境でご確認の上、属性を設定してください。

35.「キー表示名」の［変更］を押します。

36. キー表示名を入力し、［OK］を押します。

登録した［キー表示名］は LDAP 検索のキーワードとして表示されます。

- キー表示名登録なし



- キー表示名登録有り

［属性］、［キー表示名］の両方を登録しないと検索画面にキーは表示されません。任意検索を行いたいときは必ず両方とも登録してください。

37. ［設定］を押します。

38. ［閉じる］を押します。

39. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

参照

- P.274「LDAP 認証」

登録した LDAP サーバーを変更する

登録した LDAP サーバーを変更します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。

4. ［LDAP サーバー登録／変更／消去］を押します。

5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. 変更したい LDAP サーバーを選択します。

7. 変更が必要な項目を設定します。

8. 変更が終わったら［設定］を押します。

9. ［閉じる］を押します。

10. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

登録した LDAP サーバーを消去する

登録した LDAP サーバーを消去します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。
4. ［LDAP サーバー登録／変更／消去］を押します。
5. ［消去］を押します。
6. 消去したい LDAP サーバーを選択します。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

レルムを設定する

Kerberos 認証で使用するレルムを設定します。

レルムとは Kerberos 認証を使用したネットワークエリアです。

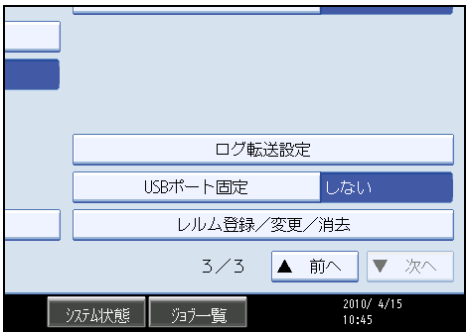
レルムを登録するには、「レルム名」、「KDC サーバー名」を必ず設定してください。お使いのネットワーク環境をご確認のうえ、必要に応じて「ドメイン名」を設定してください。

レルムは 5 つまで登録できます。

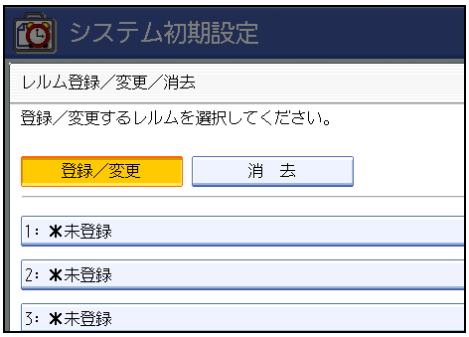
レルムを登録する

レルムを登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。
4. ［レルム登録／変更／消去］を押します。

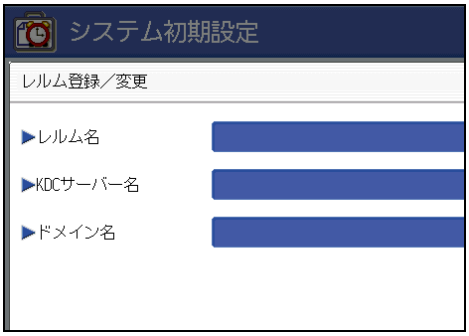


5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。



6. ［＊未登録］を押します。

7. 「レルム名」の［変更］を押します。



8. レルム名を入力し、［OK］を押します。

レルム名の代わりにホスト名も入力できます。

レルム名では全角文字が使用できません。

9. 「KDC サーバー」の［変更］を押します。

10. KDC サーバー名を入力し、［OK］を押します。

KDC サーバー名の代わりにホスト名または IPv4 アドレスも入力できます。

KDC サーバー名では全角文字が使用できません。

11. 「ドメイン名」の［変更］を押します。

12. ドメイン名を入力し、［OK］を押します。

ドメイン名の代わりにホスト名も入力できます。

ドメイン名では全角文字が使用できません。

13. ［設定］を押します。

14. ［閉じる］を押します。

15. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

登録したレルムを変更する

登録したレルムの設定内容を変更します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。
4. ［レルム登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. 設定内容を変更したいレルム名を押します。
7. レルム名を変更するときは、「レルム名」の［変更］を押します。
8. ［後退］または［全消去］を押して、レルム名を入力し直します。
9. ［OK］を押します。
10. KDC サーバー名を変更するときは、「KDC サーバー名」の［変更］を押します。
11. ［後退］または［全消去］を押して、KDC サーバー名を入力し直します。
12. ［OK］を押します。
13. ドメイン名を変更するときは、「ドメイン名」の［変更］を押します。
14. ［後退］または［全消去］を押して、ドメイン名を入力し直します。
15. ［OK］を押します。
16. ［設定］を押します。
17. ［閉じる］を押します。
18. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

登録したレルムを消去する

登録したレルムを消去します。

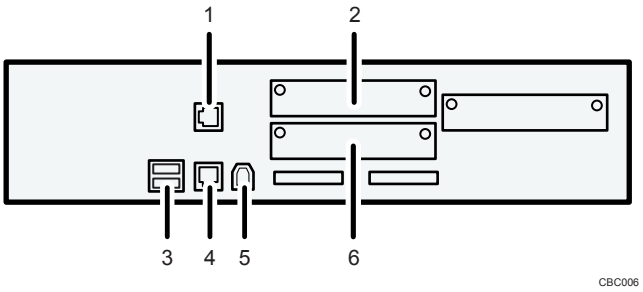
1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。
4. ［レルム登録／変更／消去］を押します。
5. ［消去］を押します。
6. 消去したいレルム名を選択します。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. 接続と設定

ネットワークの接続方法および、ネットワークの環境設定について説明します。

インターフェースを接続する

本機のインターフェースを確認し、使用するネットワーク環境に応じた方法で接続します。本機の接続とネットワークの設定について説明します。



1. **GigaBit イーサネットインターフェース**

   拡張ギガビットイーサネットボード(オプション)を装着して、1000BASE-T、100BASE-TX、または 10BASE-T のケーブルを差し込むコネクターです。本機をネットワーク接続するときに使います。

2. **IEEE 1284 インターフェース**

   IEEE 1284 のケーブルを差し込むコネクターです。拡張 1284 ボード（オプション）を装着して、IEEE 1284 インターフェースで接続するときに使います。

3. **USB ホストインターフェース**

   USB のケーブルを差し込むコネクターです。本機に IC カード認証装置やメディアスロットなどを取り付けるときに使います。

4. **イーサネットインターフェース**

   100BASE-TX または 10BASE-T のケーブルを差し込むコネクターです。本機をネットワーク接続するときに使います。

5. **USB2.0 インターフェース**

   USB2.0 のケーブルを差し込むコネクターです。本機を USB 接続するときに使います。

6. **無線 LAN インターフェース**

   拡張無線 LAN ボード（オプション）を装着して、無線 LAN を使用してネットワークに接続する際のインターフェースです。本機で使用できる無線 LAN インターフェースは IEEE 802.11a、IEEE 802.11b、IEEE 802.11g です。

補足

- イーサネットインターフェース、GigaBit イーサネットインターフェースは同時に使用することができません。拡張ギガビットイーサネットボードを装着したときは、ネットワークケーブルを GigaBit イーサネットインターフェースに接続します。

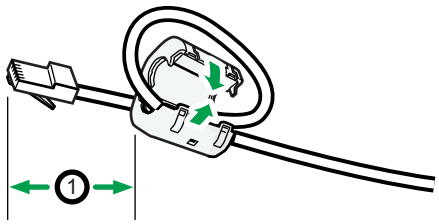
イーサネットインターフェースに接続する

イーサネットインターフェースには、10BASE-T または 100BASE-TX のケーブルを接続します。

重要

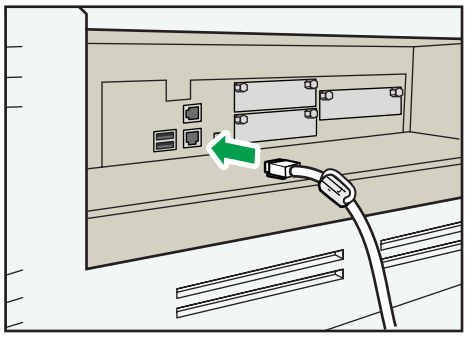
- 主電源スイッチが入っているときは、切ってください。

1. イーサネットケーブルの先端から 3cm①の位置で、イーサネットケーブルを輪状にし、同梱のフェライトコアを装着します。



BZU007

2. 本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。
3. イーサネットケーブルを、本機のイーサネットインターフェースに接続します。



CBB010

4. イーサネットケーブルのもう一方をネットワーク接続用の Hub などに接続します。
5. 本機の主電源スイッチを入れます。

CBB003

1. 10BASE-T 動作時は LED が緑色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 100BASE-TX 動作時は消灯します。
2. 100BASE-TX 動作時は LED が橙色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 10BASE-T 動作時は消灯します。

補足

- 主電源スイッチの入れかた、切りかたについては、『本機をお使いになる方へ』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『プリンター機能編』「印刷するための準備」を参照してください。

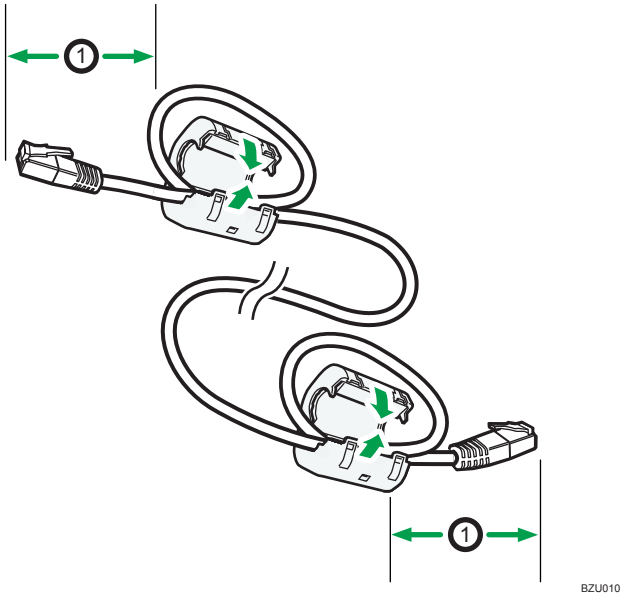
GigaBit イーサネットインターフェースに接続する

GigaBit イーサネットインターフェースには、1000BASE-T、100BASE-TX または 10BASE-T ケーブルを接続します。

重要

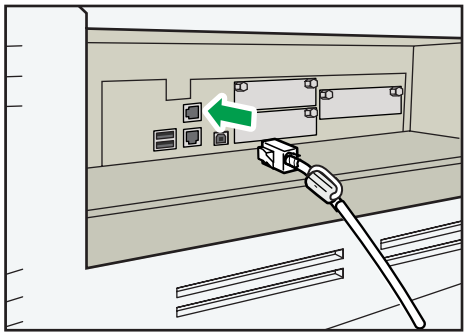
- **主電源スイッチが入っているときは、切ってください。**

1. イーサネットケーブルの両端にそれぞれ先端から 3cm①の位置でイーサネットケーブルを輪状にし、同梱のフェライトコアを装着します。



2. 本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。

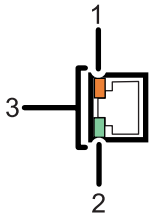
3. イーサネットケーブルを、本機の GigaBit イーサネットインターフェースに接続します。



CBB011

4. イーサネットケーブルのもう一方をネットワーク接続用の Hub などに接続します。

5. 本機の主電源スイッチを入れます。



CBB012

1. 100BASE-TX 動作時は LED が橙色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 10BASE-T 動作時は消灯します。
2. 10BASE-T 動作時は LED が緑色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 100BASE-TX 動作時は消灯します。
3. 1000BASE-T 動作時は LED が両方点灯します。

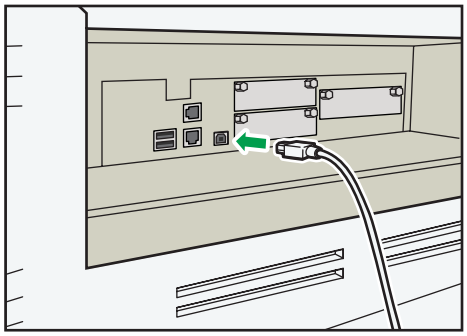
補足

- 主電源スイッチの入れかた、切りかたについては、『本機をお使いになる方へ』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『プリンター機能編』「印刷するための準備」を参照してください。

USB（B コネクター）インターフェースに接続する

USB（B コネクター）の接続を行います。

1. USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルを本機の USB 2.0（B コネクター）インターフェースに接続します。



CBB009

2. パソコンに USB 2.0 用インターフェースケーブルを接続します。

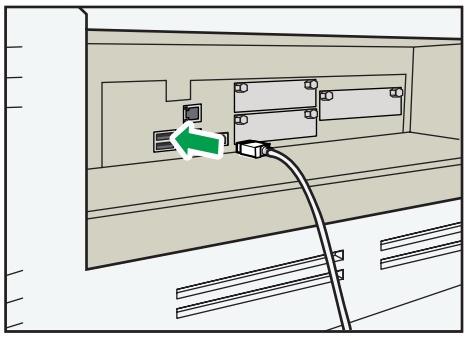
補足

- USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルは、ご使用になるパソコンに合わせて別途お買い求めください。
- Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、Mac OS X 10.3.3 以降の環境に対応しています。
  - Macintosh で使用する場合、PS3 カードが本機に増設されている必要があります。Mac OS X 10.3.3 以降のサポート速度は USB 2.0 相当です。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『プリンター機能編』「印刷するための準備」を参照してください。

USB ホストインターフェースに接続する

USB 接続を行います。

1. USB インターフェースケーブルを本機の USB ホストインターフェースに接続します。



CBB014

2. USB インターフェースケーブルのもう一方を IC カード認証装置や、メディアスロットなどに接続します。

補足

- USB ホストインターフェースケーブルは、ご使用になる機器に合わせて別途お買い求めください。

IEEE 1284 インターフェースに接続する

拡張 1284 ボードには、IEEE 1284 用インターフェースケーブルを接続します。

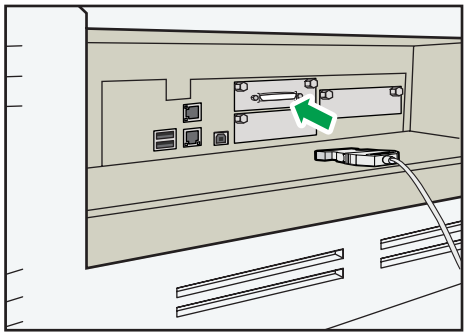
重要

- **主電源スイッチが入っているときは、切ってください。**

1. パソコンの電源を切ります。

2. 本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。

3. IEEE 1284 用インターフェースケーブルを本機の IEEE 1284 インターフェースに接続します。



CBC005

IEEE 1284 用インターフェースケーブルと本機の IEEE 1284 インターフェースの接続には、変換アダプターが必要になる場合があります。

4. パソコンに IEEE1284 用インターフェースケーブルを差し込み、固定します。

パソコンに接続するコネクターの形状をよく確かめ、確実に固定してください。

5. 本機の主電源スイッチを入れます。

6. パソコンの電源を入れます。

Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 をご利用の場合、パソコンの電源をいれたときにプリンタードライバーのインストール画面が表示されることがあります。この場合は画面上の［キャンセル］をクリックしてください。

補足

- 主電源スイッチの入れかた、切りかたについては、『本機をお使いになる方へ』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『プリンター機能編』「印刷するための準備」を参照してください。

無線 LAN インターフェースの接続を確認する

無線 LAN インターフェースの接続を確認します。

補足

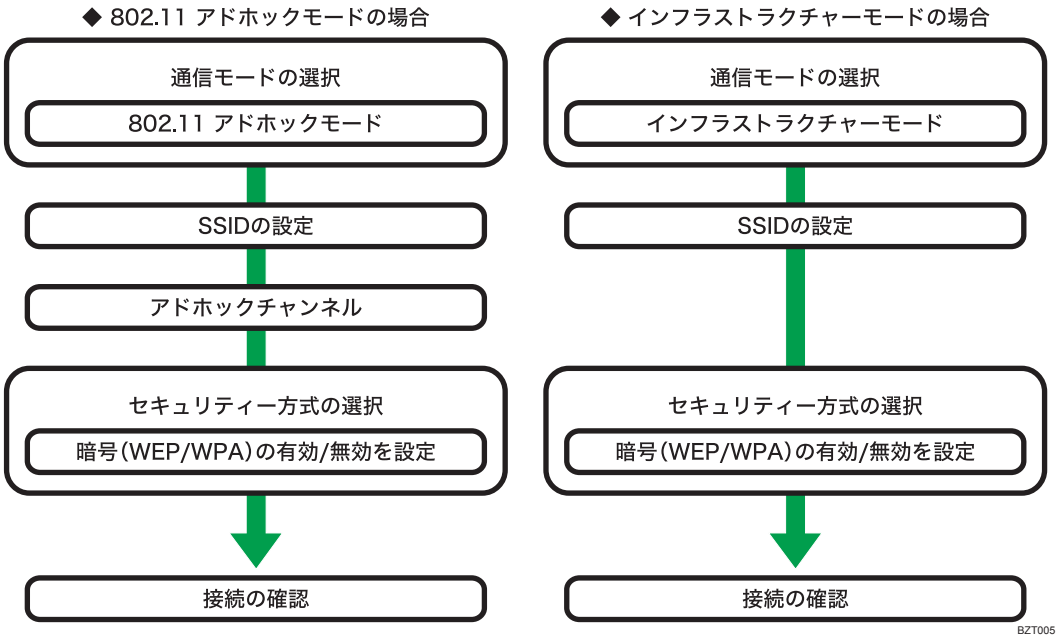
- 本機の IPv4 アドレスとサブネットマスク、または IPv6 アドレスの設定を確認してください。
- 本機の操作部から IPv4 アドレスとサブネットマスクを設定する方法は、「ネットワーク」を参照してください。
- 無線 LAN で本機をネットワークに接続するにはインターフェース設定／ネットワークの［ネットワークインターフェース選択］で、［無線 LAN］を選択してください。

参照

- P.36「ネットワーク」

セットアップの流れ

無線 LAN のセットアップは、［システム初期設定］の［インターフェース設定］で［無線 LAN］を選択して、次の流れで行います。



補足

- Windows XP 標準のドライバーかユーティリティーを使用して Windows XP の無線 LAN クライアントと通信する場合、通信モードは「802.11 アドホックモード」に設定してください。
- 通信モードで「802.11 アドホックモード」を選択したときは、「アドホックチャンネル」でチャンネルを設定してください。使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。設定方法についての詳細は、「無線 LAN」を参照してください。
- セキュリティー方式は、「WEP」または「WPA」から設定します。「WPA」を設定するには、通信モードを「インフラストラクチャーモード」に設定する必要があります。設定方法の詳細は、「無線 LAN」を参照してください。
- セキュリティー方式で「WPA」を選択した場合は、「WPA-PSK」、「WPA」、「WPA2-PSK」、「WPA2」の中から選択します。また、「WPA-PSK」「WPA2-PSK」を選択した場合は PSK を入力します。「WPA」「WPA2」を選択した場合は認証方式や機器証明書の導入などの設定が必要です。設定方法についての詳細は、「IEEE 802.1X を設定する」を参照してください。
- 本体操作部での設定方法、設定項目についての詳細は、「無線 LAN」を参照してください。
- 本体操作部以外からの設定方法は、「本機以外からの設定方法」を参照してください。
- システム設定リストを印刷して、設定した内容を確認できます。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。

参照

- P.43「無線 LAN」
- P.101「本機以外からの設定方法」
- P.316「IEEE 802.1X を設定する」

電波状態を確認する

インフラストラクチャーモードを使用しているとき、本機の操作部で電波状態を確認することができます。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［インターフェース設定］を押します。
4. ［無線 LAN］を押します。
5. ［電波状態］を押します。

   電波状態が表示されます。
6. 確認が終了したら［閉じる］を押します。
7. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

   通常画面に戻ります。

ネットワークの設定

システム初期設定で行うネットワーク設定項目を説明します。使用する機能や、接続するインターフェースに応じて各設定項目を設定してください。

重要

- **設定にあたっては必ず管理者が行うか、管理者の立ち会いのもとで行ってください。**

プリンターを使うには

プリンターを使用するために必要な設定項目を説明します。

イーサネット

プリンターをイーサネットケーブルで使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	NCP 配信時プロトコル	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	NW フレームタイプ	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SMB コンピューター名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SMB ワークグループ	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット速度	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」

無線 LAN

プリンターを無線 LAN で使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	NCP 配信時プロトコル	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	NW フレームタイプ	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SMB コンピューター名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SMB ワークグループ	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体名	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード	必須
インターフェース設定／無線 LAN	SSID 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	アドホックチャンネル	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	セキュリティー方式選択	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［無線 LAN］と［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」

メール送信機能を使うには

メールを送信するために必要な設定項目を説明します。

イーサネット

メール送信機能をイーサネットケーブルで使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」「ファイル転送設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット速度	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェイス設定/ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	必要に応じて設定
ファイル転送設定	SMTP サーバー	必須
ファイル転送設定	SMTP 認証	必要に応じて設定
ファイル転送設定	POP before SMTP	必要に応じて設定
ファイル転送設定	受信プロトコル	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
ファイル転送設定	POP3/IMAP4 設定	必要に応じて設定
ファイル転送設定	管理者メールアドレス	必要に応じて設定
ファイル転送設定	メール通信ポート設定	必要に応じて設定
ファイル転送設定	送信メール本文登録／変更／消去	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信間隔時間	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信回数	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。
- ［POP before SMTP］を［する］に設定する場合は、［受信プロトコル］と［POP3/IMAP4 設定］も設定してください。
- ［POP before SMTP］を［する］に設定する場合は、［メール通信ポート設定］にある［POP3］のポート番号を確認してください。

参照

- P.36「インターフェース設定」
- P.47「ファイル転送設定」

無線 LAN

メール送信機能を無線 LAN で使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」「ファイル転送設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード	必須
インターフェース設定／無線 LAN	SSID 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	アドホックチャンネル	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	セキュリティー方式選択	必要に応じて設定
ファイル転送設定	SMTP サーバー	必須
ファイル転送設定	SMTP 認証	必要に応じて設定
ファイル転送設定	POP before SMTP	必要に応じて設定
ファイル転送設定	受信プロトコル	必要に応じて設定
ファイル転送設定	POP3/IMAP4 設定	必要に応じて設定
ファイル転送設定	管理者メールアドレス	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
ファイル転送設定	メール通信ポート設定	必要に応じて設定
ファイル転送設定	送信メール本文登録／変更／消去	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信間隔時間	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信回数	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。
- ［POP before SMTP］を［する］に設定する場合は、［受信プロトコル］と［POP3/IMAP4 設定］も設定してください。
- ［POP before SMTP］を［する］に設定する場合は、［メール通信ポート設定］にある［POP3］のポート番号を確認してください。

参照

- P.36「インターフェース設定」
- P.47「ファイル転送設定」

ファイル送信機能を使うには

ファイルを送信するために必要な設定項目を説明します。

イーサネット

ファイル送信機能をイーサネットケーブルで使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」「ファイル転送設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット速度	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	必要に応じて設定
ファイル転送設定	送信初期ユーザー名・パスワード	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信間隔時間	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信回数	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。

- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」
- P.47「ファイル転送設定」

無線 LAN

ファイル送信機能を無線 LAN で使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」「ファイル転送設定」を参照してください。

見出し	設定項	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定

見出し	設定項	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード	必須
インターフェース設定／無線 LAN	SSID 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	アドホックチャンネル	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	セキュリティー方式選択	必要に応じて設定
ファイル転送設定	送信初期ユーザー名・パスワード	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信間隔時間	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信回数	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［無線 LAN］と［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」
- P.47「ファイル転送設定」

ネットワーク配信機能を使うには

ネットワークに配信するために必要な設定項目を説明します。

イーサネット

ネットワーク配信機能をイーサネットケーブルで使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」「ファイル転送設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット速度	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信間隔時間	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信回数	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」
- P.47「ファイル転送設定」

無線 LAN

ネットワーク配信機能を無線 LAN で使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」「ファイル転送設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード	必須
インターフェース設定／無線 LAN	SSID 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	アドホックチャンネル	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	セキュリティー方式選択	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信間隔時間	必要に応じて設定
ファイル転送設定	スキャナー再送信回数	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［無線 LAN］と［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」
- P.47「ファイル転送設定」

ネットワーク TWAIN スキャナー機能を使うには

ネットワーク環境で TWAIN スキャナーを使用するために必要な設定項目を説明します。

イーサネット

ネットワーク TWAIN スキャナーをイーサネットケーブルで使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット速度	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。

- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」

無線 LAN

ネットワーク TWAIN スキャナーを無線 LAN で使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード	必須

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／無線 LAN	SSID 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	アドホックチャンネル	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	セキュリティー方式選択	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［無線 LAN］と［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」

ドキュメントボックス機能を使うには

ドキュメントボックスを使用するために必要な設定項目を説明します。

イーサネット

ドキュメントボックスをイーサネットケーブルで使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット速度	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」

無線 LAN

ドキュメントボックスを無線 LAN で使用するために必要な設定項目の一覧です。各項目の設定方法については、「インターフェース設定」を参照してください。

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	必須
インターフェース設定／ネットワーク	IPv4 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv6 アドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ゲートウェイアドレス	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	DDNS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	IPsec	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ドメイン名	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	WINS 設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	有効プロトコル	必須
インターフェース設定／ネットワーク	ネットワークインターフェース選択	必須
インターフェース設定／ネットワーク	SNMPv3 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	SSL/TLS 通信許可設定	必要に応じて設定
インターフェース設定／ネットワーク	ホスト名	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード	必須
インターフェース設定／無線 LAN	SSID 設定	必要に応じて設定

見出し	設定項目	設定内容
インターフェース設定／無線 LAN	アドホックチャンネル	必要に応じて設定
インターフェース設定／無線 LAN	セキュリティー方式選択	必要に応じて設定

補足

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［無線 LAN］と［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

参照

- P.36「インターフェース設定」

本機以外からの設定方法

ネットワーク環境に必要な設定項目は、本機の操作部だけでなく、Web Image Monitor（Web ブラウザー）や telnet などのユーティリティーでも設定することができます。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- telnet については、「telnet を使う」を参照してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」
- P.147「telnet を使う」

インターフェース設定

Web Image Monitor や telnet を使用して、本機の［システム初期設定］にある［インターフェース設定］の設定値を変更します。

［ネットワーク］→［本体 IPv4 アドレス］→［自動的に取得（DHCP）］

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

［ネットワーク］→［本体 IPv4 アドレス］→［指定］→「本体 IPv4 アドレス」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[本体 IPv4 アドレス] →[指定] →「サブネットマスク」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[IPv4 ゲートウェイアドレス]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[本体 IPv6 アドレス] →「手動設定アドレス」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[IPv6 ゲートウェイアドレス]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[IPv6 ステートレスアドレス自動設定]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[DNS 設定] →[自動的に取得（DHCP)]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[DNS 設定] →[指定] →「DNS サーバー 1-3」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[DDNS 設定]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[IPsec]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[ドメイン名] →[自動的に取得（DHCP)]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[ドメイン名] →[指定] →「ドメイン名」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[WINS 設定] →[使用する] →「プライマリー WINS サーバー」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[WINS 設定] →[使用する] →「セカンダリー WINS サーバー」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[WINS 設定] →[使用する] →「スコープ ID」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[WINS 設定] →[使用しない]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[有効プロトコル] →「IPv4」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[有効プロトコル] →「IPv6」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[有効プロトコル] →「NetWare」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[有効プロトコル] →「SMB」

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[NCP 配信時プロトコル] →[IPX 優先]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[NCP 配信時プロトコル] →[TCP/IP 優先]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[NCP 配信時プロトコル] →[IPX のみ]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[NCP 配信時プロトコル] →[TCP/IP のみ]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[NW フレームタイプ] →[自動選択]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[NW フレームタイプ] →[Ethernet II]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[NW フレームタイプ] →[Ethernet 802.2]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[NW フレームタイプ] →[Ethernet 802.3]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[NW フレームタイプ] →[Ethernet SNAP]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[SMB コンピューター名]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[SMB ワークグループ]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[イーサネット速度]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[イーサネット用 IEEE 802.1X 認証]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[ネットワークインターフェース選択] →[無線 LAN]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[Ping コマンド実行]

- Web Image Monitor からは設定できません。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[SNMPv3 通信許可設定] →[暗号化のみ]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[SNMPv3 通信許可設定] →[暗号化/平文]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[SSL/TLS 通信許可設定] →[暗号文のみ]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[SSL/TLS 通信許可設定] →[暗号文優先]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[SSL/TLS 通信許可設定] →[暗号文/平文]

- Web Image Monitor からは設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ネットワーク] →[ホスト名]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[ネットワーク] →[本体名]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[無線 LAN] →[通信モード] →[802.11 アドホックモード]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[無線 LAN] →[通信モード] →[インフラストラクチャーモード]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[無線 LAN] →[SSID 設定]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[無線 LAN] →[アドホックチャンネル]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

[無線 LAN] →[セキュリティー方式選択]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet から設定できます。

ファイル転送設定

Web Image Monitor や telnet を使用して、本機の［システム初期設定］にある［ファイル転送設定］の設定値を変更します。

[ファイル転送設定] →[SMTP サーバー]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[SMTP 認証]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[POP before SMTP]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[受信プロトコル] →[POP3]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[受信プロトコル] →[IMAP4]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[受信プロトコル] →[SMTP]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[POP3/IMAP4 設定]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[管理者メールアドレス]

- Web Image Monitor から設定できます。

- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[メール通信ポート設定]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[メール受信間隔時間設定]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[受信メールサイズ制限]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[サーバー側メール保持]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[送信初期ユーザー名・パスワード]

- Web Image Monitor から設定できます。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[送信メール本文登録／変更／消去]

- Web Image Monitor から設定できません。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[送信者名自動指定]

- Web Image Monitor から設定できません。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[スキャナー再送信間隔時間]

- Web Image Monitor からは設定できません。
- telnet からは設定できません。

[ファイル転送設定] →[スキャナー再送信回数]

- Web Image Monitor からは設定できません。
- telnet からは設定できません。

3. プリントサーバーの準備

プリントサーバーの設定について説明します。

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。

ここでは Windows XP を例に説明します。Windows Server2003/2003 R2 をご使用の場合も、手順は同じです。

重要

- **［プリンタ］または［プリンタと FAX］ウィンドウでプリンタープロパティを変更するには、Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows Vista/7 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。**

1. **［スタート］ボタンをクリックします。**

   ［スタート］メニューが表示されます。

2. **［プリンタと FAX］をクリックし、［プリンタと FAX］ウインドウを開きます。**

   Windows 2000 の場合は、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックし、［プリンタ］ウィンドウを開きます。

   Windows Vista/7 の場合は、［コントロールパネル］をクリックし、［ハードウェアとサウンド］のカテゴリーにある［プリンタ］をクリックし、［プリンタ］ウィンドウを開きます。

3. **追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

   プリンターのプロパティが表示されます。

4. **［共有］タブをクリックし、［このプリンタを共有する］を選択します。**

   Windows 2000 の場合は、［共有］タブをクリックし、［共有する］を選択します。

5. **プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、［追加ドライバ］をクリックします。**

   プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

6. **［閉じる］をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。**

NetWare を使用する

NetWare でネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。NetWare では本機を「プリントサーバー」または「リモートプリンター」として接続することができます。

重要

- **IPv6 環境ではご使用になれません。**
- **工場出荷時の設定では NetWare が無効になっています。Web Image Monitor の「NetWare」設定か、telnet の set コマンドで、NetWare を有効にしてください。設定やコマンドについては、Web Image Monitor のヘルプ、または「telnet を使う」を参照してください。**

補足

- この章ではファイルサーバー名を CAREE とした設定例で説明しています。

参照

- P.147「telnet を使う」

プリントサーバーを使用する（NetWare 3.xJ）

NetWare 3.xJ を使用し、プリントサーバーとして接続するための設定方法の説明です。

1. **Web Image Monitor を起動します。**
2. **［ログイン］をクリックします。**

   ［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。
3. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
4. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
5. **「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。**

   設定項目は以下のとおりです。

   - プリントサーバー名：NetWare のプリントサーバー名を入力します。インターフェースボードをプリントサーバーとして動作させる場合は、ファイルサーバー上で動作していないプリントサーバーの名前を入力します。入力範囲は 1～47 文字です。

- ログオンモード：NetWare ログオン時に、ファイルサーバーを指定するか、NDS ツリーを指定するかを選択します。
- ファイルサーバー名：ファイルサーバー名を入力すると、入力したファイルサーバーだけを検索します。必ず入力してください。入力範囲は 47 文字以内です。
- NDS ツリー：NDS モードで使用する場合に、ログオンする NSD ツリー名を半角英数字で入力します。入力範囲は 32 文字以内です。
- NDS コンテキスト名：NDS モードで使用する場合に、プリントサーバーのコンテキストを入力します。入力範囲は 127 文字以内です。
- 動作モード：インターフェースボードをプリントサーバーとして使用するか、リモートプリンターとして使用するかを選択します。
- リモートプリンター番号：リモートプリンターとして動作する場合に有効となります。プリントサーバー上に作成するプリンターの番号と同じ番号を半角で入力します。入力範囲は 0〜254 です。
- ジョブタイムアウト：NetWare のリモートプリンターとして動作している場合、プリンターは印刷ジョブの終了を判定することができないため、最後に印刷データを受け取ってから一定時間が経過したとき（印刷データを一定時間受信しなかったとき）に印刷処理を終了します。ここには、その一定時間（3-255 秒）を半角で入力します。初期値は「15 秒」に設定されています。
- フレームタイプ：使用するフレームタイプをドロップダウンメニューから選択します。
- プリントサーバープロトコル：NetWare で使用するプロトコルをドロップダウンメニューから選択します。
- NCP 配信時プロトコル：NCP 配信に使用するプロトコルを選択します。

6. 設定を確認し、［OK］をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。

  F:> USERLIST

- 正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバー名が表示されます。
- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。

- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

プリントサーバーを使用する（NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J）

NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J を使用し、プリントサーバーとして接続するための設定方法の説明です。

重要

- **NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J でプリントサーバーとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。**
- **NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J をお使いの場合は、本機をプリントサーバーとしてお使いください。**

1. **Web Image Monitor を起動します。**
2. **［ログイン］をクリックします。**

   ［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。
3. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
4. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
5. **「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。**

   設定項目については、「プリントサーバーを使用する（NetWare3.xJ）」を参照してください。
6. **設定を確認し、［OK］をクリックします。**

   これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。

  F:> NLIST USER /A/B

- 正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバー名が表示されます。
- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

プリントサーバーを使用する（NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境）

NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境で、プリントサーバーとして接続する設定方法の説明です。

重要

- **NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバーを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバー上にプリントキューを作成する必要があります。**
- **ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンターとして使用できません。**
- **ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で IPv4 プロトコルが使用できるように設定してください。**

NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。

3. ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリントキュー］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
4. ［プリントキュー名］ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. ［プリントキューボリューム］ボックスのブラウザーボタンをクリックします。
6. ［使用可能なオブジェクト］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
7. 設定内容を確認し、［作成］をクリックします。
8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。
9. ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリンタ（非 NDPS）］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
10. ［プリンタ名］ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. ［作成後に詳細を設定］をクリックしてチェックを付け、［作成］をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［割り当て］をクリックし、［割り当て］グループの［追加］をクリックします。
13. ［オブジェクト］ボックスで、あらかじめ作成したキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
14. ［環境設定］をクリックし、［プリンタタイプ］ボックスのドロップダウンメニューから［パラレル］を選び、［通信］をクリックします。
15. ［接続タイプ］グループの［手動ロード（プリンタサーバからリモート）］をクリックし、［OK］をクリックします。
16. 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。
17. プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。
18. ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリントサーバ（非 NDPS）］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
19. ［プリントサーバ名］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

    Web Image Monitor で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
20. ［作成後に詳細を設定］をクリックしてチェックを付け、［作成］をクリックします。
21. 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［割り当て］をクリックし、［割り当て］グループの［追加］をクリックします。

22. ［オブジェクト］ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

23. 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

24. NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

停止する

CAREE: unload pserver

起動する

CAREE: load pserver プリントサーバー名

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

Web Image Monitor での設定

1. Web Image Monitor を起動します。

2. ［ログイン］をクリックします。

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3. ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

4. メニューエリアの［設定］をクリックします。

5.「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。

設定項目については、「プリントサーバーを使用する（NetWare3.xJ）」を参照してください。

6. 設定を確認し、［OK］をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。

- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

プリントサーバーを使用する（NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境）

NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境で、プリントサーバーとして接続する設定方法の説明です。

重要

- NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバーを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバー上にプリントキューを作成する必要があります。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンターとして使用できません。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で IPv4 プロトコルが使用できるように設定してください。

NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。
3. ［Class of new object］ボックスの［Print Queue］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
4. ［Print Queue name］ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. ［Print Queue Volume］ボックスのブラウザーボタンをクリックします。
6. ［Available objects］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
7. 設定内容を確認し、［Create］をクリックします。
8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。

9. ［Class of new object］ボックスの［Printer (Non NDPS)］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
10. ［Printer name］ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Print queues］グループの［Add...］をクリックします。
13. ［Available objects］ボックスで、あらかじめ作成したキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
14. ［Configuration］をクリックし、［Printer type］ボックスのドロップダウンメニューから［Parallel］を選び、［Communication］をクリックします。
15. ［Connection type］グループの［Manual load］をクリックし、［OK］をクリックします。
16. 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。
17. プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。
18. ［Class of new object］ボックスの［Print Server (Non NDPS)］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
19. ［Print Server name］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

    Web Image Monitor で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
20. ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。
21. 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Printers］グループの［Add...］をクリックします。
22. ［Available objects］ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
23. 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。
24. NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

    すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

    停止する

    CAREE: unload pserver

    起動する

    CAREE: load pserver プリントサーバー名

    プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

Web Image Monitor での設定

1. **Web Image Monitor を起動します。**
2. **［ログイン］をクリックします。**

   ［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。
3. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
4. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
5. **「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。**

   設定項目については、「プリントサーバーを使用する（NetWare3.xJ）」を参照してください。
6. **設定を確認し、［OK］をクリックします。**

   これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。
7. **［ログアウト］をクリックします。**

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

リモートプリンターとして使用する（NetWare 3.xJ）

NetWare 3.xJ で、リモートプリンターとして接続するための設定方法の説明です。

PCONSOLE での設定

1. **コマンドプロンプトで「PCONSOLE」と入力します。**

   F:> PCONSOLE

2. **プリントキューを作成します。**

   既存のプリントキューを使う場合は、プリンターを作成する手順に進んでください。

3. **［利用可能な項目］メニューから［プリントキュー情報］を選択します。**

4. **［Insert］キーを押し、プリントキュー名を入力します。**

5. **［Esc］キーを押します。**

   ［利用可能な項目］メニューに戻ります。

6. **プリンターを作成します。［利用可能な項目］メニューから［プリントサーバ情報］を選択します。**

7. **新しいプリントサーバーを作成する場合は、［Insert］キーを押し、プリントサーバー名を入力します。**

   既存のプリントサーバーを使う場合は、［プリントサーバ］一覧から使用するプリントサーバーを選択します。

   前の手順で設定した Web Image Monitor のプリントサーバー名と一致させてください。

8. **［プリントサーバ情報］メニューから［プリントサーバ構成］を選択します。**

9. **［プリントサーバ構成メニュー］から［プリンタの構成］を選択します。**

10. **「インストールされていません」と表示されているプリンターを選択します。**

    前の手順で設定した Web Image Monitor のリモートプリンター番号と一致させてください。

11. **プリンターの名前を変更する場合は、新しい名前を入力します。**

    名前は選択したプリンターの番号に応じて「プリンタ×」と付けられています。

12. **タイプとして［リモートパラレル，LPT1］を選択します。**

    IRQ、バッファサイズ、開始用紙、キューサービスモードは自動的に設定されます。

13. **［Esc］キーを押し、確認画面で［Yes］を選択します。**

14. **［Esc］キーを押します。**

    ［プリントサーバ構成メニュー］に戻ります。

15. **作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［プリントサーバ構成メニュー］から［プリンタでサービスされているキュー］を選択します。**

16. **前の手順で作成したプリンターを選択します。**

17. **［Insert］キーを押し、プリンターに割り当てるキューを選択します。**

複数のキューを選択することもできます。

18. **画面表示に従って、その他の項目を入力します。**

入力後、プリンターにキューが割り当てられたことを確認してください。

19. **「終了しますか？」と表示されるまで［Esc］キーを押し、［Yes］を選択します。**

PCONSOLE が終了します。

20. **NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。**

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

停止する

CAREE: unload pserver

起動する

CAREE: load pserver プリントサーバー名

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

Web Image Monitor での設定

1. **Web Image Monitor を起動します。**

2. **［ログイン］をクリックします。**

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

4. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**

5. **「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。**

設定項目については、「プリントサーバーを使用する（NetWare3.xJ）」を参照してください。

6. **設定を確認し、［OK］をクリックします。**

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. **［ログアウト］をクリックします。**

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

リモートプリンターとして使用する（NetWare 4.xJ、5/5.1J）

NetWare 4.xJ、5/5.1J で、リモートプリンターとして接続するための設定方法の説明です。

重要

- **NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J でリモートプリンターとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。**
- **ピュア IP 環境の場合、リモートプリンターとして使用できません。**

NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。
3. ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリントキュー］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
4. ［プリントキュー名］ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. ［プリントキューボリューム］ボックスのブラウザーボタンをクリックします。
6. ［使用可能なオブジェクト］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
7. 設定内容を確認し、［作成］をクリックします。

8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
9. [オブジェクトクラス] ボックスの [プリンタ] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
10. [プリンタ名] ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. [作成後に詳細を設定] をクリックしてチェックを付け、[作成] をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[割り当て] をクリックし、[割り当て] グループの [追加] をクリックします。
13. [使用可能なオブジェクト] ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
14. [環境設定] をクリックし、[プリンタタイプ] ボックスのドロップダウンメニューから [パラレル] を選び、[通信] をクリックします。
15. [接続タイプ] グループの [手動ロード (プリンタサーバからリモート)] をクリックし、[OK] をクリックし、設定内容を確認して [OK] をクリックします。
16. プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。
17. [オブジェクトクラス] ボックスの [プリントサーバ (非 NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
18. [プリントサーバ名] ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

    Web Image Monitor で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
19. [作成後に詳細を設定] をクリックしてチェックを付け、[作成] をクリックします。
20. 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[割り当て] をクリックし、[割り当て] グループの [追加] をクリックします。
21. [使用可能なオブジェクト] ボックスであらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
22. [プリンタ] グループで、あらかじめ前の手順で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、[プリンタ番号] をクリックします。
23. プリンター番号を入力し、[OK] をクリックし、設定内容を確認して [OK] をクリックします。

    Web Image Monitor で設定したリモートプリンター番号と一致させてください。

24. NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

停止する

CAREE: unload pserver

起動する

CAREE: load pserver

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

Web Image Monitor での設定

1. Web Image Monitor を起動します。

2. ［ログイン］をクリックします。

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3. ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

4. メニューエリアの［設定］をクリックします。

5.「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。

設定項目については、「プリントサーバーを使用する（NetWare3.xJ）」を参照してください。

6. 設定を確認し、［OK］をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

リモートプリンターとして使用する（NetWare 6/6.5J）

NetWare 6/6.5J で、リモートプリンターとして接続するための設定方法の説明です。

重要

- NetWare 6/6.5J においてリモートプリンターとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- ピュア IP 環境の場合、リモートプリンターとして使用できません。

NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。
3. ［Class of new object］ボックスの［Print Queue］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
4. ［Print Queue name］ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. ［Print Queue Volume］ボックスのブラウザーボタンをクリックします。
6. ［Available objects］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
7. 設定内容を確認し、［Create］をクリックします。
8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。
9. ［Class of new object］ボックスの［Printer (Non NDPS)］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
10. ［Printer name］ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Print queues］グループの［Add...］をクリックします。

13. ［Available objects］ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
14. ［Configuration］をクリックし、［Printer type］ボックスのドロップダウンメニューから［Parallel］を選び、［Communication］をクリックします。
15. ［Connection type］グループの［Manual load］をクリックし、［OK］をクリックし、設定内容を確認して［OK］をクリックします。
16. プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。
17. ［Class of new object］ボックスの［Print Server (Non NDPS)］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
18. ［Print Server name］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

    Web Image Monitor で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
19. ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。
20. 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Printers］グループの［Add...］をクリックします。
21. ［Available objects］ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
22. ［Printers］グループで手順 20 で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、［Printer Number...］をクリックします。
23. プリンター番号を入力し、［OK］をクリックし、設定内容を確認して［OK］をクリックします。

    Web Image Monitor で設定したリモートプリンター番号と一致させてください。
24. NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

    すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

    停止する

    ```
    CAREE: unload pserver
    ```

    起動する

    ```
    CAREE: load pserver
    ```

    プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

Web Image Monitor での設定

1. Web Image Monitor を起動します。

2. ［ログイン］をクリックします。

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3. ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

4. メニューエリアの［設定］をクリックします。

5.「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。

設定項目については、「プリントサーバーを使用する（NetWare3.xJ）」を参照してください。

6. 設定を確認し、［OK］をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

4. 機器の監視

ネットワークから、本機の状態を監視したり、設定を変更する方法を説明します。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定
- ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧表示／プロパティ表示／文書画像ファイルのダウンロード／削除／印刷／送信

本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

推奨ブラウザー

- Windows 環境：

  Internet Explorer 5.5 SP2 以降

  Firefox 1.0 以降
- Macintosh 環境：

  Firefox 1.0 以降

  Safari 1.0、1.2、2.0（412.2）以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダーに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 95Reader Ver.6.0（XPReader）以降

- Windows OS、Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

補足

- Mac OS X 10.4.1 の Safari では対応しておりません。
- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルのくずれ、フォントや色の相違などが発生することがあります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 環境下で Internet Explorer 7.0 を使用する場合、ブラウザーのアドレスバーには IP アドレスの代わりに本機のホスト名を入力してください。hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- Internet Explorer 8 を使用しているとき、ダウンロードに時間がかかることがあります。本体の URL を[インターネットオプション]から信頼済みサイトとして登録し、サイトの SmartScreen フィルター機能を無効にしてください。Internet Explorer 8 の設定について詳しくは、Internet Explorer 8 のヘルプを参照してください。
- Web ブラウザーに表示される URL をブックマーク登録すると、Web Image Monitor 画面をすぐに呼び出すことができます。登録する際は、ログイン前のトップページ画面で行ってください。ログイン後のトップページ画面で登録した場合は、正しく表示されません。

参照

- P.277「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

トップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

重要

- IPv4 アドレスを入力する場合は、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。

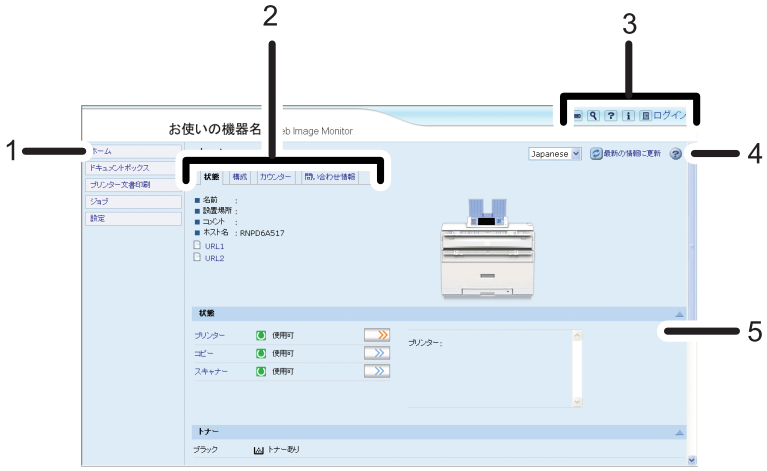
1. Web ブラウザーを起動します。
2. Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

   Web Image Monitor のトップページが表示されます。

   DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

   サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/」と入力します。

Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。



CBC009

1. メニューエリア

   プリンター文書印刷やジョブ、設定などの項目が表示されます。

   メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示します。

2. タブエリア

   各メニュー項目の詳細を表示します。

3. ヘッダーエリア

   ヘルプや、キーワード検索用のボタンが表示されます。また、ゲストモードと管理者モードを切り替えるために［ログイン］または［ログアウト］が表示されます。

4. ヘルプ

   ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

5. ワークエリア

トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

ユーザー認証が設定されているとき

Web Image Monitor からのログインのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログインします。

1. ［ログイン］をクリックします。
2. ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

   ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

補足

- ユーザーコード認証のときは、ログインユーザー名にユーザーコードを入力して、［OK］をクリックします。
- ご使用の Web ブラウザーにより操作は異なります。

Web Image Monitor からのログアウトのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログアウトするときは、［ログアウト］をクリックします。

補足

- ログインをした場合、操作が完了したら、必ず［ログアウト］をクリックしてログアウトしてください。

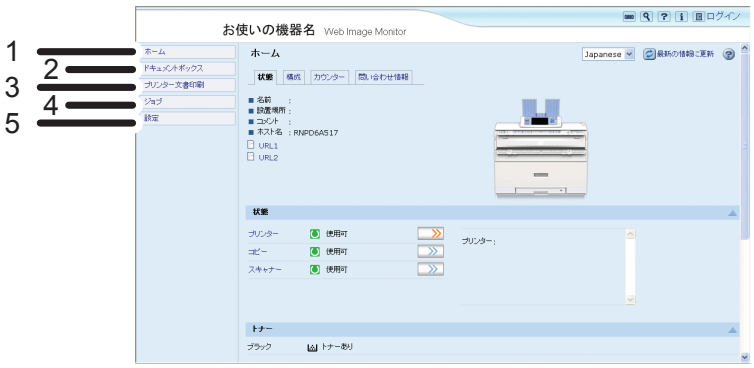
メニュー構成とモード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いのオプションにより表示される項目が異なる場合があります。

ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



CBC010

1. **ホーム**

   ［状態］タブ、［構成］タブ、［カウンター］タブ、［問い合わせ情報］タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2. **ドキュメントボックス**

   ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧が表示されます。

3. **プリンター文書印刷**

   試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

4. **ジョブ**

   各ジョブの一覧が表示されます。

5. **設定**

   現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。

管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

CBC011

4

1. **ホーム**

   ［状態］タブ、［構成］タブ、［カウンター］タブ、［問い合わせ情報］タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2. **ドキュメントボックス**

   ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧が表示されます。

3. **プリンター文書印刷**

   試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

4. **ジョブ**

   各ジョブの一覧を表示することができます。

5. **アドレス帳**

   本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6. **設定**

   本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティーの設定ができます。

7. **リセット**

   トップページの［リセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

8. **プリンタージョブリセット**

   トップページの［プリンタージョブリセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

補足

- 表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

管理者モードでアクセスする

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスする方法です。

1. **Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

2. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

補足

- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。

Web ブラウザーでの設定項目一覧

設定項目の一覧です。

Web ブラウザーでの設定

本機で使用できる Web ブラウザーの項目です。

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

ホーム

- 状態

メニュー	ゲストモード	管理者モード
状態／トナー／給紙トレイ／排紙トレイ	参照可	参照可

- 構成

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機能／システム／バージョン／エミュレーション	参照可	参照可

- カウンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
トータル／コピー／プリンター／送信トータル／スキャナー送信	参照可	参照可

- 問い合わせ情報

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機械修理／営業窓口／消耗品	参照可	参照可

ドキュメントボックス

ゲストモード：参照・変更とも可／管理者モード：参照・変更とも可

プリンター文書印刷

- 文書印刷一覧

  ゲストモード：参照・変更とも可／管理者モード：参照・変更とも可

ジョブ

- ジョブリスト

メニュー	ゲストモード	管理者モード
実行中／待機中ジョブ一覧	参照可	参照・変更とも可
ジョブ履歴	参照可	参照可

- プリンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
スプール*1	参照可	参照可
ジョブ履歴	参照可	参照可
エラー履歴	参照可	参照可

*1 スプールの機能が有効になっている場合に表示されます。スプールの機能は、telnet の spoolsw を使って設定できます。

- ドキュメントボックス

メニュー	ゲストモード	管理者モード
印刷ジョブ履歴	参照・変更とも可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
スキャナーリモート送信機能	参照・変更とも可	参照・変更とも可

アドレス帳

ゲストモード：参照・変更とも不可／管理者モード：参照・変更とも可

設定

- 機器

メニュー	ゲストモード	管理者モード
システム	参照可	参照・変更とも可
用紙	参照可	参照・変更とも可
日付・時刻	参照可	参照・変更とも可
タイマー	参照可	参照・変更とも可
ログ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ログダウンロード	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
メール	参照可	参照・変更とも可
自動メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
要求時メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファイル転送	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザー認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者登録／変更	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
LDAP サーバー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファームウェアアップデート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
レルム登録／変更	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- プリンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
トレイ読み替え（PS）	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
PDF 一時パスワード	参照・変更とも可	参照・変更とも不可
PDF グループパスワード	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
PDF 固定パスワード	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- スキャナー

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
読み取り設定	参照可	参照・変更とも可
送信設定	参照可	参照・変更とも可
導入設定	参照可	参照・変更とも可
初期値登録（機器通常画面用）	参照可	参照・変更とも可
初期値登録（機器簡単画面用）	参照可	参照・変更とも可

- インターフェース

メニュー	ゲストモード	管理者モード
インターフェース設定	参照可	参照・変更とも可
無線 LAN 設定	参照可	参照・変更とも可

- ネットワーク

メニュー	ゲストモード	管理者モード
IPv4	参照可	参照・変更とも可
IPv6	参照可	参照・変更とも可
NetWare	参照可	参照・変更とも可
SMB	参照可	参照・変更とも可
SNMP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SNMPv3	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSDP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
Bonjour	参照可	参照・変更とも可
システムログ	参照可	参照可

- セキュリティー

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ネットワークセキュリティー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アクセスコントロール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPP 認証	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSL/TLS	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ssh	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
サイト証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPsec	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザーロックアウト	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IEEE 802.1X	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
S/MIME	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- Webpage

メニュー	ゲストモード	管理者モード
Webpage 設定	参照可（ヘルプのダウンロードは可能）	参照・変更とも可

補足

- セキュリティーの設定によっては、すべての項目が表示されない場合があります。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプは付属の CD-ROM に収録されています。

ヘルプを表示させるには、Webpage 設定でヘルプボタン（?）からのリンクを設定してください。

補足

- ヘッダーエリアに表示されたヘルプボタン（?）をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示されたヘルプボタン（?）をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ダウンロードしたヘルプへのリンク（URL）

Web サーバーに格納したヘルプファイルを、ヘルプボタン（?）にリンクさせる方法です。

1. 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。

2. メニューエリアの［設定］をクリックします。

3.「Webpage」の［Webpage 設定］をクリックします。

4. ヘルプリンク先設定の「URL」にヘルプファイルへのパスを入力します。

Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5.［OK］をクリックします。

6.「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。

補足

- ヘルプファイルをローカルディスクに保存した場合は、ヘルプボタン（ ）からのリンクはできません。その場合は、ヘルプファイルを直接開いてください。

Network Monitor for Client で IPP を使用する場合

Network Monitor for Client で IPP を使用する際の注意事項です。

本機能を使用する場合は、Network Monitor for Client が必要です。Network Monitor for Client をご利用の場合は、販売店にご確認ください。

- 本機が受け付ける Network Monitor for Client からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Network Monitor for Client を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Network Monitor for Client は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Network Monitor for Client が本機に接続できずタイムアウトになると、印刷ジョブが削除されます。この場合、印刷の操作をもう一度やり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Network Monitor for Client を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Network Monitor for Client がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスする場合、［セキュリティの警告］が表示されたときは、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、［証明書のインポートウィザード］で証明書ストアの場所は、［証明書をすべて次のストアに配置する］を選択し、［信頼されたルート］の［ローカルコンピュータ］を選択します。

補足

- SSL（暗号化通信）について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態などを通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

重要

- **メールソフトによっては、メールを受信したときにフィッシングの警告が出ることがあります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。**

本機のメール通知機能は次の 2 種類です。

- 自動メール通知

  あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

- 要求時メール通知

  管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

自動メール通知で設定できるものは、以下のとおりです。

- サービスコールが発生した場合
- トナーがなくなった場合
- トナーの残りがわずかになった場合
- 用紙ミスフィードがおきた場合
- カバーオープンが検知された場合
- 紙がなくなった場合
- 用紙の残りがわずかになった場合
- 給紙トレイでエラーが発生した場合
- 廃トナーボトルが満杯になった場合
- 廃トナーボトルが満杯に近づいた場合
- パンチくずが満杯になった場合
- 文書保存領域が満杯に近づいた場合
- アクセス攻撃を検知した場合
- トナーの残量が、任意で設定したレベル以下になった場合

1. **Web Image Monitor に管理者としてログインします。**
2. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**

3.「機器」の［メール］をクリックします。

4. 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：管理者メールアドレスを設定します。スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しない場合の送信者アドレスになります。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。

  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。

  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール通信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：自動メール通知、または要求時メール通知を使用する場合に設定を行います。

5.［OK］をクリックします。

6.［ログアウト］をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』をご確認ください。
- お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

メール通知用アカウントの設定

メール通知用アカウントの設定について説明します。

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1. **Web Image Monitor に管理者としてログインします。**
2. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
3. **「機器」の［メール］をクリックします。**
4. **設定画面に示された以下の項目を設定します。**
   - メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。通知メールの差出人（From:）になります。要求メールを送るときは、このアドレスを宛先（To:）にします。
   - メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
   - メール通知ユーザー名：「メール通知用メールアドレス」に設定したメールアカウントのユーザー名を入力します。
   - メール通知パスワード：「メール通知用メールアドレス」に設定したメールアカウントのパスワードを入力します。
5. **［OK］をクリックします。**
6. **［ログアウト］をクリックします。**
7. **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。

- SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
- SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
- SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に@realmID の形式で追加してください。
- SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
- SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。

  ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

  ［有効］：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

  ［無効］：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。

5. ［OK］をクリックします。
6. ［ログアウト］をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
   - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
   - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
   - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
   - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
5. ［OK］をクリックします。
6. ［ログアウト］をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

「自動メール通知」の設定

「自動メール通知」の設定について説明します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［設定］をクリックします。

3.「機器」の［自動メール通知］をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。

4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。

  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

5.［OK］をクリックします。

6.［ログアウト］をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

「要求時メール通知」の設定

「要求時メール通知」の設定について説明します。

1. **Web Image Monitor に管理者としてログインします。**
2. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
3. **「機器」の［要求時メール通知］をクリックします。**

   通知項目に関する設定画面が表示されます。

4. **設定画面に示された項目を設定します。**
   - 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
   - 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
   - 機器状態情報通知の制限:機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。

     「有効」を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。

     「無効」を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
   - 受信可能メールアドレス／ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。
5. **［OK］をクリックします。**
6. **［ログアウト］をクリックします。**
7. **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

• P.127「Web ブラウザーを使う」

要求メールの書式について

要求メールの書式について説明します。

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。

要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
To（メールソフトでは「宛先」などと表示される部分）	[通知用メールアドレス] に設定したメールアドレスを指定します。
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

重要

- **リモートメンテナンス（telnet）はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。**
- **パスワードは Web ブラウザーによる設定（Web Image Monitor）で使用するパスワードと共通です。telnet 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。**

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順の説明です。

重要

- **リモートメンテナンスを同時に複数のユーザーが使用することはできません。**
- **Windows Vista/7 をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバーを有効にしてからお使いください。**

1. 本機の IP アドレス（またはホスト名）を引数にして telnet を起動します。

% telnet 本機の IP アドレス（またはホスト名）

2. ログイン名とパスワードを入力します。

ログイン名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

3. コマンドを入力します。

4. telnet を終了します。

msh> logout

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Enter] キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Enter] キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Enter] キーを押します。

補足

- 「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。

- リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

現在の設定の表示

msh> access

IPv4 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID range

IPv6 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID range6

IPv6 アクセスマスクの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID mask6

IPv4 のアクセスレンジの設定

msh> access 対象 ID range 開始アドレス　終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20

IPv6 のアクセスレンジの設定

msh> access 対象 ID range6 開始アドレス　終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200

IPv6 のアクセスマスクの設定

msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長

（例） アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32

アクセスコントロールの初期化

msh> access flush

- アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

補足

- IPv6 の各エントリーは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式の場合は、"始点アドレス- 終点アドレス"、マスク指定方式の場合は、"基準アドレス/マスク長"という形式で表示されます。
- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1〜5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1〜128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

authfree

認証限定制御の情報表示、設定は authfree コマンドを使用します。

現在の認証限定情報を表示

msh> authfree

IPv4／IPv6 の認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID

IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID range

IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID range6

IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID mask6

認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定

msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20

認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定

msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス

（例） アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200

認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長

（例） アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス 2001:DB8:: 32

セントロ／USB の認証限定を設定

msh> authfree {parallel|usb} {on|off}

- 認証しない場合は「on」を、する場合は「off」を指定します。
- 工場出荷時の設定は「off」です。

認証限定の初期化

msh> authfree flush

- 認証限定の初期化は、認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

補足

- authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「簡易（限定）」に設定されているときのみ実行できます。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1～5 件が設定できます。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> autonet

AutoNet 機能の設定

msh> autonet {on|off}

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

現在のインターフェース優先順位の表示

msh> autonet priority

インターフェースの優先設定

msh> autonet priority インターフェース

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。

- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。
- 工場出荷時の初期値は ether です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> bonjour

サービス名の設定

msh> bonjour cname 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

設置場所情報の設定

msh> bonjour location 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

プロトコルごとの優先順位の設定

msh> bonjour diprint [0～99]
msh> bonjour lpr [0～99]
msh> bonjour ipp [0～99]

- diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。初期値は diprint 10、lpr 20、ipp 30 です。

IP TTL 値の設定

msh> bonjour ipttl [1～255]

- IP TTL 値（越えられるルーターの数）を設定します。初期値は 255 です。

サービス名と設置場所情報のリセット

msh> bonjour clear {cname|location}

- cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。

- location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

インターフェースの設定

msh> bonjour linklocal インターフェース名

- インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
- 複数のインターフェースが装着されている場合に、linklocal アドレスとの通信を行うインターフェースを設定します。
- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

IPP Advertising Port 番号の選択

msh>bonjour ippport {ipp|ssl}

- ssl の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 443 として広告します。
- ipp の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 631 として広告します。

devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> devicename

本体名の設定

msh> devicename name 文字列

- 本体名は 31 バイト以下で指定します。
- 1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

本体名の初期化

msh> devicename clear name

- 本体名を工場出荷時の設定に戻します。

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> dhcp

DHCP 機能の設定

msh> dhcp インターフェース**{on|off}**

- DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

現在のインターフェース優先順位の表示

msh> dhcp priority

インターフェースの優先設定

msh> dhcp priority インターフェース

- DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

DNS サーバーアドレスの選択

msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}

- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

ドメイン名の選択

msh> dhcp インターフェイス **domainname {dhcp|static}**

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

参照

- P.155「dns」
- P.157「domainname」
- P.305「DHCP を使用する」

dhcp6

dhcp6 関連パラメーターの表示、設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

dhcp6 情報の表示

msh> dhcp6

dhcp6-lite の有効・無効の設定と表示

msh> dhcp6 インターフェース lite {on|off}

DNS サーバーアドレスの選択（dhcp6 サーバーからの取得値・ユーザー設定値）の設定と表示

msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}

DUID（dhcp ユニーク ID）の削除と表示

msh> dhcp6 duid clear

dhcp6 で取得したパラメーターを再度取得するまでの時間の設定と表示

msh> dhcp6 option lifetime [0～65535]

- 設定範囲は 0 から 65535 分です。
- 初期値は 60 分です。
- 0 をセットすると再取得することができません。

diprint

コンピューターから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> diprint

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
timeout = 300(sec)
bidirect on
conn multi
apl async
```

- 「port」使用するポート番号が表示されます。
- 「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

タイムアウトの設定

msh> diprint timeout［30〜65535］

- ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- 工場出荷時の設定値は 300（秒）です。
- lpr コマンドにおいても、ここで設定した時間が使用されます。

双方向通信の設定

msh> diprint bidirect {on|off}

- 工場出荷時の設定値は On です。

同時接続数の設定

msh> diprint conn {multi|single}

- diprint の同時接続数を multi（複数）か single（1）か設定します。
- 工場出荷時の設定値は multi です。

dns

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> dns

IPv4 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server アドレス

- IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1〜3 までです。3 件まで登録できます。
- 「255.255.255.255」は設定できません。

IPv6 による DNS サーバーの設定

msh> dns 対象 ID server6 アドレス

- IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1〜3 までです。3 件まで登録できます。

ダイナミック DNS 機能の設定

msh> dns インターフェース ddns {on|off}

- ダイナミック DNS 機能の有効／無効を指定します。

- ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

レコード重複時の動作指定

msh> dns overlap {update|add}

- レコードが重複したときの動作を指定します。
- update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

CNAME の登録

msh> dns cname {on|off}

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

A レコードの登録

msh> dns arecord {dhcp|own}

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバーが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「dhcp」で指定した「DNS サーバーアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

レコードの更新間隔の設定

msh> dns interval 更新間隔時間

- ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1〜255 の間で指定します。
- 初期値は「24」です。

resolv.conf の表示

msh> dns resolv

- resolv.conf の表示を行います。

デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに利用するプロトコルの設定

msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}

- デュアルスタック時のみ表示されます。

domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> domainname

現在の各インターフェースのドメイン名表示

msh> domainname インターフェース

各インターフェースのドメイン名設定

msh> domainname インターフェース name ドメイン名

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じドメイン名になります。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

各インターフェースのドメイン名削除

msh> domainname インターフェース clear name

etherauth

Ethernet での認証関連パラメーターの表示は、etherauth コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> etherauth

認証関連パラメーターの表示

msh> etherauth 8021x {on|off}

etherconfig

イーサネットパラメーターの表示と設定は、etherconfig コマンドを使用します。

コマンド一覧の表示

msh> etherconfig

イーサネットスピードの設定

msh> etherconfig speed {auto|10f|10h|100f|100h}

- auto ＝ 自動選択
- 10f ＝ 10Mbps Full Duplex
- 10h ＝ 10Mbps Half Duplex
- 100f ＝ 100Mbps Full Duplex
- 100h ＝ 100Mbps Half Duplex

工場出荷時の設定は、[auto]です。

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

コマンド一覧の表示

msh> help

コマンド使用方法の表示

msh> help コマンド名

hostname

ホスト名を表示、変更するには、hostname コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> hostname

現在の各インターフェースのホスト名表示

msh> hostname インターフェース

各インターフェースのホスト名の設定

msh> hostname インターフェース name ホスト名

- ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。

- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じホスト名になります。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。
- インターフェース名を省略した場合、イーサネットのインターフェース名が設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

各インターフェースのホスト名の初期化

msh> hostname インターフェース **clear name**

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示と設定、およびデフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> ifconfig

IPv4 アドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース アドレス

- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

（例）イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

msh> ifconfig ether 192.168.15.16

IPv6 アドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース **inet6** アドレス プレフィックス長

（例）イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64

ネットマスクの設定

msh> ifconfig インターフェース netmask アドレス

（例）イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0

ブロードキャストアドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース broadcast アドレス

インターフェース切り替え

msh> ifconfig インターフェース up

（例）接続時にイーサネットを使用する

msh> ifconfig ether up

- 拡張無線 LAN ボード（オプション）接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

補足

- 設定するアドレスはネットワーク管理者に確認してください。
- 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、無線 LAN インターフェース共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- IPv4 アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

機器情報の表示

msh> info

参照

- P.191「機器情報」

ipp

IPP の使用環境の表示、設定は、IPP コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> ipp

タイムアウトの設定

msh> ipp timeout [30～65535]

- 印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30～65535 秒です。

IPP ユーザー認証方式の設定

msh> ipp auth {off|digest|basic}

- IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- basic または digest で、認証を行います。
- ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

IPP ユーザー名の登録

msh> ipp user

メッセージにしたがって設定します。

Input user number (1 to 10):

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

IPP user name:user1
IPP password:*******

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

IPP configuration changed

ipsec

IPsec 関連パラメーターの表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

関連パラメーターの表示

msh> ipsec

補足

- IPsec の詳細については、管理者に問い合わせてください。

ipv6

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ipv6

ステートレスアドレスの有効／無効設定

msh> ipv6 stateless {on|off}

logout

telnet を終了します。

telnet の終了

msh> logout

確認メッセージが表示されます。

{yes|no|return}

[yes][no][return]のいずれかをフルスペルで入力してください。

- [yes]と入力すると、telnet が終了します。
- [no]と入力すると、telnet が続行します。
- [return]と入力すると、logout の再設定になります。

lpr

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> lpr

ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

msh> lpr chkhost {on|off}

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかった場合はジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は on です。

プリンターエラー検知機能対応の有効/無効設定

msh> lpr prnerrchk {on|off}

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信してしまうことがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません。

- 工場出荷時の設定値は off です。

netware

プリントサーバー名、ファイルサーバー名などの NetWare 関連の表示、設定は、netware コマンドを使用します。

以下のコマンド は、Netware をインストールしたときに指定できます。

NetWare プリントサーバー名の設定

msh> netware pname 文字列

- NetWare プリントサーバー名を 47 文字以下で指定します。

NetWare ファイルサーバー名の設定

msh> netware fname 文字列

- NetWare ファイルサーバー名を 47 文字以下で指定します。

encap タイプの設定

msh> netware encap {802.3|802.2|snap|ethernet2|auto}

リモートプリンター番号の設定

msh> netware rnum [0〜254]

- 工場出荷時の設定値は 0 です。

タイムアウト値の設定

msh> netware timeout [3〜255]

- 工場出荷時の設定値は 15 です。

プリントサーバーモードへの設定

msh> netware mode pserver
msh> netware mode ps

リモートプリンターモードへの設定

msh> netware mode rprinter
msh> netware mode rp

NDS コンテキスト名の設定

msh> netware context 文字列

SAP インターバル値の設定

msh> netware sap_interval 値[0〜3600]

ログインモードをファイルサーバー指定に設定

msh> netware login server

ログインモードを NDS ツリー指定に設定

msh> netware login tree

ログインする NDS ツリー名の設定

msh> netware tree NDS ツリー名

ファイル転送プロトコルの設定

msh> netware trans {ipv4pri|ipxpri|ipv4|ipx}

- プロトコルを省略した場合は、現在のプロトコルを表示します。
- trans は、スキャナー機能が搭載されている場合のみ実行できます。

プロトコル	設定されるプロトコル
ipv4pri	IPv4+IPX（IPv4 優先）
ipxpri	IPv4+IPX（IPX 優先）
ipv4	IPv4
ipx	IPX

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

パスワードの変更

msh> passwd

- [Old password:]が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:]が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:]が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

msh> passwd 管理者 ID

- [New password:]が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:]が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

補足

- パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- 入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> pathmtu

PathMTU Discovery サービス有効/無効の切替設定

msh> pathmtu {on|off}

- 工場出荷時は「ON」になっています。
- 送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- 環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

プリントログ情報の表示

msh> prnlog

- これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

msh> prnlog ID 番号

- 表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

参照

- P.193「プリントログ情報」

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示と設定は、route コマンドを使用します。

IPv4 の該当 route 情報の表示

msh> route get {destination}

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

  destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

msh> route active {host|net} destination {on|off}

- {host|net}省略時は host 設定となります。

IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

msh> route add {host|net} destination gateway

- destination で表される host（または network）ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host|net}省略時は host 設定となります。
- destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

msh> route add default {gateway}

IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

msh> route delete {host|net} destination

- {host|net}省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

msh> route add6 default {gateway}

指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

msh> route add6 destination prefixlen [1～128] gateway

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。
- 宛先は prefixlen が 1～127 の場合はネットワーク指定、128 の場合はホスト指定となります。
- destination と prefixlen の両方が登録済みレコードと一致する場合は登録できません。
- destination が::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000)のレコードは登録できません。

指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

msh> route delete6 {destination} prefixlen

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

IPv6 の該当 route 情報の表示

msh> route get6 {destination}

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

指定された IPv6 の destination の有効／無効の切り替え設定

msh> route active6 destination prefixlen {on|off}

全 route 情報の削除設定

msh> route flush

補足

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1〜128 の 10 進数です。

set

プロトコルの情報の表示、有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

プロトコルの情報（有効／無効）の表示

msh> set ipv4

msh> set ipv6

msh> set ipsec

msh> set netware

- このコマンドは、Netware をインストールしたときに指定できます。

msh> set smb

msh> set protocol

- protocol を指定すると、ipv4、ipv6、netware、smb、ipsec の情報を表示します。

msh> set lpr

msh> set lpr6

msh> set ftp

msh> set ftp6

msh> set rsh

msh> set rsh6

msh> set diprint

msh> set diprint6

msh> set web

msh> set snmp

msh> set ssl

msh> set ssl6

msh> set nrs

msh> set rfu

msh> set rfu6

msh> set ipp

msh> set ipp6

msh> set http

msh> set http6

msh> set bonjour

msh> set bonjour6

msh> set nbt

msh> set ssdp

msh> set ssh

msh> set sftp

msh> set sftp6

msh> set wsdev

msh> set wsdev6

msh> set wsprn

msh> set lltd

プロトコルの有効／無効の設定

- プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

msh> set ipv4 {up|down}

- IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- IPv4 を無効にすると lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour、wsdev も使用できなくなります。

msh> set ipv6 {up|down}

- IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6、bonjour6、wsdev6 も使用できなくなります。

msh> set ipsec {up|down}

msh> set netware {up|down}

- このコマンドは、Netware をインストールしたときに指定できます。

msh> set smb {up|down}

msh> set lpr {up|down}

msh> set lpr6 {up|down}

msh> set ftp {up|down}

msh> set ftp6 {up|down}

msh> set rsh {up|down}

msh> set rsh6 {up|down}

msh> set diprint {up|down}

msh> set diprint6 {up|down}

msh> set web {up|down}

msh> set snmp {up|down}

msh> set ssl {up|down}

msh> set ssl6 {up|down}

- 本機に SSL（暗号化通信）の機能が無い場合は、有効に設定しても SSL（暗号化通信）を使用することはできません。

msh> set nrs {up|down}

msh> set rfu {up|down}

msh> set rfu6 {up|down}

msh> set ipp {up|down}

msh> set ipp6 {up|down}

msh> set http {up|down}

msh> set http6 {up|down}

msh> set bonjour {up|down}

msh> set bonjour6 {up|down}

msh> set ssh {up|down}

msh> set ssdp {up|down}

msh> set nbt {up|down}

msh> set sftp {up|down}

msh> set sftp6 {up|down}

msh> set wsdev {up|down}

msh> set wsdev6 {up|down}

- wsdev と wsdev6 が共に有効の場合、プロトコル情報の表示では共に「up」と表示されますが、WSD（Device）と WSD（Printer）は IPv4 で動作します。

msh> set wsprn {up|down}

msh> set lltd {up|down}

補足

- WSD（Printer）と WSD（Device）を IPv6 で動作させたい場合は、"wsdev down""wsdev6 up"と設定します。

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

現在の設定値の表示

msh> show

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB プロトコルでコンピューター名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

参照

- P.194「ネットワークインターフェースボードの情報」

slp

SLP の設定を表示、変更するには、slp コマンドを使用します。

msh> slp ttl ttl_val

- NetWare 5/5.1 の PureIP 環境でご使用の場合、SLP を用いて NetWare サーバーを検索します。slp コマンドを使うと、SLP マルチキャストパケットが使用する TTL 値（通過できるルーターの数+1）を指定できます。
- 工場出荷時の設定は 1 です。ローカルセグメント内のみで検索します。ただしこの TTL 値を増やした場合でも、ネットワーク環境でご使用のルーター装置がマルチキャストに対応していなければ無効です。
- 設定できる SLP パケットの TTL 値は 1～255 です。
- このコマンドは、Netware をインストールしたときに指定できます。

smb

コンピューター名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

コンピューター名の設定

msh> smb comp コンピューター名

- 最大 15 文字(全角は 2 文字換算)で設定します。
- RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

ワークグループ名の設定

msh> smb group ワークグループ名

- 最大 15 文字(全角は 2 文字換算)で設定します。

コメントの設定

msh> smb comment コメント

- 半角英数 31 文字以下で設定します。

印刷完了通知の設定

msh> smb notif {on|off}

- 印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

コンピューター名の削除

msh> smb clear comp

グループ名の削除

msh> smb clear group

コメントの削除

msh> smb clear comment

プロトコルの表示

msh> smb protocol

snmp

コミュニティー名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> snmp

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

  コミュニティー名：public

IPv4 アドレス：0.0.0.0

IPv6 アドレス：::

IPX アドレス：00000000:000000000000

アクセスタイプ：read-only

有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX

- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

コミュニティー名：Admin

IPv4 アドレス：0.0.0.0

IPv6 アドレス：::

IPX アドレス：00000000:000000000000

アクセスタイプ：read-write

有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX

- "IPX"は、Netware をインストールしたときに表示されます。
- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティー設定内容を表示します。

SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

msh> snmp ?

コミュニティー名の設定

msh> snmp 登録番号 **name** コミュニティー名

- 設定できる登録番号は 1〜10 です。
- 登録番号の 1〜10 に public が存在しない場合、Network Monitor for Admin や Network Monitor for Client から機器を参照することはできません。コミュニティー名を変更した場合、Network Monitor for Admin とともにインストールされる「SNMP コミュニティー名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティー名を変更してください。
- コミュニティー名は英数半角 15 文字以下で設定します。

コミュニティー名の削除

msh> snmp 登録番号 **clear name**

アクセスタイプの設定

msh> snmp 登録番号 **type** アクセスタイプ

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません（not accessible）
read	情報の読み出しのみ可能（read-only）

アクセスタイプ	設定される内容
write	情報の読み出しと書き込みが可能（read-write）
trap	エラー情報を通知（trap）

プロトコルの設定

msh> snmp {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

- "ipx"は、Netware をインストールしたときに表示されます。
- 使用可能なプロトコルを選択します。
- プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません。

登録番号ごとのプロトコルの設定

msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

- "ipx"は、Netware をインストールしたときに表示されます。
- 登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

アクセス設定

msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6|ipx} アドレス

- "ipx"は、Netware をインストールしたときに表示されます。
- 使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- 「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- 「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを、IPX/SPX を使用するときは IPX アドレスを入力します。
- IPX アドレスはホストが接続されているネットワークの番号とホストに取り付けられているネットワークインターフェースボードの MAC アドレス（物理アドレス）をコロン（:）で区切って入力します。

sysLocation の設定

msh> snmp location 文字列

sysLocation の削除

msh> snmp clear location

sysContact の設定

msh> snmp contact 文字列

sysContact の削除

msh> snmp clear contact

SNMP v1v2 機能の設定

msh> snmp v1v2 {on|off}

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

SNMP v3 機能の設定

msh> snmp v3 {on|off}

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

SNMP TRAP の設定

msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

リモート設定許可の設定

msh> snmp remote {on|off}

- SNMP v1, v2 での設定を有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

SNMP v3 TRAP の設定値の表示

msh> snmp v3trap
msh> snmp v3trap [1～5]

- 1～5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定

msh> snmp v3trap [1～5] {ipv4|ipv6|ipx} アドレス

- "ipx"は、Netware をインストールしたときに表示されます。

SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定

msh> snmp v3trap [1～5] active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

- "ipx"は、Netware をインストールしたときに表示されます。

SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定

msh> snmp v3trap [1～5] account アカウント名

- アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除

msh> snmp v3trap [1～5] clear account

SNMP v3 暗号アルゴリズムの設定

msh> snmp v3auth {md5|sha1}

SNMP v3 暗号化の設定

msh> snmp v3priv {auto|on}

- auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
- on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

補足

- 暗号化可能な場合とは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。
- SNMP コミュニティー名設定ツールを使用する場合は、Network Monitor for Admin が必要です。Network Monitor for Admin をご利用の場合は、販売店にご確認ください。

sntp

SNTP の表示、設定は、sntp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> sntp

NTP サーバーの IPv4 アドレスの設定

msh> sntp server アドレス

NTP サーバーのホスト名の設定

msh> sntp server ホスト名

NTP サーバーの設定のクリア

msh> sntp server clear

インターバルの設定

msh> sntp interval インターバル値

- 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60（分）です。
- 設定できる値は 0、15〜10080（分）です。
- 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

タイムゾーンの設定

msh> sntp timezone +/−時間

- NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は−12:00〜+13:00 です。

補足

- ntp サーバーには IPv4 アドレスまたはホスト名のどちらか一方のみ設定できます。

spoolsw

スプール印刷の表示、設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB（TCP/IP（IPv4））、WSD（Printer）、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

現在の設定の表示

msh> spoolsw

スプール印刷機能の設定

msh> spoolsw spool {on|off}

- スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
  工場出荷時の設定は off です。

ジョブの初期化の設定

msh> spoolsw clearjob {on|off}

- スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、本機の電源を再投入したときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off の場合はジョブを初期化せずに印刷を再開します。
- 工場出荷時の設定値は off です。

プロトコルの設定

msh> spoolsw diprint {on|off}

msh> spoolsw lpr {on|off}

msh> spoolsw ipp {on|off}

msh> spoolsw smb {on|off}

msh> spoolsw ftp {on|off}

msh> spoolsw sftp {on|off}

msh> spoolsw wsprn {on|off}

- プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。
- 工場出荷時の設定値は全て on です。

ssdp

SSDP 関連パラメーターの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ssdp

有効時間の設定

msh> ssdp profile [1801～86400]

- 工場出荷時の設定値は 10800（秒）です。

Advertise パケットの TTL の設定

msh> ssdp ttl [1～255]

- 工場出荷時の設定値は 4 です。

ssh

SSH および SFTP 関連パラメーターの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

現在の設定の一覧表示

msh> ssh

データ圧縮通信の設定

msh> ssh compression {on|off}

- 工場出荷時の設定値は on です。

ssh／sftp で通信するポートの設定

msh> ssh port [22,1024～65535]

- 工場出荷時の設定値は 22 です。

ssh／sftp で通信する際のタイムアウト確認（生存確認）の時間設定

msh> ssh timeout [0～65535]

- 工場出荷時の設定値は 300 です。

ssh／sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

msh> ssh logintimeout [0～65535]

- 工場出荷時の設定値は 300 です。

ssh／sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長（Keylength）の作成

msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列（Salt）

- 工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長（Keylength）が 1024、複雑化文字列は NULL（無）です。
- 使用できる文字列は、ASCII（0x20～0x7e）文字列です。
- パラメーター省略時は初期値で公開鍵を作成します。

ssh／sftp で通信する際の公開鍵の削除

msh> ssh delkey

補足

- 設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。
- ssh を使用できるのは sftp のみです。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

表示

msh> status

参照

- P.188「機器の状態」
- P.193「プリントジョブ情報」

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

メッセージの表示

msh> syslog

参照

- P.199「システムログ情報」

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

公開 URL の表示

msh> upnp

公開 URL の設定

msh> upnp url URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

web

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> web

リンク先として登録する URL の設定

msh> web x url URL

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。2 件まで登録できます。
- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

リンク先として登録されている URL を削除する

msh> web x clear url

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

リンク先として登録する URL のリンク名の設定

msh> web x name リンク名

- x は対象番号の 1〜2 を指定します。

リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

msh> web x clear リンク名

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

ヘルプの参照先 URL の設定

msh> web help URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

ヘルプの参照先 URL を削除する

msh> web clear help

wiconfig

無線 LAN の表示、設定は、wiconfig コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wiconfig

無線 LAN カードの情報の表示

msh> wiconfig cardinfo

- 無線 LAN インターフェースが有効になっていない場合、拡張無線 LAN カードの情報は表示できません。

設定

msh> wiconfig パラメーター

パラメーター	設定される項目
mode {ap|802.11adhoc}	インフラストラクチャーモード（ap）または802.11 アドホックモード（802.11 adhoc）の設定ができます。デフォルトはインフラストラクチャーモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。デフォルトは空白です。
channel frequency チャンネル番号	802.11 ad hoc モードで使用するチャンネルは、1～14、36、40、44、48 の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは 11 です。
key 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを 16 進数で入力する場合に指定します。 64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略できます。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。
keyphrase 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。 64-bit WEP を使用する場合は、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用する場合には、13 文字までの半角英数字が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略できます。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
encval {1|2|3|4}	4 つの WEP キーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。 番号を指定しない場合は 1 が設定されます。
wepauth {open|shared}	WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定値と認証モードは次のとおりです。 open：オープンシステム認証（デフォルト） shared：シェアードキー認証
security {none|wep|wpa}	セキュリティー方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none:暗号化なし（デフォルト） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式
wpaenc {tkip|ccmp}	WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。 設定値は次のとおりです。 tkip:TKIP ccmp:CCMP（AES）（デフォルト）
wpaauth {wpapsk|wpa|wpa2psk|wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk：WPA-PSK 認証（デフォルト） wpa：WPA 認証 wpapsk2：WPA2-PSK 認証 wpa2：WPA2 認証
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 8 文字から 63 文字までです。デフォルトは空白です。
eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls :EAP-TLS （デフォルト） ttls：EAP-TTLS leap：LEAP peap：PEAP {chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls} はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択するときに同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。

パラメーター	設定される項目
username 文字列	Radius サーバーへのログインユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
domain 文字列	Radius サーバーへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と"@"と"¥"以外の表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
password 文字列	Radius サーバーへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
srvcert {on|off}	サーバー証明書の認証を設定します。 デフォルトは off です。
imca {on|off}	サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
srvid 文字列	認証サーバーをサーバー ID 及びサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
subdomain [on|off]	サブドメインの許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
connectinfo	コネクト情報を取得します。
clear {各コマンド 1 つ | all}	指定されたコマンドの設定値を初期化します。 all を指定するとすべての設定値を初期化します。
miccheck [on|off] *1	MIC チェックを有効にするかどうかを設定します。 デフォルトは on です。 off に設定すると改ざん検出が一切できなくなります。on の設定で使用することをお勧めします。

*1 無線 LAN ボードが装着されている場合にのみ、使用できます。

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wins

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

WINS 機能の設定

msh> wins インターフェース {on|off}

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

WINS サーバーのアドレス設定

msh> wins インターフェース名 {primary|secondary} IPv4 アドレス

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

NBT（NetBIOS over TCP/IP）スコープ ID の設定

msh> wins インターフェース scope スコープ ID

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

wsmfp

WSD（Device）、WSD（Printer）の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wsmfp

コメントの設定

msh> wsmfp comments 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

ロケーションの設定

msh> wsmfp location 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

プレゼンテーション URL の設定

msh> wsmfp url URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

WSD（Device）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp devport ポート番号

- 初期値は 53000 です。

WSD（Printer）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp prnport ポート番号

- 初期値は 53001 です。

WSD（Printer）の受信タイムアウト（秒）の設定

msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30～65535]

- 工場出荷時の設定値は 900（秒）です。

コメントを初期化する

msh> wsmfp clear comments

ロケーションを初期化する

msh> wsmfp clear location

プレゼンテーション URL を初期化する

msh> wsmfp clear url

8021x

IEEE 802.1X 関連パラメーターの表示、設定は 8021x コマンドを使用します。

関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

msh> 8021x

EAP タイプ及びフェイズ 2 メソッドの指定

msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}

- 最後の引数は、その前の引数で[ttls]を指定した場合には[chap][mschap][mschapv2][pap][md5]が、[peap]を指定した場合には[mschapv2][tls]が指定できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

ユーザー名の指定

msh> 8021x username ユーザー名

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

フェイズ 2 ユーザー名の指定

msh> 8021x username2 ユーザー名

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

ドメイン名の指定

msh> 8021x domain ドメイン名

- ドメイン名は、[@]と[¥]をのぞいた半角英数と表示可能な半角記号で最大 64 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

パスワードの指定

msh> 8021x password パスワード

- パスワードは、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サーバー証明書の認証を設定

msh> 8021x srvcert {on|off}

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可を指定

msh> 8021x imca {on|off}

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サーバー ID の指定

msh> 8021x srvid サーバー ID

- サーバー ID は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サブドメイン許可の指定

msh> 8021x subdomain {on|off}

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

ユーザー名の消去

msh> 8021x clear username

フェイズ 2 ユーザー名の消去

msh> 8021x clear username2

ドメイン名の消去

msh> 8021x clear domain

パスワードの消去

msh> 8021x clear password

サーバー ID の消去

msh> 8021x clear srvid

IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化

msh> 8021x clear all

- 初期化しても IEEE 802.1X 認証有効化設定（イーサネット、無線 LAN 共に）は消去されません。

SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。

ネットワークに接続されている場合、UDP と IPX 上で動作する SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントが組み込まれています。

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

重要

- **本機のコミュニティー名を工場出荷時から変更した場合、SNMP コミュニティー名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは SNMP コミュニティー名設定ツールのヘルプを参照してください。**
- **SNMP コミュニティー名設定ツールを使用する場合は、Network Monitor for Admin が必要です。Network Monitor for Admin をご利用の場合は、販売店にご確認ください。**

工場出荷時のコミュニティー名には「public」と「Admin」が設定されています。このコミュニティー名で MIB 情報を取得することができます。

SNMP コミュニティー名設定ツールの起動

- Windows 2000 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし［プログラム］から［Network Monitor for Admin］をポイントして［SNMP コミュニティー名設定ツール］を起動します。
- Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008 R2 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし［すべてのプログラム］から［Network Monitor for Admin］をポイントして［SNMP コミュニティー名設定ツール］を起動します。

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いのオプションによっては、表示されないステータスがあります。

- UNIX の場合

  lpq、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  status コマンドを使います。

Access Restricted

利用権限が無いのでジョブがキャンセルされました。

Call Service Center

エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。サービスに連絡してください。

Canceling Job...

ジョブをリセットしています。

Configuring...

設定を変更しています。

Cover Open: Front Cover

本体前カバーが開いています。

Cover Open: Upper Exit

排紙カバーが開いています。

Cover Open: Mainframe

本体ユニットカバーが開いています。

Empty: Black Toner

ブラックトナーがなくなりました。

Energy Saver Mode

省エネモード中です。

Error: Ethernet Board

イーサネットボードに異常が発生しました。

Error: HDD Board

ハードディスクエラーが発生しました。

Error: Optional Font

プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。

Error: Parallel I/F Board

パラレルインターフェースにエラーが発生しました。

Error: PDL

ページ記述言語にエラーが発生しました。

Error: Rem. Certificate Renewal

証明書の自動更新時にエラーが発生しています。

Error: USB Interface

USB インターフェースにエラーが発生しました。

Error: Wireless Card

起動時に拡張無線 LAN カードがありませんでした。 拡張無線 LAN カードが起動後に抜かれました。

Full: Waste Toner

廃トナーが満杯です。

Hex Dump Mode

ヘキサダンプモード中です。

In Use: Input Tray

他の機能が給紙トレイを使用しています。

Jobs Suspended

一時停止中です。

Loading Toner...

トナーを補給中です。

Low: Toner

黒トナーが残り少なくなりました。

Malfunction: Tray 1

給紙トレイ 1 に異常が発生しました。

Malfunction: Tray 2

給紙トレイ 2 に異常が発生しました。

Malfunction: Tray 3

給紙トレイ 3 に異常が発生しました。

Mismatch: Paper Size

選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。

Mismatch: Paper Size and Type

選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。
自動トレイ選択を指定したときに、指定された用紙種類とサイズがありません。

Mismatch: Paper Type

選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。

Nearly Full: Waste Toner

廃トナーがもうすぐ満杯です。

No Paper: Selected Tray

指定されたトレイに用紙がありません。

No Paper: Tray 1

トレイ 1 に用紙がありません。

No Paper: Tray 2

トレイ 2 に用紙がありません。

No Paper: Tray 3

トレイ 3 に用紙がありません。

Not Detected: Input Tray

給紙トレイが正しくセットされていません。

Offline

オフライン状態です。

Panel Off Mode

予熱モード状態です。

Paper Error: Remaining in Bypass

手差しトレイに用紙が残っています。

Paper Misfeed: Paper Tray

給紙トレイで紙づまりが発生しました。

Paper Misfeed: Internal/Output

本体内部で紙づまりが発生しました。

Prepaid card not inserted

プリペイドカードがセットされていないか、度数の残りがありません。

Printing...

印刷中またはデータ受信中です。

Proxy User/Password Incorrect

プロキシユーザー名・パスワードが正しく設定されていません。

Ready

正常です。

Renewing Remote Certificate

Remote 証明書を更新中です。

SD Card Authentication failed

SD カードからの認証に失敗しました。

Supplies Order Call failed

消耗品発注コールに失敗しました。

Warming Up...

準備中です。

補足

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、『プリンター機能編』「印刷条件リストを印刷する」を参照してください。

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と項目の説明です。

- UNIX の場合

  rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  info コマンドを使います。

給紙トレイ（Input Tray）

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
Page Size	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 • Normal：正常 • NoInputTray：トレイなし • PaperEnd：用紙なし

排紙トレイ（Output Tray）

項目	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 • Normal：正常 • PaperExist：用紙あり • OverFlow：用紙が満杯 • Error：その他エラー

エミュレーション（Emulation）

項目	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得できる情報の詳細です。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合

  lpq、rsh、rcp、ftp、および sftp の stat パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。
- telnet の場合

  status コマンドを使います。

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 • Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 • 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。*1

*1 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

プリントログ情報

これまでに印刷したジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合

  rsh、rcp、ftp、および sftp の prnlog コマンドを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。
- telnet の場合

  prnlog を使います。

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	通信結果が表示されます。 • Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 • Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 • Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。
Use ID（telnet で Job ID を指定した場合）	ユーザー ID が表示されます。
JobName（telnet で Job ID を指定した場合）	ジョブ名が表示されます。

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いのオプションによっては、表示されない項目があります。

- telnet の場合

  show コマンドを使います。

Protocol Up/Down

次のプロトコルが表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

IPv4、IPv6、IPsec、NetWare、SMB

Device Up/Down

次のデバイスが表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

Parallel、USB

Ethernet interface

イーサネット速度が表示されます。

Syslog priority

「LOG_INFO」と表示されます。

NVRAM version

NVRAM のバージョンが表示されます。

Device name

機器名が表示されます。

Comment

コメントが表示されます。

Location

設置場所が表示されます。

Contact

連絡先が表示されます。

Soft switch

「soft switch」が表示されます。

TCP/IP

次の項目が表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

- Mode(IPv4)
- Mode(IPv6)

  ftp、lpr、rsh、diprint、web、http、ftpc、snmp、ipp、autonet、Bonjour、ssl、nrs、rfu、nbt、ssdp、ssh、sftp、WSD (Device)、WSD (Printer)
- IPv4

  DHCP、Address、Netmask、Broadcast、Gateway
- IPv6

  Stateless、Manual、Gateway、DHCPv6-lite、DUID、DHCPv6 option lifetime
- IPsec

  Manual Mode、Excluded Protocol (https、dns、dhcp、wins)
- EncapType
- Host name
- DNS Domain
- Access Control

  IPv4: Access Entry [1]-[5]

  IPv6: Access Entry [1]-[5]
- SNTP Server
- Time Zone
- SNTP Server polling time
- SYSLOG server

- Home page URL1
- Home page link name1
- Home page URL2
- Home page link name2
- Help page URL

NetWare

次の項目が表示されます。

- EncapType
- RPRINTER number
- Print server name
- File server name
- Context name
- Switch

  Mode、NDS/Bindery、Packet negotiation、Login Mode
- Print job timeout
- Protocol
- SAP interval time
- NDS Tree Name
- Transfer Protocol

SMB

次の項目が表示されます。

- Switch

  Mode、Direct print、Notification
- Workgroup name
- Computer name
- Comment
- Share name[1]
- Protocol

Wireless LAN

次の項目が表示されます。

Host name、Communication Mode、SSID、Channel、Security、WEP Authentication、WEP Encryption key number、WEP Encryption keys [1]-[4]、WPA Encryption、WPA Authentication、Pre-Shared Key、User name、Domain name、EAP Type、Password、

Phase 2 user name、Phase 2 Method TTLS、Phase 2 Method PEAP、Server cert.、Intermediate CA、Server ID、Sub domain、Mic check

Ethernet

次の項目が表示されます。

802.1X Authentication

DNS

次の項目が表示されます。

- IPv4

  Server[1]-[3]、Selected IPv4 DNS Server

- IPv6

  Server[1]-[3]、Selected IPv6 DNS Server、Resolver Protocol

Domain name

次の項目が表示されます。

ether, wlan

DDNS

次の項目が表示されます。

ether, wlan

WINS

次の項目が表示されます。

- ether

  Primary WINS、Secondary WINS

- wlan

  Primary WINS、Secondary WINS

SSDP

次の項目が表示されます。

UUID, Profile, TTL

UPnP

次の項目が表示されます。

URL

Bonjour

次の項目が表示されます。

Computer Name(cname)、Local Hostname (ether)、Local Hostname (wlan)、Location、Priority (diprint)、Priority (lpr)、Priority (ipp)、IP TTL、LinkLocal Route for Multi I/F、IPP Port

SNMP

次の項目が表示されます。

SNMPv1v2、SNMPv3、protocol、v1Trap、v2Trap、v3Trap、SNMPv1v2 Remote Setting、SNMPv3 Privacy

ssh

次の項目が表示されます。

Compression、Port、TimeOut、LoginTimeOut

AuthFree

次の項目が表示されます。

- IPv4

  AuthFree Entry[1]-[5]
- IPv6

  AuthFree Entry[1]-[5]
- Parallel
- USB

LPR

次の項目が表示されます。

lprm check host、lpr prnerrchk

Certificate

次の項目が表示されます。

Verification

WS-MFP

次の項目が表示されます。

Network Device Name、Comments、Location、Presentation URL、WSD (Device) TCP Port、WSD (Printer) TCP Port、WSD (Printer) Job Timeout、MetadataVersion、UUID

IEEE 802.1X

次の項目が表示されます。

User name、Domain name、EAP Type、Password、Phase 2 user name、Phase 2 Method TTLS、Phase 2 Method PEAP、Server cert、Intermediate CA、Server ID、Sub domain

Shell mode

「User mode」と表示されます。

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティーやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合

  rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。

  Widows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  syslog コマンドを使います。

Access to NetWare server <ファイルサーバー名> denied. Either there is no account for this print server on the NetWare server on the password was incorrect.

プリントサーバーが作動しているとき、ファイルサーバーにログインすることができません。<ファイルサーバー名>上にプリントサーバーが登録されているか確認してください。プリントサーバーにパスワードを設定している場合はパスワードを削除してください。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください。

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されておらず、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

add_sess_IPv4:bad trap addr:<IPv4 アドレス>, community:<コミュニティー名>

コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定してください。

add_sess_IPv6:bad trap addr:<IPv6 アドレス>, community:<コミュニティー名>

コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [: :]は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定してください。

add_sess_IPv4: community <コミュニティー名> already defined.

コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。

add_sess_IPv6: community <コミュニティー名> already defined.

コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。

add_sess_IPX: bad trap addr: <IPX アドレス>, community:<コミュニティー名>

コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPX アドレス 00:00:00:00:00:00 は無効です。Trap 送信先ホストの IPX アドレスを指定してください。

add_sess_IPX: community <コミュニティー名> already defined.

コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しないコミュニティー名を設定してください。

adjust time server <NTP サーバー> offset:XX sec.

ncsd が NTP サーバーとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。

NTP サーバー：NTP サーバー名

offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）

Attach FileServer =<ファイルサーバー>

ニアレストサーバーとして<ファイルサーバー>にアタッチしました。

Attach to print queue <プリントキュー名>

プリントサーバーが動作しているとき、<プリントキュー名>にアタッチしました。

authenticated

サプリカントは認証されました。

authenticating

サプリカントが、アクセスポイントとの認証処理（EAP または WPA）中です。

authentication mode mismatch

アクセスポイントの認証モードが、サプリカントが利用したいものと違います。サプリカントとアクセスポイントの認証モードを同じにしてください。

centrod is disabled.

セキュリティーモード設定で centrod（パラレル）が無効に設定されている場合、centrod（パラレル）起動後に出力されます。この場合、パラレル通信はできません。セキュリティーモード設定で centrod（パラレル）を有効にしてください。

child process exec error !（プロセス名）

ネットワーク関連のプロセス起動に失敗しました。電源を再投入しても回復しない場合は、サービス実施店にご連絡ください。

cipher suite mismatch

アクセスポイントのユニキャスト/マルチキャスト暗号化スイート（TKIP/AES/WEP）が、サプリカントが利用したいものと違います。

client EAP method rejected

RADIUS サーバーが、サプリカントによって選択された EAP メソッドを拒絶しました。

client password rejected

ユーザー名またはパスワードが正しくありません。ユーザー名とパスワードを確認してください。

client TLS certificate rejected

クライアントの TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Connected DHCP Server （<DHCP サーバーアドレス>）.

DHCP サーバーからの IP アドレス取得に成功しました。

Connected DHCPv 6 server <IPv6 アドレス>

接続した DHCPv6 サーバーは、<IPv6 アドレス>です。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続時にのみ表示されます。再接続時には表示されません。

connecting

サプリカントが、アクセスポイントとの無線接続待ちです。

Could not attach to FileServer <エラー番号>

リモートプリンターが起動しているとき、ファイルサーバーにアタッチできません。ファイルサーバーが何らかの理由で接続を拒否しています。

Could not attach to PServer <プリントサーバー名>

リモートプリンターが起動しているとき、プリントサーバーにアタッチできません。プリントサーバーが何らかの理由で接続を拒否しています。

connection from <IP アドレス>

ホスト<IP アドレス>よりログインされました。

Current Interface Speed : <EhternetI/F 速度>

現在の Ethernet I/F の速度です。（10Mbps、100Mbps、または 1Gbps）

Current IP address （<現在の IP アドレス>）.

DHCP サーバーから取得した<現在の IP アドレス>で動作します。

Current IPX address <IPX アドレス>

IPX アドレスが<IPX アドレス>です。

DHCP lease time expired.

DHCP リース切れになりました。DHCP Discover を再び行います。なお、使用していた IP アドレスが使用できなくなります。

DHCP server not found.

DHCP サーバーが見つかりませんでした。ネットワーク上に DHCP サーバーが起動していることを確認してください。

DHCPv6 server not found.

DHCPv6 サーバーがみつかりません。ネットワーク上に DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。

disconnected

サプリカントは接続されていない状態です。

Duplicate IP=<IP アドレス>（from<MAC アドレス>）.

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

Established SPX Connection with PServer, （RPSocket=<ソケット番号>, connID=<コネクション ID>）

リモートプリンターが起動しているとき、プリントサーバーとコネクションを確立しました。

exiting

lpd のサービスを終了しプロセスを EXIT しています。

Exit pserver

プリントサーバーが起動しているとき、必要な設定がされていないため、プリントサーバーを終了しました。

Frametype=<フレームタイプ名>

NetWare で使用するフレームタイプを<フレームタイプ名>に設定しました。

httpd start.

httpd が起動しました。

IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.

WPA をサポートしていない無線 LAN カードが装着されています。WPA 対応の無線 LAN カードを装着してください。

IEEE 802.11 Card Firmware REV.<バージョン>

無線 LAN カードファームウェアのバージョンです。

IEEE 802.11 current channel <チャンネル番号>

アドホックおよびインフラストラクチャモードでの無線 LAN 接続先変更時に表示される、現在動作中のチャネル番号です。

IEEE 802.11 MAC Address = <MAC アドレス>

無線 LAN インターフェースの MAC アドレスです。

IEEE 802.11 SSID <ssid> （AP MAC Address <MAC アドレス>）

インフラストラクチャモード時の接続したアクセスポイントの SSID およびアクセスポイントの MAC アドレスです。

IEEE 802.11 <通信モード> mode

IEEE 802.11 の通信モードを表示します。

(IKE phase-1) mismatched authentication type : local=<相手認証方式 1> remote =<相手認証方式 2>

IKE フェーズ 1 における本機の<相手認証方式 1>と通信相手の<相手認証方式 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched encryption type : local=<暗号アルゴリズム 1> remote =<暗号アルゴリズム 2>

IKE フェーズ 1 における本機の<暗号アルゴリズム 1>と通信相手の<暗号アルゴリズム 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched DH group : local=<DH グループ番号 1> remote =<DH グループ番号 2>

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ<DH グループ番号 1>と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ<DH グループ番号 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched hash type : local=<ハッシュアルゴリズム 1> remote =<ハッシュアルゴリズム 2>

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA <ハッシュアルゴリズム 1>と通信相手の ISAKMP SA <ハッシュアルゴリズム 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。

IKE [% s] is disable, set PSK text.

PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリーを無効としました。対象 IKE エントリーの PSK 文字列を設定してください。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface（インターフェース名）：Duplicate IP Address（<IP アドレス>）.

本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。

<Interface name> card removed

サプリカントによって管理されている無線カードが取り除かれました。

<Interface name> interface down

サプリカントに管理されているインターフェースが無効です。

<Interface name> interface up

サプリカントに管理されているインターフェースが有効です。もしくはアクセスポイントに無線接続されたところです。

< Interface > started with IP: <IP アドレス>

インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。

<Interface>: Subnet overlap.

<Interface>に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

IPP cancel -job: permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザー名による認証に失敗しました。

IPP job canceled. jobid=%d.

エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

job canceled. jobid=<ジョブ ID>

エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

LEAP challenge to access point failed

アクセスポイントへの LEAP チャレンジが失敗しました。

LeaseTime=<リース時間>(sec), RenewTime=<更新間隔>(sec).

DHCP サーバーから取得したリソースのリース時間は<リース時間>秒、更新時間は<更新間隔>秒です。

Login to fileserver <ファイルサーバー名> (<IPX|IP>, <NDS|BINDERY>)

プリントサーバーが動作しているとき、<ファイルサーバー>に NDS または BINDEY モードでログインしました。使用しているトランスポートプロトコルも表示します。

Manual [%s] is disable, set authentication key.

認証鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。対象手動 SA エントリーの認証鍵を設定してください。

Manual [%s] is disable, set encryption key.

暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。対象手動 SA エントリーの暗号鍵を設定してください。

Memory allocate error.

メモリーの取得に失敗しました。USB ケーブルの抜き差しを行ってください。

MIC failure TKIP counter measures started

TKIP を用いているサプリカントが、60 秒以内に 2 箇所のデータ改ざんを見つけ、その対策を開始しました。

MIC failure TKIP counter measures stopped

TKIP を用いているサプリカントが、データ改ざんが見つかり対策を開始して 60 秒経ち、その対策を止めました。

Name registration failed. name=<NetBIOS 名>

<NetBIOS 名>の名前登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

Name registration success in Broadcast name =<NetBIOS 名>

ブロードキャストによる<NetBIOS 名>の名前登録に成功しました。

Name registration success. WINS Server=<WINS サーバーアドレス> NetBIOS Name=<NetBIOS 名>

<WINS サーバーアドレス>への<NetBIOS 名>の名前登録が成功しました。

nbtd start.

nbtd（NetBIOS over TCP/IP Daemon)を起動しました。

npriter start. (NetWare)

プリントサーバーが動作しているとき、NetWare サービスをリモートプリンタモードで起動しました。

no RADIUS/authentication server

サプリカントが、利用可能な RADIUS サーバーがないというメッセージを受信しました。

no smart card detected on device

PEAP/GTC（Generic Token Card）が選択されましたが、GTC 認証でスマートカードが見つかりませんでした。

no SSID in scan result

スキャンした結果、希望している SSID は見つかりませんでした。SSID が利用不可もしくは、アクセスポイント/多重チャネルからの信号が弱いためかもしれません。

no WPA information element in probe response,rescanning

希望している SSID があるアクセスポイントからの Probe Response には、WPA の情報要素がありませんでした。サプリカントは、再スキャンしています。

nwstart start. (NetWare)

NetWare プロトコルスタック設定サーバーが起動しました。

Open log file <ファイル名>

プリントサーバーが動作しているとき、監視ログファイルをオープンしました。

permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザー名やホストアドレスによるチェックで権限なしと判定されました。(root 権限を除く)

Printer <プリンター名> has no queue

プリントサーバーが動作しているとき、<プリンター名>にプリントキューが割り当てられていません。NetWare アドミニストレーターで割り当て後、プリンターを再起動してください。

Print queue <プリントキュー名> cannot be serviced by printer 0,<プリントサーバー名>

プリントサーバーが動作しているとき、<プリンター名>をサービスできません。プリントキューのボリュームが指定のファイルサーバー上に存在するか確認してください。

Print server <プリントサーバー名> has no printer

プリントサーバーが動作しているとき、<プリントサーバー名>にプリンターが割り当てられていません。NetWare アドミニストレーターで割り当て後、プリンターを再起動してください。

print sessions full

接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。

pserver start. (NetWare)

プリントサーバーが動作しているとき、NetWare サービスをプリントサーバーモードで起動しました。

Required file server (<ファイルサーバー名>） not found

<ファイルサーバー名>で設定されたファイルサーバーが見つかりませんでした。

restarted.

LPD が開始しました。

sap enable. saptype=<SAP タイプ>, sapname=<SAP 名>

SAP 機能が起動されました。SAP（SAP タイプ、SAP 名）パケットを発行し、NetWare サーバー上の SAP テーブルにサービスの存在を登録します。

server certificate invalid

サプリカントが、サーバー証明書が無効であることを検知しました。

server identity invalid

サプリカントが、サーバー名が無効であることを検知しました。

server not trusted

RADIUS サーバーは信用できません。

session_IPv4 <コミュニティー名> not defined.

認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。

session_IPv6 <コミュニティー名> not defined.

認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。

session_IPX <コミュニティー名> not defined.

認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。

Set context to <NDS コンテキスト名>

<NDS コンテキスト名>を設定しました。

shutdown signal received . network service rebooting ...

ネットワークのリブート処理を行います。

smbd start. (NetBIOS)

smbd（Server Message Block Daemon）が起動しました。

Snmpd Start.

snmpd が起動しました。(電源が入っている時のみ表示)

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名とネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. [応答コード] （インフォメーション）

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPX is ready.

IPX 上での SNMP 通信が可能です。

started.

ダイレクトプリントサービスを開始しました。

started.

IKE サービスが起動しました。

Started.

Rendezvous 機能が起動しました。

stopped

サプリカントは停止しています。

success key received

サプリカントが EAP-Success キーを受け取りました。

success but invalid key

サプリカントは EAP 認証が成功したというメッセージを受け取ったが、EAPOL キーが無効です。

supplicant started

サプリカントが起動しました。

supplicant unbound

サプリカントが起動しましたが、アクセスポイントには接続されていません。

terminated.

手動 SA および IKE の設定がひとつも存在しないため、IKE サービスが停止しました。

Terminated.

Rendezvous 機能が終了しました。

There is problem in dhcp server operation.

複数の DHCP サーバーを設置している場合は、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバー間で矛盾がないかを確認してください。

The print server received error <エラー番号> during attempt to log in to the network. Access to the network was denied. Verify that the print server name and password are correct.

プリントサーバーが動作しているとき、ファイルサーバーへのログインに失敗しました。プリントサーバーが登録されていないか、パスワードが与えられています。プリントサーバーをパスワードなしで登録してください。

trap account is unavailable.

v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。

unauthenticated

認証に失敗しました。サプリカントが、アクセスポイントから拒絶されたか、認証されていない状態です。

Updated （オプション名） （値） via DHCPv6 Server

DHCPv6 サーバーから取得したパラメーターが更新されました。本メッセージは、新規で取得したパラメーターが以前に取得していたパラメーターから変更していたときに表示されます。

usbd is disabled.

セキュリティーモード設定時に usbd が使用不可に設定されている場合、usbd 起動後に出力されます。この場合、PnP 及び印刷はできません。セキュリティーモード設定にて、usbd を使用可にしてください。

waiting for keys

サプリカントがセッションキーを待っています。

WINS name registration : No response to server （WINS サーバーアドレス）

登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスに誤りがないか確認してください。または、WINS サーバーが正常に動作しているか確認してください。

WINS wrong scopeID = <スコープ ID>

不正なスコープ ID が使用されています。正常なスコープ ID を設定してください。

write error occurred. （diskfull）

スプールファイル書き込み中にディスクフルが検知されました。印刷処理が進み、HDD の空き容量が増えるのを待ってください。分割スプール対応以前のみ出力されます。

write error occurred. （fatal）

スプールファイル書き込み中に致命的なエラーが検知されました。電源再投入後に復帰しない場合は、サービスを依頼してください。

WSD (Device) started.

WS-Device（WSD（Device））が起動しました。

WSD (Printer) started.

WS-Printer（WSD（Printer））が起動しました。

5. 宛先・ユーザーを登録する

宛先やユーザーを登録する方法を説明します。

アドレス帳について

ユーザーごとにメール宛先などを登録して一括管理することができます。

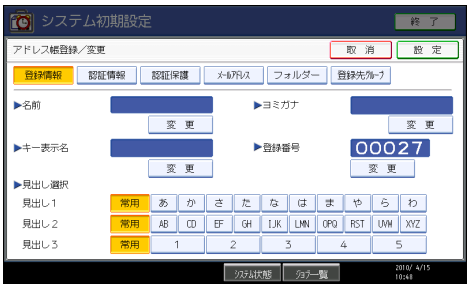
重要

- **アドレス帳の登録データは、ハードディスクに記録されます。万一、本機のハードディスクに不具合が生じた場合、記録されたデータが消失することがあります。お客様のデータ消失による損害につきましては、当社は一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**
- **アドレス帳の登録データはバックアップを取ることをお勧めします。バックアップの方法は、「管理者用設定」のアドレス帳バックアップ/リストアを参照してください。**

アドレス帳で登録・管理できる内容は次のとおりです。

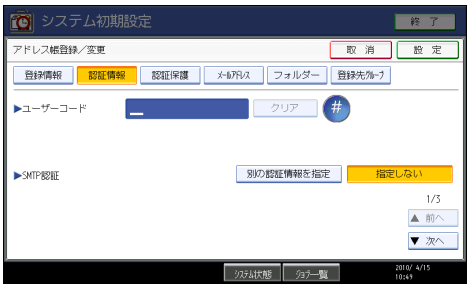
登録情報

アドレス帳にユーザー名または宛先名、キー表示名、ヨミガナなどを登録します。ユーザーや宛先を管理するための基本情報となります。メールアドレスなどをアドレス帳に登録するには、あらかじめ登録情報を登録する必要があります。



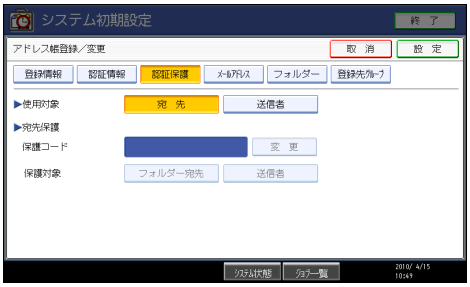
認証情報

利用者ごとに機能を制限し、使用状況を確認するためにユーザーコードを登録します。また、SMTP 認証、フォルダー認証、LDAP 認証の設定を行います。



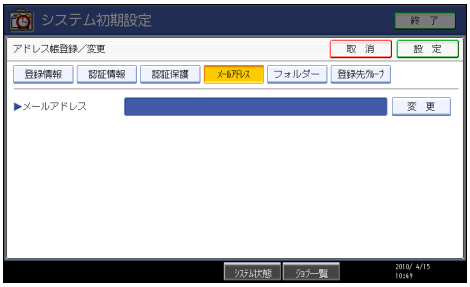
認証保護

成りすまし送信やフォルダーへの未承認アクセスを防ぐための、使用対象、保護コード、保護対象を設定します。



メールアドレス

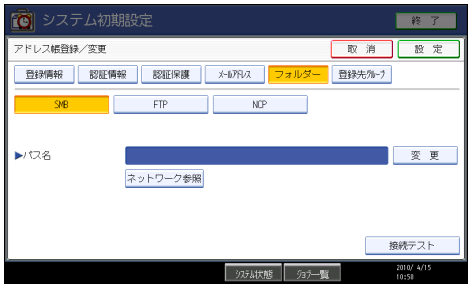
ユーザーや相手先のメールアドレスを登録します。



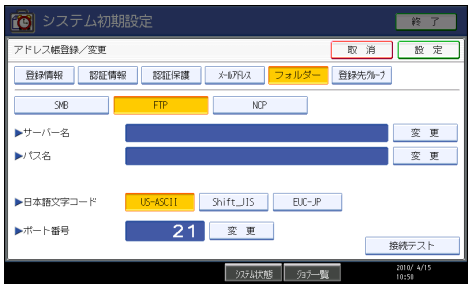
フォルダー

プロトコル、サーバー名、フォルダー階層を設定します。

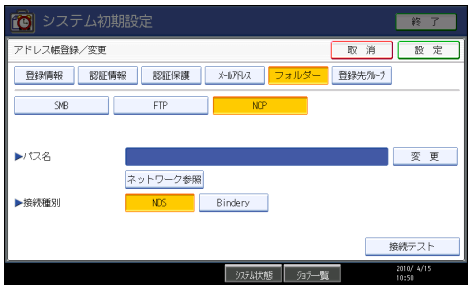
- SMB



- FTP

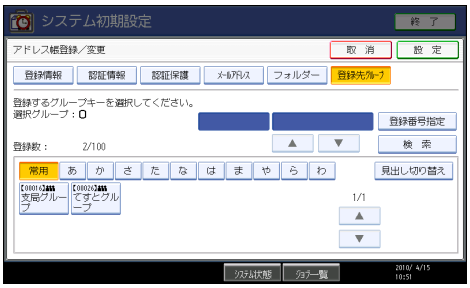


- NCP



登録先グループ

メール、フォルダーの宛先をグループに登録します。



補足

- ネットワーク上のパソコンから Web Image Monitor を使用して、アドレス帳の登録、変更、消去をすることができます。
- Web Image Monitor を使って、アドレス帳に登録されている内容のバックアップをとることができます。バックアップをとってお使いいただくことをお勧めします。詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- Web Image Monitor の操作方法については、Web Image Monitor のヘルプまたは「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

参照

- P.53「管理者用設定」
- P.127「Web ブラウザーを使う」

ユーザー名や宛先を管理する

名前とキー表示名をあらかじめ登録しておくと、宛先キーを押すだけで相手を指定できるので、メール、フォルダーを選択するときに便利です。

参照

• P.216「名前の登録」

ワンタッチでメールを送信する

スキャナー機能で読み取った文書をメールで送信するとき、スキャナー初期画面に表示される相手先を選択するだけでメールアドレスを指定することができます。登録されたメールアドレスは、送信者のものとしても使うことができ、メールヘッダーの From:フィールドには送信者のメールアドレスが自動的に入力されます。

参照

• P.233「メール宛先について」

ワンタッチでファイルをフォルダーに直接送信する

アドレス帳にパス名、ユーザー名、パスワードなどを登録しておくと、スキャナー機能で読み取った文書を直接共有フォルダーに送信するとき、スキャナー初期画面に表示される相手先を選択するだけで共有フォルダーに接続できます。

Windows および Mac OS 上でフォルダーを共有したいときは SMB プロトコルを選択します。

FTP サーバーのフォルダーを登録するときは FTP プロトコルを選択します。

NetWare サーバーのフォルダーを登録するときは NCP プロトコルを選択します。

参照

• P.238「フォルダーを登録する」

成りすまし送信や、本機から共有フォルダーへの未承認アクセスを防ぐ

認証保護の使用対象を設定し、宛先保護コードを登録しておくと、メール宛先、メール送信者名、フォルダー宛先が他の人に使われないようにすることができます。

また未承認ユーザーが本機から登録フォルダーにアクセスできないようにすることができます。

参照

• P.269「認証保護について」

本機の利用者及び使用状況を管理する

ユーザーコードを登録し、ユーザーコード認証を設定しておくと、以下の機能ごとに使用者を制限し、使用状況を確認することができます。

- コピー機能
- ドキュメントボックス機能
- スキャナー機能
- プリンター機能

参照

- P.222「ユーザーコード認証について」

名前の登録

名前や見出しなどのユーザー情報を登録します。

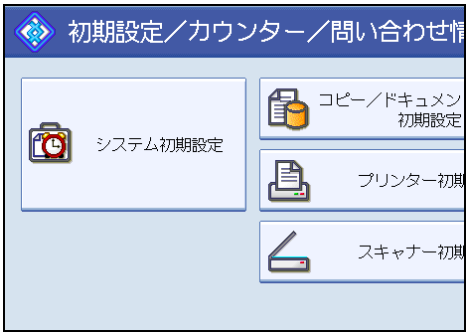
ユーザー情報を登録しておくと、メール宛先やフォルダー登録などでユーザーを選択するだけで登録できます。

名前の登録は 2000 件まで登録できます。

名前を登録する

ユーザー情報に名前を登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. ［新規登録］を押します。
7. 「名前」の［変更］を押します。

   名前を入力する画面が表示されます。
8. 名前を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. ユーザーを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。

10. ［設定］を押します。

11. ［閉じる］を押します。

12. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

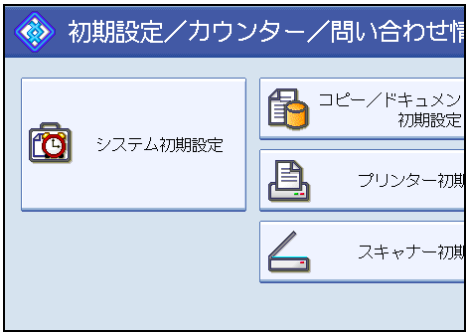
- ヨミガナは名前を入力した文字が自動で登録されます。自動登録されたヨミガナを後から変更することもできます。
- ヨミガナを登録しておくと、名前を検索するときに便利です。検索するときは、ヨミガナの全角・半角を区別します。
- Web Image Monitor から登録するとき、ヨミガナの自動登録はできません。
- 名前は、ドキュメントボックス機能で文書につけるユーザー名として使用できます。
- ［見出し選択］で選択できるキーは次のとおりです。
  - ［常用］：最初に表示されるページに登録されます。
  - ［あ］-［わ］、［AB］-［XYZ］、［1］-［5］：それぞれの見出しのついたページに表示されます。
- ［見出し選択］では「常用」と各見出しごとにもう 1 つ選択できます。
- ドキュメントボックス機能については『コピー機能&ドキュメントボックス機能編』「ドキュメントボックスの操作」を参照してください。

名前を変更する

ユーザー情報に登録した名前を変更します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 変更したいユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
7. 名前、キー表示名またはヨミガナを変更するときは、名前、キー表示名またはヨミガナの［変更］を押します。
8. 名前、キー表示名またはヨミガナを入力し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。
9. 見出しを変更するときは、ユーザーを分類しておきたい見出し選択の見出しキーを押します。
10. ［設定］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

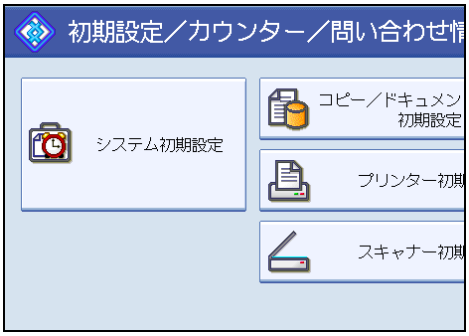
- ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

登録番号を変更する

ユーザー情報の登録番号を変更します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



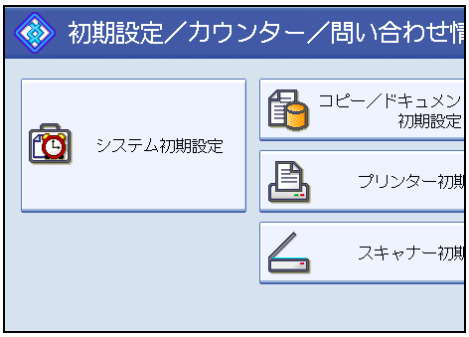
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 変更したいユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
7. 登録番号の［変更］を押します。
8. 登録番号をテンキーで入力し、［#］を押します。
9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

ユーザーを消去する

ユーザー情報を消去します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［消去］を押します。
6. 消去したいユーザーを選択します。
   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

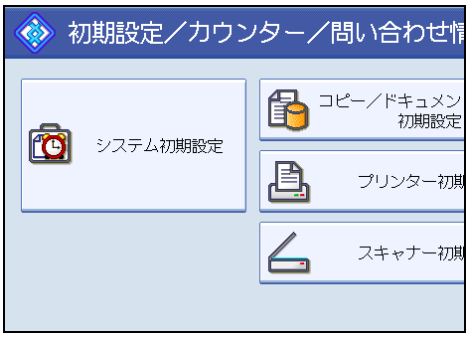
アドレス帳自動登録時に登録されているデータを利用する

「Windows 認証」、「LDAP 認証」におけるアドレス帳自動登録時に、登録されているユーザーと同じ認証管理に適応する設定になります。

重要

- **「Windows 認証」、「LDAP 認証」設定が必要です。Windows 認証、LDAP 認証についての詳細は、管理者に問い合わせてください。**

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳自動登録時データ利用設定］を押します。
5. ［データを利用する］を押します。
6. テンキーで登録番号を入力し、［#］キーを押します。
7. ［設定］を押します。
8. ［初期設定/カウンター/問合せ情報］キーを押します。

ユーザーコード認証について

ユーザーコード認証について説明します。

重要

- **ユーザーコードはすべての機能に共通です。ユーザーコードを変更、消去した場合、そのユーザーコードはすべての機能で管理、制限が無効になります。**

ユーザーコードを登録し、ユーザーコード認証を設定することによって、以下の機能ごとに使用者を制限し、使用状況を確認することができます。

- コピー機能
- ドキュメントボックス機能
- スキャナー機能
- プリンター機能

補足

- ユーザーコードの登録は 500 件まで登録できます。
- スキャナー機能を使って本機に読み込んだ枚数は、ユーザーコードごとにカウントされるので、各ユーザーごとに使用状況を確認できます。
- プリンタードライバーのユーザーコードを自動的に登録するときは、「ユーザー認証管理」で「プリンター自動登録」を選択してください。プリンタードライバーにはシステム初期設定で登録したユーザーコードを設定します。詳細については、「管理者用設定」を参照してください。
- プリンタードライバーのユーザーコードの設定については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

参照

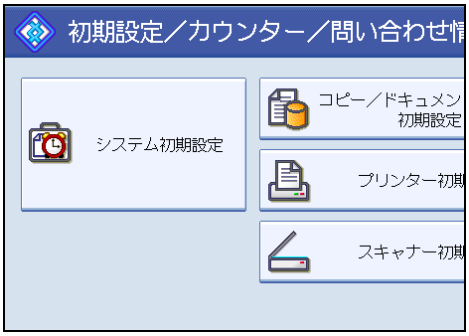
- P.53「管理者用設定」

ユーザーコードを登録する

ユーザーコードを登録します。

1. **[初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。**

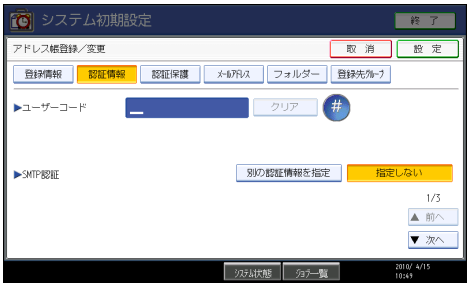
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. ユーザーコードを登録したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

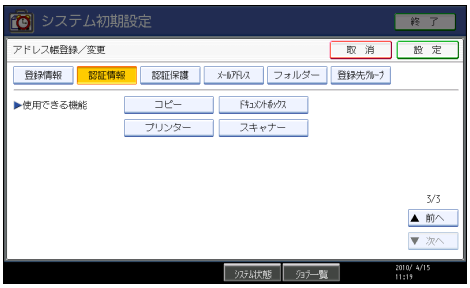
7. ［認証情報］を押します。
8. ユーザーコードをテンキーで入力し、［#］キーを押します。



   間違えたときは［クリア］または［クリア／ストップ］キーを押して入力し直します。

9. ［▼次へ］を 2 回押します。

10. 「使用できる機能」で、登録するユーザーに使用を許可する機能を選択します。



11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ユーザーコードは 1 桁から 8 桁まで指定できます。
- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。

参照

- P.216「名前を登録する」

登録してあるユーザーコードを変更する

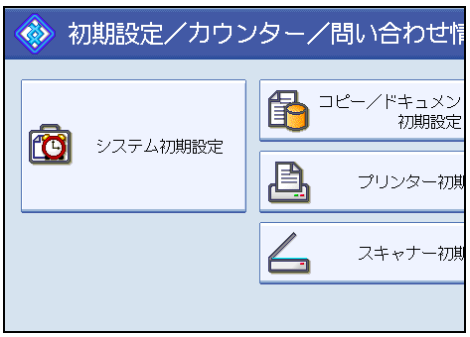
登録してあるユーザーコードを変更します。

重要

- **ユーザーコードを変更しても、カウンターの数値はクリアされません。**

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

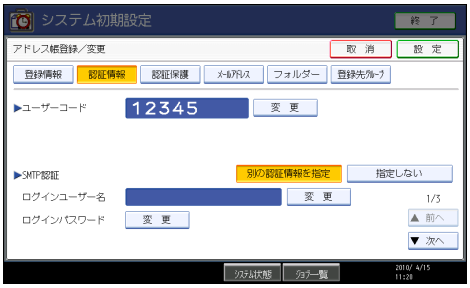


3. ［管理者用設定］を押します。

4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 変更したいユーザーコードの登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. ［認証情報］を押します。
8. 「ユーザーコード」の［変更］を押して、新しいユーザーコードをテンキーで入力し直します。



9. ［#］を押します。
10. 使用できる機能を変更するときは、［▼次へ］を 2 回押します。
11. キーを押して、使用を許可する機能を選択します。

    使用を許可する機能は、キーを押して反転表示させます。
12. ［設定］を押します。
13. ［閉じる］を押します。
14. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、「名前を変更する」を参照してください。

参照

- P.217「名前を変更する」

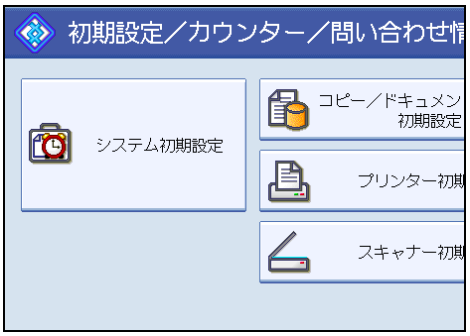
ユーザーコードを消去する

ユーザーコードを消去します。

重要

- ユーザーコードをクリアすると、カウンターの数値は自動的にクリアされます。

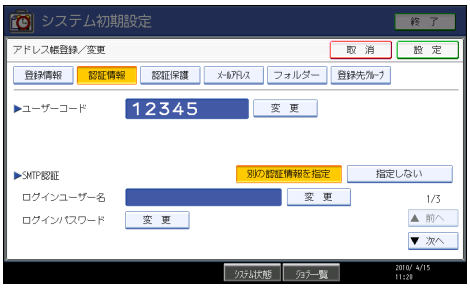
1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 消去したいユーザーコードの登録されているユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. ［認証情報］を押します。
8. 「ユーザーコード」の［変更］を押して、ユーザーコードを消去し、［#］を押します。



9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、「ユーザーを消去する」を参照してください。

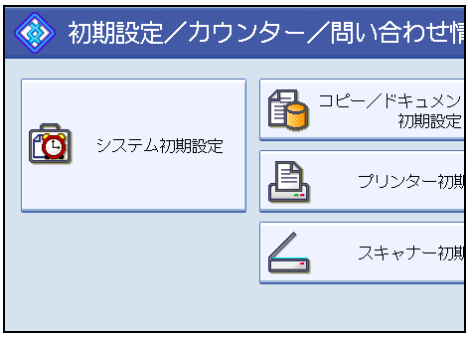
参照

- P.219「ユーザーを消去する」

ユーザー別にカウンターを表示する

ユーザー別にカウンターを表示します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。
5. ［印刷カウンター］または［スキャナーカウンター］を押します。

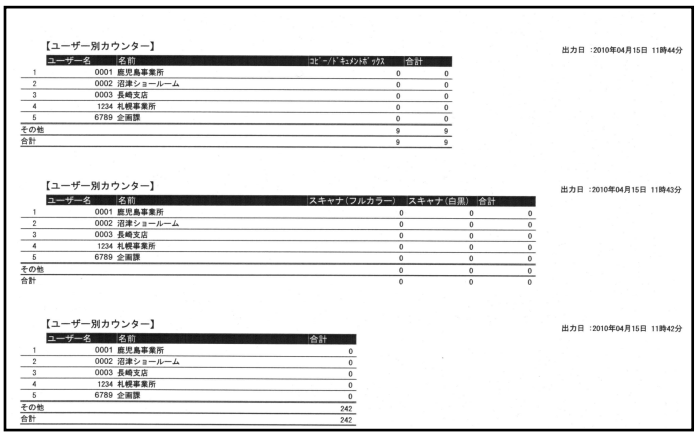
   ユーザーコードごとに機能別カウンターが表示されます。

ユーザー別カウンターを印刷する

ユーザー別にカウンターを印刷します。

印刷できるユーザー別カウンターは「コピーカウンター」、「プリンターカウンター」、「スキャナーカウンター」、「印刷合計」です。

イラストの例は、「コピーカウンター」、「スキャナーカウンター」、「印刷合計」をそれぞれ印刷したものです。



【ユーザー別カウンター】

出力日 :2010年04月15日 11時44分

	ユーザー名	名前	ｺﾋﾟｰ/ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄﾎﾞｯｸｽ	合計
1	0001	鹿児島事業所	0	0
2	0002	沼津ショールーム	0	0
3	0003	長崎支店	0	0
4	1234	札幌事業所	0	0
5	6789	企画課	0	0
その他			9	9
合計			9	9

【ユーザー別カウンター】

出力日 :2010年04月15日 11時43分

	ユーザー名	名前	スキャナ(フルカラー)	スキャナ(白黒)	合計
1	0001	鹿児島事業所	0	0	0
2	0002	沼津ショールーム	0	0	0
3	0003	長崎支店	0	0	0
4	1234	札幌事業所	0	0	0
5	6789	企画課	0	0	0
その他			0	0	0
合計			0	0	0

【ユーザー別カウンター】

出力日 :2010年04月15日 11時42分

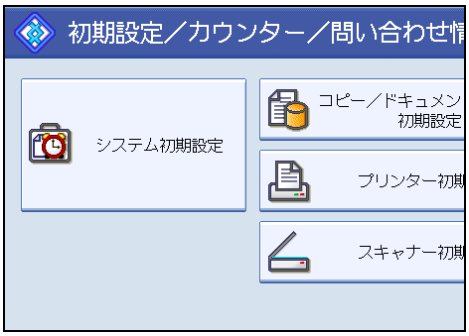
	ユーザー名	名前	合計
1	0001	鹿児島事業所	0
2	0002	沼津ショールーム	0
3	0003	長崎支店	0
4	1234	札幌事業所	0
5	6789	企画課	0
その他			242
合計			242

CBC008

ユーザーごとのカウンターを印刷する

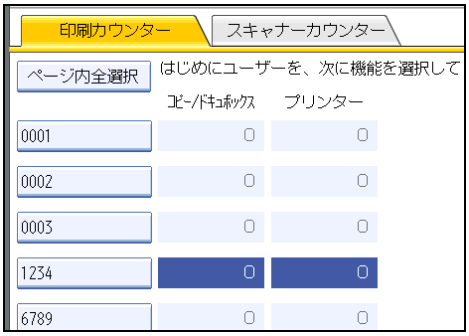
ユーザーごとのカウンターを印刷します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



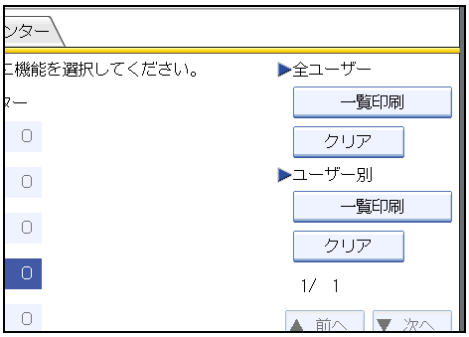
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

5. 画面左側に表示されているユーザーコードを選択します。



ページに表示されているユーザーコードをすべて選択したいときは、［ページ内全選択］を押します。

6.「ユーザー別」の［一覧印刷］を押します。



ユーザーコードが設定されているときは、ユーザーコードを入力し、［#］を押します。

7.［コピーカウンター］、［プリンターカウンター］、［スキャナーカウンター］、［印刷合計］のうち、印刷する項目を押します。

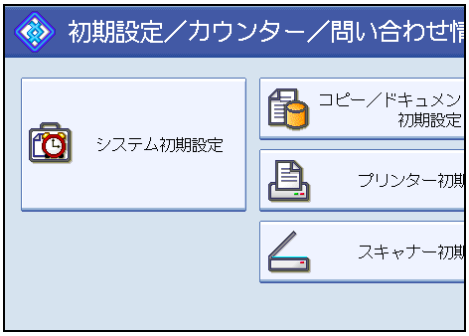
8.［印刷］を押します。

すべてのユーザーのカウンターを印刷する

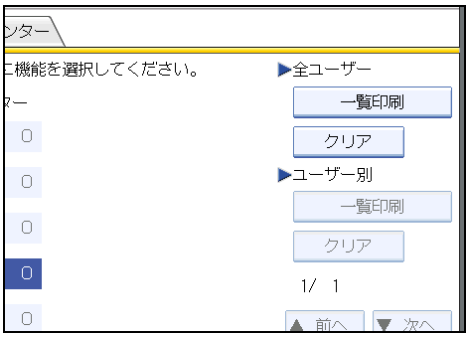
すべてのユーザーのカウンターを印刷します。

1.［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。
5. 「全ユーザー」の［一覧印刷］を押します。



6. ［コピーカウンター］、［プリンターカウンター］、［スキャナーカウンター］、［印刷合計］のうち、印刷する項目を押します。
7. ［印刷］を押します。

カウンターをクリアする

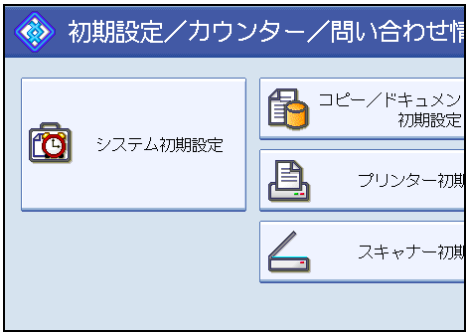
ユーザーごと、あるいはすべてのユーザーのカウンターをクリアします。

ユーザーごとのカウンターをクリアする

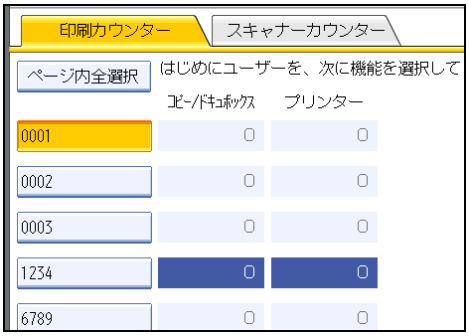
ユーザーごとのカウンターをクリアします。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

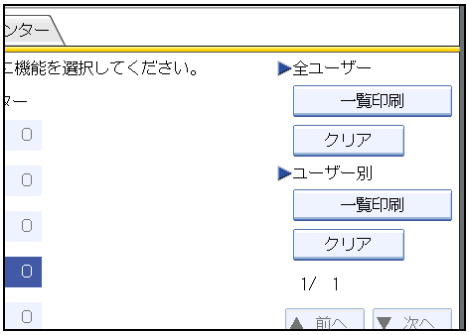


3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。
5. 画面左側に表示されているユーザーコードからクリアしたいユーザーコードを選択します。



ページに表示されているユーザーコードをすべて選択したいときは、［ページ内全選択］を押します。

6. 「ユーザー別」の［クリア］を押します。

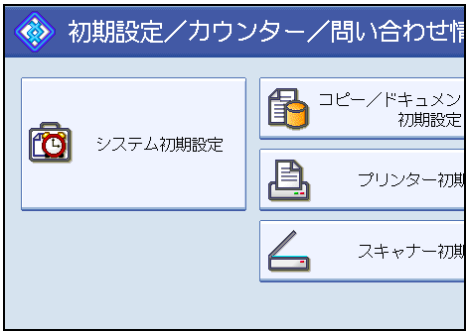


7. ［コピーカウンター］、［プリンターカウンター］、［スキャナーカウンター］、［全カウンター］のうち、クリアする項目を押します。
8. ［実行］を押します。

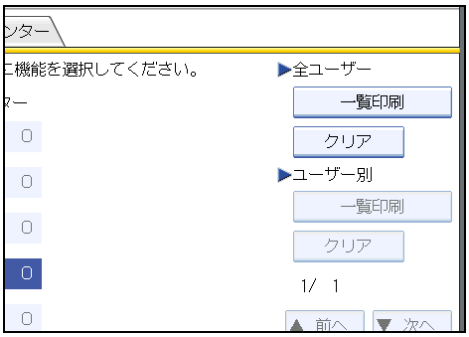
すべてのユーザーのカウンターをクリアする

すべてのユーザーのカウンターをクリアします。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。
5. 「全ユーザー」の［クリア］を押します。



6. ［コピーカウンター］、［プリンターカウンター］、［スキャナーカウンター］、［全カウンター］のうち、クリアする項目を押します。
7. ［実行］を押します。

メール宛先について

「メール宛先」を登録することによって、メールアドレスを入力せずに、スキャナー機能で読み取った文書をメールで送信することが可能になります。

- メール宛先には「名前」と「キー表示名」を同時に登録しておくと、メール宛先を選択するときに便利です。
- メール宛先は、グループに登録することができます。
- メール宛先は、スキャナー機能から送信するときに、送信者のメールアドレスとして使うことができます。またこのとき、他の人が使えないように宛先保護を設定することをお勧めします。宛先保護についての詳細は、「認証保護について」を参照してください。

補足

- メール宛先を登録するときは、LDAP サーバー上のアドレスをアドレス帳に登録することができます。詳しくは、『スキャナー機能編』「読み取った文書をメールで送信する」を参照してください。

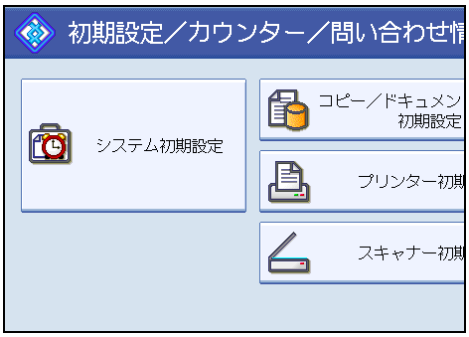
参照

- P.269「認証保護について」

メール宛先を登録する

メール宛先を登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



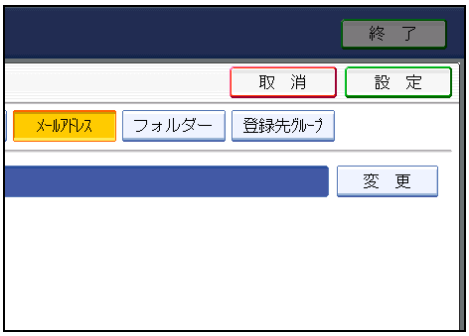
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. メール宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、「名前を登録する」を参照してください。

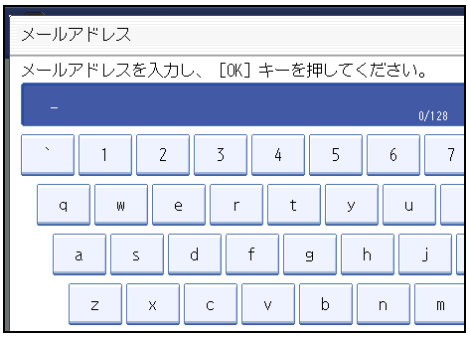
7. ［メールアドレス］を押します。

8. 「メールアドレス」の［変更］を押します。



文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. メールアドレスを入力します。



10. ［OK］を押します。

11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。
- 登録したメールアドレスは送信者（送信メールアドレス）として使用することができます。設定方法については、「認証保護について」を参照してください。

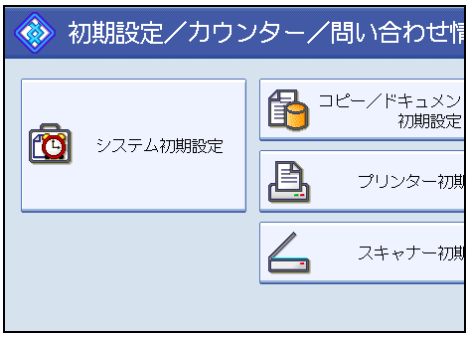
参照

- P.216「名前を登録する」
- P.269「認証保護について」

登録したメール宛先を変更する

登録したメール宛先を変更します。

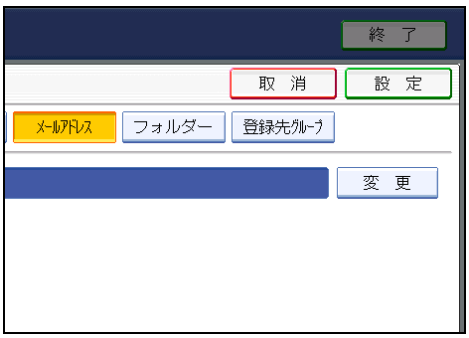
1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 変更したいメール宛先の登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. ［メールアドレス］を押します。
8. メールアドレスの［変更］を押します。



9. メールアドレスを入力し直し、[OK] を押します。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

10. [設定] を押します。

11. [閉じる] を押します。

12. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、「名前を変更する」を参照してください。
- 登録したメールアドレスは送信者（送信メールアドレス）として使用することができます。設定方法については、「認証保護について」を参照してください。

参照

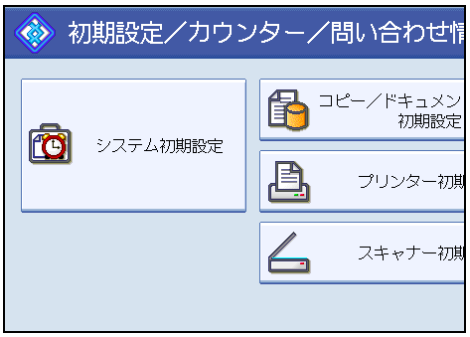
- P.217「名前を変更する」
- P.269「認証保護について」

登録したメール宛先を消去する

登録したメール宛先を消去します。

1. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

2. [システム初期設定] を押します。



3. [管理者用設定] を押します。

4. [アドレス帳登録／変更／消去] を押します。

5. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

6. メールアドレスを消去したいユーザーを選択します。

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. ［メールアドレス］を押します。
8. 「メールアドレス」の［変更］を押します。
9. ［全消去］を押します。
10. ［OK］を押します。
11. ［設定］を押します。
12. ［閉じる］を押します。
13. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、「ユーザーを消去する」を参照してください。

参照

- P.219「ユーザーを消去する」

フォルダーを登録する

フォルダーを登録することにより、スキャナー機能で読み取った画像を直接共有フォルダーに送信できます。

プロトコルには次の 3 種類があります。

- SMB

  Windows および Mac OS の共有フォルダーへ送信したいときに設定します。

- FTP

  FTP サーバーのフォルダーへ送信したいときに設定します。

- NCP

  NetWare サーバーのフォルダーへ送信したいときに設定します。

補足

- プロトコル、サーバー名、フォルダー階層についての詳細は、ネットワーク管理者へご確認ください。
- フォルダー宛先が接続されているとき、未認証ユーザーの本機からのフォルダー宛先アクセスができないように設定することができます。設定方法については、「認証保護について」を参照してください。
- SMB、FTP または NCP を選択することができます。設定を終了した後にプロトコルを変更すると、登録内容がクリアされます。
- フォルダー宛先は、グループに登録することができます。
- ネットワーク設定の詳細については、「ファイル転送設定」を参照してください。
- スキャナー機能からのフォルダー送信の詳細については、『スキャナー機能編』「読み取った文書をフォルダーに送信する」を参照してください。

参照

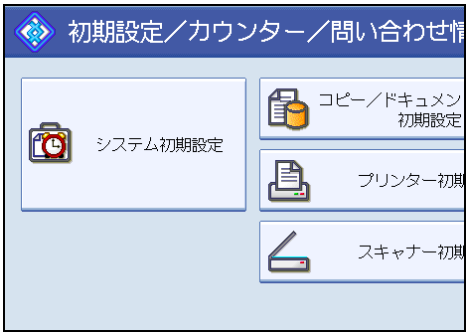
- P.47「ファイル転送設定」
- P.269「認証保護について」

SMB のフォルダー宛先を登録する

SMB のフォルダー宛先を登録します。

1. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

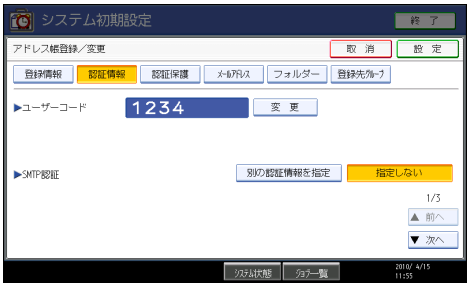
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. フォルダー宛先登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、「名前を登録する」を参照してください。

7. ［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。

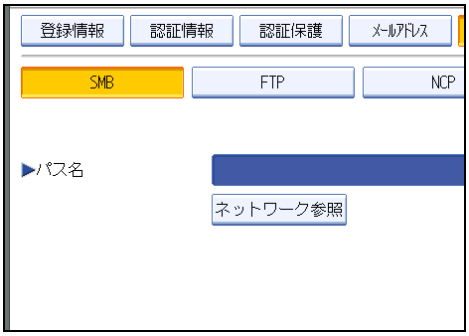


8. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。
9. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。
10. 送信先のパソコンのログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

    文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

11. 「ログインパスワード」の［変更］を押します。
12. 送信先のパソコンのパスワードを入力し、［OK］を押します。
13. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。
14. ［フォルダー］を押します。

15. ［SMB］が選択されていることを確認します。



16.「変更」または「ネットワーク参照」を押し、フォルダーを指定します。

フォルダーの指定には、パス名を直接入力する方法と、ネットワークを参照してフォルダーを選択する方法があります。

詳細については、「SMB のフォルダーを直接指定する」、「SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

17.［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

18.［確認］を押します。

19.［設定］を押します。

20.［閉じる］を押します。

21.［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。
- フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ブラウザーネットワークでフォルダーを選択します。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択した場合は、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に問い合わせてください。
- FTP サーバーのフォルダーを登録するときは、「FTP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

- NetWare サーバーのフォルダーを登録するときは、「NCP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

参照

- P.47「ファイル転送設定」
- P.216「名前を登録する」
- P.245「FTP のフォルダー宛先を登録する」
- P.251「NCP のフォルダー宛先を登録する」

SMB のフォルダーを直接指定する

SMB のフォルダーを直接指定します。

1.「パス名」の［変更］を押します。

2.「パス名」を入力します。

たとえば送信先のパソコンのコンピュータ名が「User」、フォルダー名が「Share」の場合のパスは、¥¥User¥Share となります。

IP アドレスを自動取得していない環境の場合、例えばコンピューターの IP アドレスが“192.168.0.191”、フォルダー名が“Share”の場合のパスは、¥¥192.168.0.191¥Share でも送信が可能です。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

3.［OK］を押します。

メッセージが表示されたときは［確認］を押し、再度パスを入力してください。

補足

- パス名は「¥¥パソコン名¥フォルダ名」の形式で入力します。「¥」は入力画面の［記号］を押してから、［学術］を押し、半角の「¥」を選択します。
- パス名は IPv4 アドレスも入力できます。

SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する

SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定します。

1. ［ネットワーク参照］を押します。

   同じネットワーク上のワークグループが表示されます。

   アクセス認証されているフォルダー宛先だけがブラウザーネットワーク上に表示されます。

2. 送信先のパソコンのグループを選択します。

3. 送信先のパソコンのコンピューター名を選択します。

   選択されたワークグループのコンピューターが表示されます。

   ［ひとつ上の階層へ］を押すと階層を切り替えることができます。

   フォルダー認証を設定しない場合、またはフォルダー認証のユーザー名とパスワードが正しくない場合は、ログイン画面が表示されます。

   ログイン画面が表示されたときは、認証されているユーザー名とパスワードを入力してログインしてください。

4. 登録したいフォルダーを選択します。

5. ［OK］を押します。

ログイン画面が表示されたとき

ネットワーク参照からフォルダーを指定するときにログイン画面が表示された場合の、ログイン方法について説明します。

フォルダー認証を設定しない場合、またはフォルダー認証のユーザー名とパスワードが正しくない場合は、ログイン画面が表示されます。

1. ユーザー名を入力し、［OK］を押します。

   フォルダー認証で設定したログインユーザー名を入力します。

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

2. パスワードを入力し、[OK] を押します。

ネットワーク参照画面が再度表示されます。

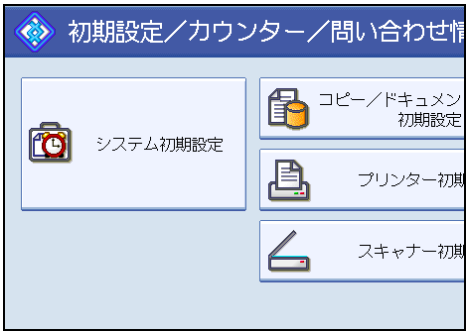
メッセージが表示されたときは [確認] を押し、再度ユーザー名とパスワードを入力してください。

SMB のフォルダー宛先を変更する

SMB のフォルダー宛先を変更します。

1. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

2. [システム初期設定] を押します。



3. [管理者用設定] を押します。

4. [アドレス帳登録／変更／消去] を押します。

5. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

6. フォルダー宛先を変更するユーザーを選択します。

変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. [フォルダー] を押します。

8. 指定方法を選択し、パスを指定し直します。

フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択します。詳細については、「SMB のフォルダーを直接指定する」、「SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. [接続テスト] を押してパスが正しく設定されているか確認します。

10. すべての情報を変更したら、[設定] を押します。

11. ［閉じる］を押します。

12. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、「名前を変更する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

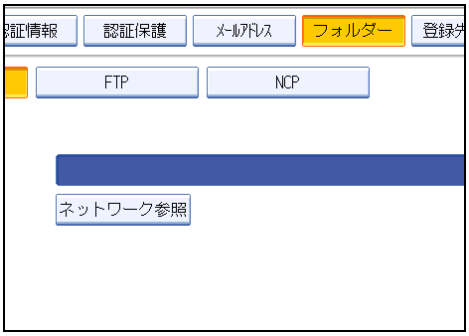
参照

- P.217「名前を変更する」

プロトコルを変更するとき

フォルダー宛先で使うプロトコルを SMB から FTP または NCP に変更します。

1. ［FTP］または［NCP］を押します。



確認画面が表示されます。

2. ［切り替える］を押します。

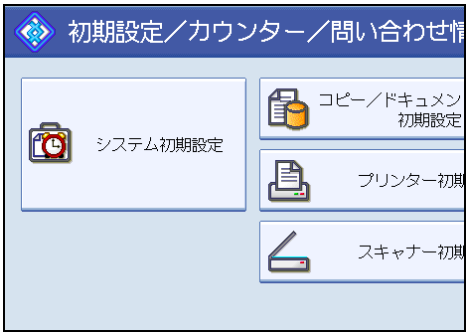
3. 各項目を再度入力します。

SMB のフォルダー宛先を消去する

SMB のフォルダー宛先を消去します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. ［フォルダー］を押します。
8. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

   確認画面が表示されます。
9. ［切り替える］を押します。
10. ［設定］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、「ユーザーを消去する」を参照してください。

参照

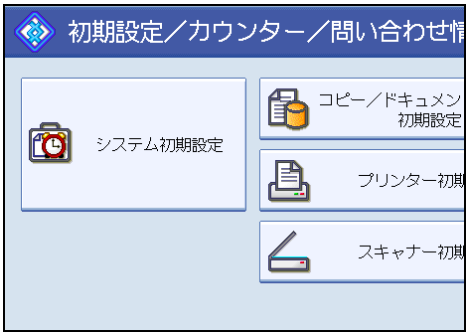
- P.219「ユーザーを消去する」

FTP のフォルダー宛先を登録する

FTP のフォルダー宛先を登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

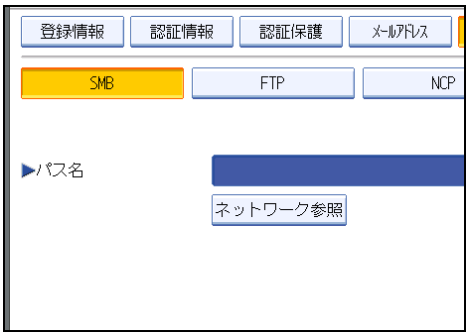


3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. フォルダー宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

   宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、「名前を登録する」を参照してください。

7. ［フォルダー］を押します。
8. ［FTP］を選択します。



   確認画面が表示されます。

9. ［切り替える］を押します。
10. 「サーバー名」の［変更］を押します。

11. サーバー名を入力し、[OK] キーを押します。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

12.「パス名」の [変更] を押します。

13. パス名を入力し、[OK] を押します。

14. 日本語文字コードを選択します。

15.「ポート番号」の [変更] を押し、ポート番号をテンキーで入力し、[#] を押します。

16. [接続テスト] を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

17. [確認] を押します。

18. [認証情報] を押し、[▼次へ] を押します。

19. フォルダー認証の [別の認証情報を指定] を押します。

20.「ログインユーザー名」の [変更] を押します。

21. ログインユーザー名を入力し、[OK] を押します。

22.「ログインパスワード」の [変更] を押します。

23. パスワードを入力し、[OK] を押します。

24. 確認用にもう一度パスワードを入力し、[OK] を押します。

25. [設定] を押します。

26. [閉じる] を押します。

27. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

補足

- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。
- 絶対パスで指定する場合は「¥（ユーザー）¥（ホーム）¥（ユーザー名）」の形式で入力します。相対パスで指定する場合は「(ディレクトリ¥サブディレクトリ)」の形式で入力します。「¥」は入力画面の [記号] を押してから、[学術] を押し、半角の「¥」を選択します。
- パスを指定しない場合は、ログインディレクトリが指定されます。
- パス名は IPv4 アドレスも入力できます。
- 「ポート番号」を変更するときは、「ポート番号」の [変更] を押し、テンキーで入力します。
- ポート番号は 1-65535 以内で指定できます。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。

- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択した場合は、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に問い合わせてください。
- Windows および Mac OS の共有フォルダーを登録するときは、「SMB のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。
- NetWare サーバーのフォルダーを登録するときは、「NCP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

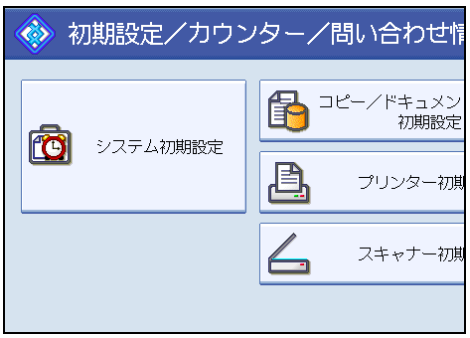
参照

- P.47「ファイル転送設定」
- P.216「名前を登録する」
- P.238「SMB のフォルダー宛先を登録する」
- P.251「NCP のフォルダー宛先を登録する」

FTP のフォルダー宛先を変更する

FTP のフォルダー宛先を変更します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. **フォルダー宛先を変更するユーザーを選択します。**

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. **［フォルダー］を押します。**

8. **項目を変更します。**

   項目の変更については、「FTP の項目を変更する」を参照してください。

9. **［接続テスト］を押してパスが正しく設定されているか確認します。**

10. **すべての情報を変更したら、［設定］を押します。**

11. **［閉じる］を押します。**

12. **［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。**

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、「名前を変更する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

参照

- P.217「名前を変更する」

FTP の項目を変更する

FTP の項目を変更します。

1. **「ポート番号」の［変更］を押します。**

2. **ポート番号を入力し、［#］を押します。**

3. **「サーバー名」の［変更］を押します。**

4. **サーバー名を入力し、［OK］を押します。**

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

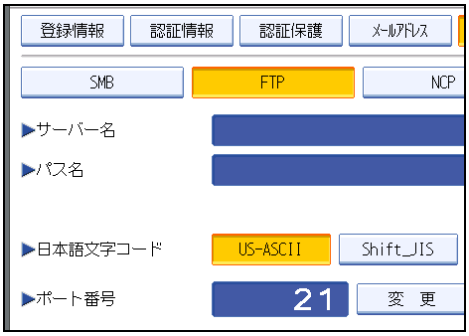
5. **「パス名」の［変更］を押します。**

6. パスを入力し、[OK] を押します。

プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使うプロトコルを FTP から SMB または NCP に変更します。

1. [SMB] または [NCP] を押します。



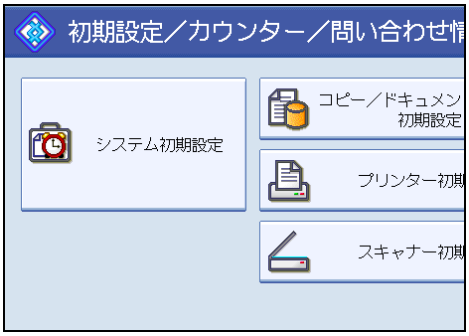
確認画面が表示されます。

2. [切り替える] を押します。
3. 各項目を再度入力します。

FTP のフォルダー宛先を消去する

FTP のフォルダー宛先を消去します。

1. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。
2. [システム初期設定] を押します。



3. [管理者用設定] を押します。
4. [アドレス帳登録／変更／消去] を押します。
5. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

6. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. ［フォルダー］を押します。

8. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

確認画面が表示されます。

9. ［切り替える］を押します。

10. ［設定］を押します。

11. ［閉じる］を押します。

12. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、「ユーザーを消去する」を参照してください。

参照

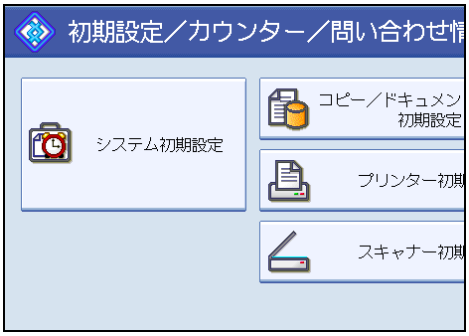
- P.219「ユーザーを消去する」

NCP のフォルダー宛先を登録する

NCP のフォルダー宛先を登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。

4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。

5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. フォルダー宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、「名前を登録する」を参照してください。

7. ［フォルダー］を押します。

8. ［NCP］を選択します。

確認画面が表示されます。

9. ［切り替える］を押します。

10. 接続種別を選択します。

NDS ツリーから指定する場合は［NDS］、NetWare サーバーから指定する場合は［Bindery］を押します。

11. フォルダーを指定します。

フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択します。詳細については、「NCP のフォルダーを直接指定する」、「NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

12. ［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

13. ［確認］を押します。

14. ［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。

15. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。

16. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。

17. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

18. 「ログインパスワード」の［変更］を押します。

19. ログインパスワードを入力し、［OK］を押します。

20. 確認用に、もう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

21. ［設定］を押します。

22. ［閉じる］を押します。

23. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。
- 接続種別で［NDS］を選択したときは、ユーザー名に続けてユーザーオブジェクトの存在するコンテキスト名を入力します。ユーザー名が“user”、コンテキスト名が“context”である場合の、入力するユーザー名は“user.context”になります。
- フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ブラウザーネットワークでフォルダーを選択します。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択した場合は、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に問い合わせてください。
- Windows および Mac OS の共有フォルダーを登録するときは、「SMB のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。
- FTP サーバーのフォルダーを登録するときは、「FTP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

参照

- P.47「ファイル転送設定」
- P.216「名前を登録する」
- P.238「SMB のフォルダー宛先を登録する」
- P.245「FTP のフォルダー宛先を登録する」

NCP のフォルダーを直接指定する

NCP のフォルダーを直接指定します。

1. **「パス名」の［変更］を押します。**
2. **パス名を入力します。**

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。
3. **［OK］を押します。**
4. **［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。**
5. **［確認］を押します。**

補足

- 接続種別で［NDS］を選択したとき、NDS ツリー名が“tree”、ボリュームの存在するコンテキスト名が“context”、ボリューム名が“volume”、フォルダー名が“folder”である場合のパスは“¥¥tree¥volume.context¥folder”となります。

- 接続種別で［Bindery］を選択したとき、NetWare サーバー名が“server”、ボリューム名が“volume”、フォルダー名が“folder”である場合のパスは、“¥¥server¥volume¥folder”となります。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定する

NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定します。

1. **［ネットワーク参照］を押します。**
2. **接続種別で［NDS］を選択した場合は、NDS ツリーの一覧が表示されます。接続種別で［Bindery］を選択した場合は、NetWare サーバーの一覧が表示されます。**
3. **NDS ツリー、または NetWare サーバーの階層をたどり、登録するフォルダーを探します。**

   ［ひとつ上の階層へ］を押すと階層を切り替えることができます。
4. **登録したいフォルダーを選択します。**
5. **［OK］を押します。**

補足

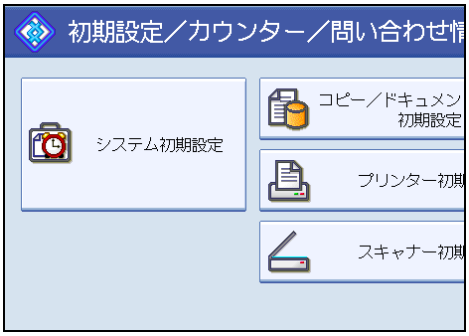
- アクセス認証されているフォルダー宛先だけがブラウザーネットワーク上に表示されます。
- 使用する言語が本機と異なると、正しく表示されない場合があります。
- 一覧で表示されるのは最大で 100 件です。

NCP のフォルダー宛先を変更する

NCP のフォルダー宛先を変更します。

1. **［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。**

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. フォルダー宛先を変更するユーザーを選択し、［フォルダー］を押します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. 接続種別を選択します。

   NDS ツリーから指定する場合は［NDS］、NetWare サーバーから指定する場合は［Bindery］を押します。

8. 指定方法を選択し、パスを指定し直します。

   フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択し直します。詳細については、「NCP のフォルダーを直接指定するとき」、「NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定するとき」を参照してください。

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. ［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。
10. ［確認］を押します。
11. ［設定］を押します。
12. ［閉じる］を押します。
13. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、「名前を変更する」を参照してください。

- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

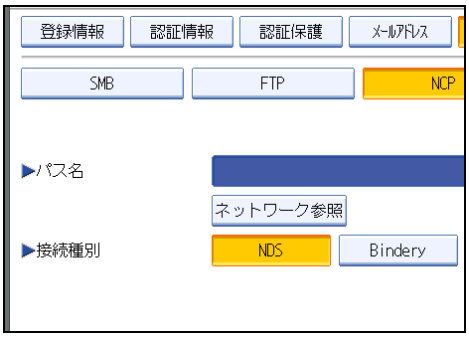
参照

- P.217「名前を変更する」

プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使うプロトコルを NCP から SMB または FTP に変更します。

1. ［SMB］または［FTP］を押します。



確認画面が表示されます。

2. ［切り替える］を押します。

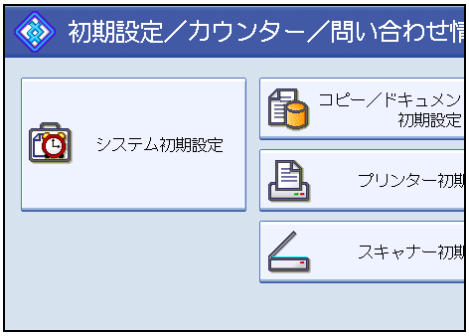
3. 各項目を再度入力します。

NCP のフォルダー宛先を消去する

NCP のフォルダー宛先を消去します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. ［フォルダー］を押します。
8. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

   確認画面が表示されます。
9. ［切り替える］を押します。
10. ［設定］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、「ユーザーを消去する」を参照してください。

参照

- P.219「ユーザーを消去する」

宛先をグループに登録する

グループにあらかじめ登録されている宛先を登録すると、メール宛先をそれぞれグループで管理できます。

宛先をグループに分けるためには、あらかじめグループを登録しておく必要があります。ここでは、グループの登録から説明します。

重要

- **50 以上のフォルダー宛先が登録されたグループにファイル送信はできません。**
- **1 つのグループに登録できる宛先は最大 500 件です。**

補足

- グループ内のフォルダー宛先には他の人がアクセスできないように認証保護を設定することをお勧めします。認証保護の設定方法については、「認証保護について」を参照してください。

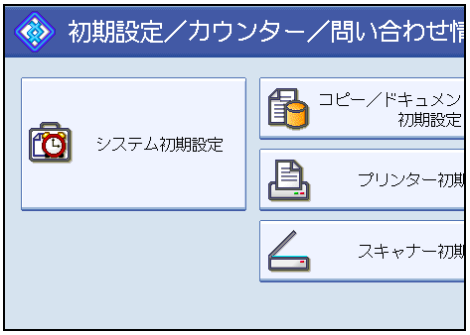
参照

- P.269「認証保護について」

グループを登録する

グループを登録します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. ［新規登録］を押します。

7. グループ名の［変更］を押します。

8. グループ名を入力し、［OK］を押します。

グループ名を入力すると、キー表示名とヨミガナも自動的に設定されます。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. グループを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。

10. キー表示名を変更するときは［変更］を押し、キー表示名を入力して［OK］を押します。

11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- ［見出し選択］で選択できるキーは次のとおりです。
  - ［常用］：最初に表示されるページに登録されます。
  - ［あ］-［わ］、［AB］-［XYZ］、［1］-［5］：それぞれの見出しのついたページに表示されます。
- ［見出し選択］では「常用」と各見出しごとにもう 1 つ選択できます。

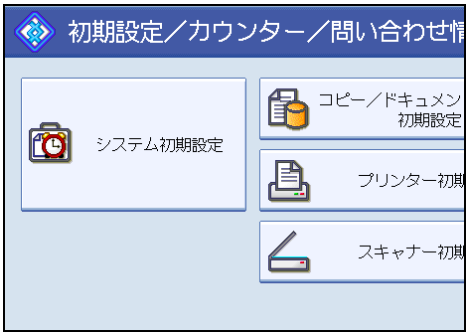
宛先をグループに登録する

宛先をグループに登録することができます。

メール宛先を新規登録しているときに、グループに登録することもできます。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

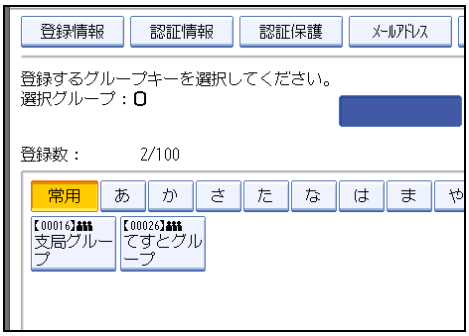


3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. グループに登録したいユーザーを選択します。

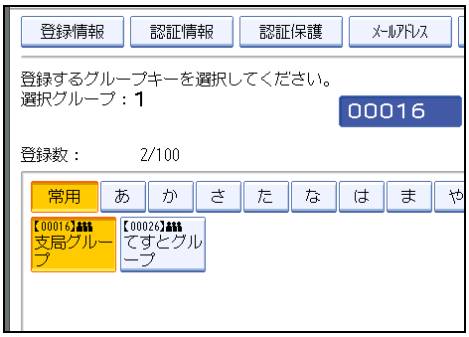
登録したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. ［登録先グループ］を押します。
8. 登録したいグループを選択します。



選択したグループが反転表示されます。

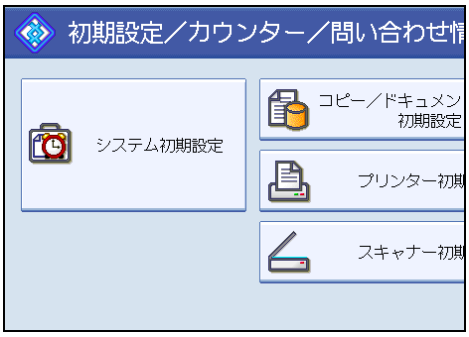


9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

グループを別のグループに登録する

登録したグループをさらに別のグループに登録することができます。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。

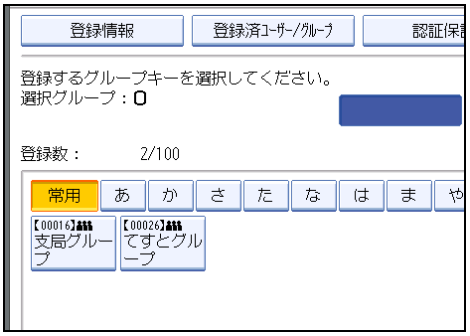


3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. グループに登録したいグループを選択します。

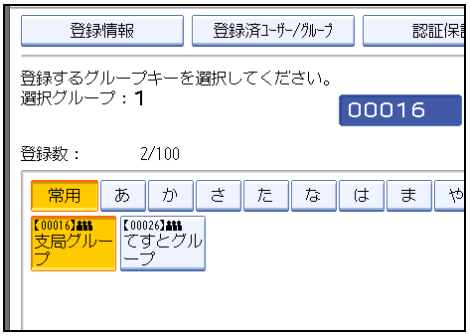
   登録したいグループのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。
7. ［登録先グループ］を押します。

8. 登録先のグループを選択します。



選択したグループが反転表示されます。



9. ［設定］を押します。

10. ［閉じる］を押します。

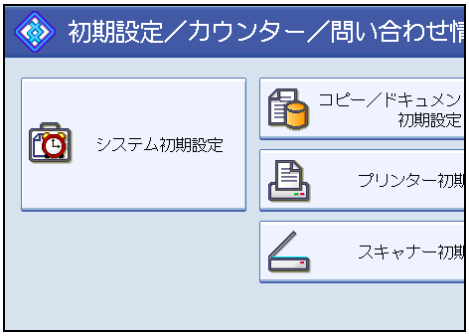
11. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

グループに登録されている宛先を確認する

どのグループにどの名前が登録されているかを確認することができます。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 登録ユーザーを確認したいグループを選択します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。
7. ［登録済ユーザー／グループ］を押します。

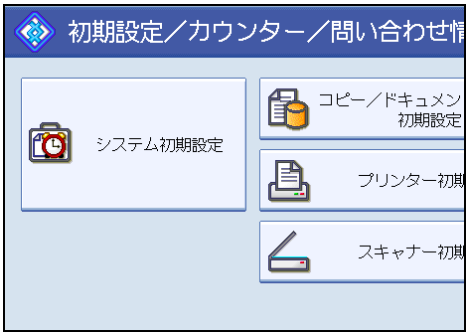
   選択したグループに登録されている名前が一覧で表示されます。
8. 確認後、［設定］を押します。
9. ［閉じる］を押します。
10. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

登録した宛先をグループから削除する

登録した宛先をグループから削除します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

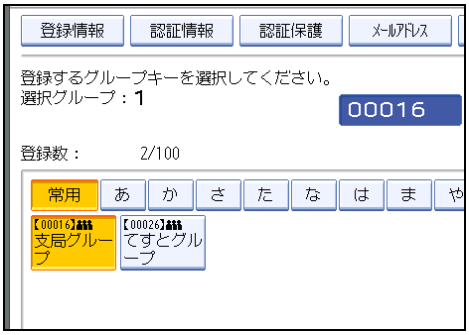
2. ［システム初期設定］を押します。



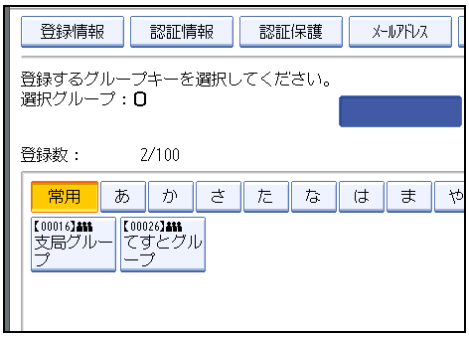
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. グループから削除したいユーザーを選択します。

   削除したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. ［登録先グループ］を押します。
8. 削除したいグループを選択します。



選択したグループの反転表示が解除されます。

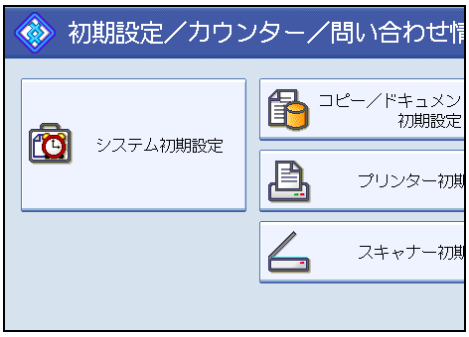


9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

登録したグループをグループから削除する

登録したグループをグループから削除します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



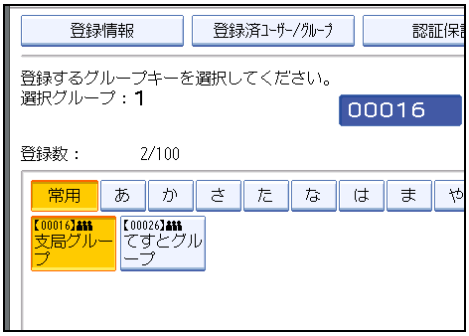
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. グループから削除したいグループ名を選択します。

   削除したいグループのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

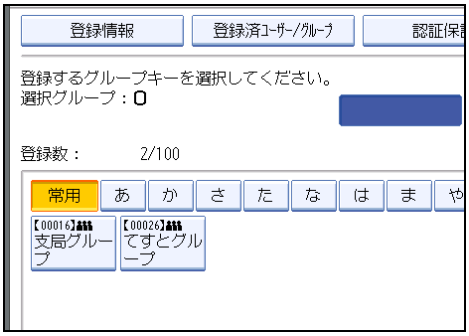
   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。
7. ［登録先グループ］を押します。

   前の手順で選択したグループ名の所属するグループキーが反転表示されます。

8. 削除したいグループを選択します。



選択したグループの反転表示が解除されます。



9. ［設定］を押します。

10. ［閉じる］を押します。

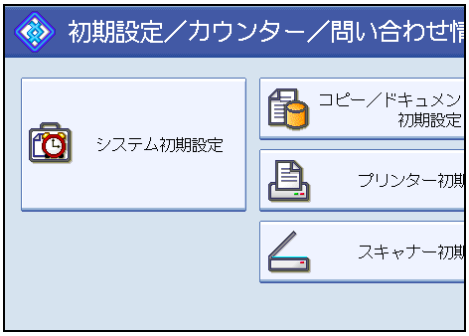
11. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

グループ名を変更する

グループ名を変更します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 変更したいグループを選択します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。

7. グループ名、キー表示名、ヨミガナを変更するときは、グループ名、キー表示名、またはヨミガナの［変更］を押します。

8. グループ名、キー表示名、またはヨミガナを入力し直し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

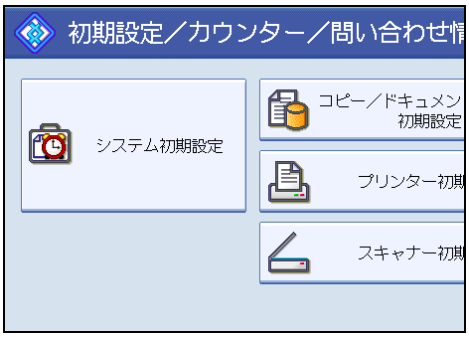
9. 見出しを変更するときは、グループを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。
10. 登録番号を変更するときは、登録番号の［変更］を押します。
11. 登録番号をテンキーで入力し直します。
12. ［#］を押します。
13. ［設定］を押します。
14. ［閉じる］を押します。

15. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

グループを消去する

グループ名を消去します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［消去］を押します。
6. 消去したいグループを選択します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

認証保護について

送信者名やフォルダー宛先を選択するときに認証保護コードを入力するように設定することができます。

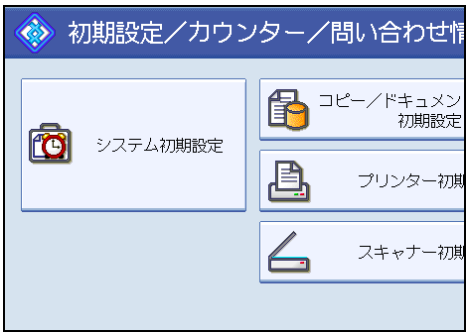
宛先保護は以下の項目に設定できます。

- フォルダー宛先（SMB プロトコルを使って接続するとき）
- 送信者

ユーザーに認証保護を設定する

ユーザーに認証保護を設定します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。

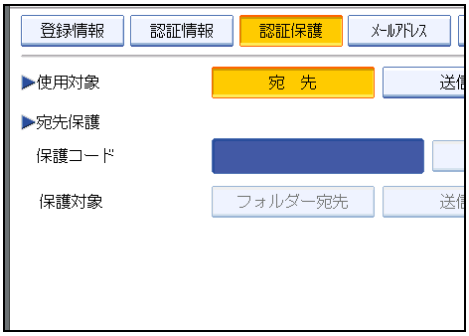


3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 認証保護を設定するユーザーを選択します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

7. ［認証保護］を押します。

8. 設定するユーザーの使用対象を選択します。



［宛先］と［送信者］両方を選択することもできます。

9. フォルダー宛先に認証保護を設定するときは、保護対象の［フォルダー宛先］を押します。

使用対象の［宛先］を選択している必要があります。

10. 送信者に認証保護を設定するときは、保護対象の［送信者］を押します。

使用対象の［送信者］を選択している必要があります。

11. ［保護コード］の［変更］を押します。

12. 保護コードをテンキーで入力し、［#］を押します。

13. ［設定］を押します。

14. ［閉じる］を押します。

15. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

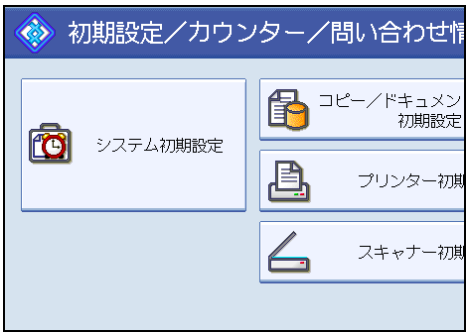
補足

- 保護コードは 1 桁から 8 桁まで指定できます。
- 設定した認証保護を変更・解除するときは、手順 3-手順 14 を行います。

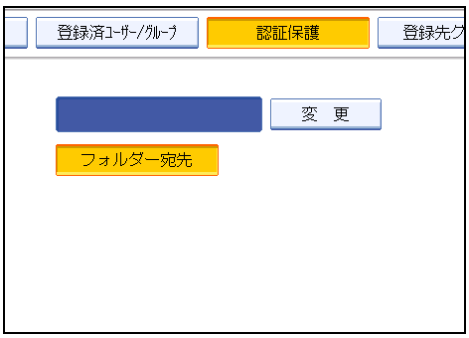
グループに認証保護を設定する

グループに認証保護を設定します。

1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 宛先保護を設定するグループを選択します。
7. ［認証保護］を押します。
8. 「保護対象」の［フォルダー宛先］を押します。
9. 「保護コード」の［変更］を押します。



10. 保護コードをテンキーで入力し、[#] を押します。

11. [設定] を押します。

12. [閉じる] を押します。

13. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

補足

- 保護コードは 8 桁まで指定できます。
- 設定した認証保護を変更・解除するときは、手順 3-手順 12 を行います。

認証について

本機のアドレス帳にある認証情報について説明します。

SMTP 認証

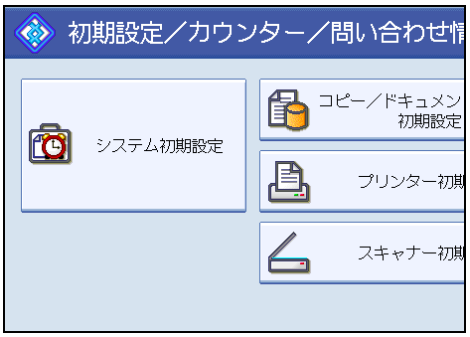
SMTP サーバーを使用するときに SMTP 認証を設定することによって、ユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定します。

SMTP サーバーを利用するには、あらかじめ SMTP サーバーを登録しておく必要があります。SMTP サーバーの登録方法について詳細は、「ファイル転送設定」を参照してください。

重要

- **SMTP 認証を設定しない場合は、［ファイル転送設定］タブにある［SMTP 認証］の設定が有効になります。**
- **ユーザー認証を設定している場合は、管理者に問い合わせてください。**

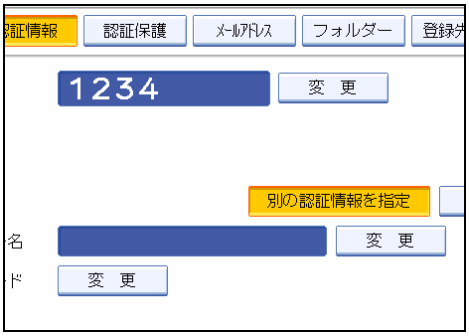
1. **［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。**
2. **［システム初期設定］を押します。**



3. **［管理者用設定］を押します。**
4. **［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。**
5. **［登録／変更］が選択されていることを確認します。**
6. **SMTP 認証を設定したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。**

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。
7. **［認証情報］を押します。**
8. **SMTP 認証の［別の認証情報を指定］を押します。**

9.「ログインユーザー名」の［変更］を押します。



10. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

11.「ログインパスワード」の［変更］を押します。

12.「ログインパスワード」を入力し、［OK］を押します。

13. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

14.［設定］を押します。

15.［閉じる］を押します。

16.［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。
- 設定した認証を変更するときは、手順 3-手順 14 を行います。

参照

- P.47「ファイル転送設定」
- P.216「名前を登録する」

LDAP 認証

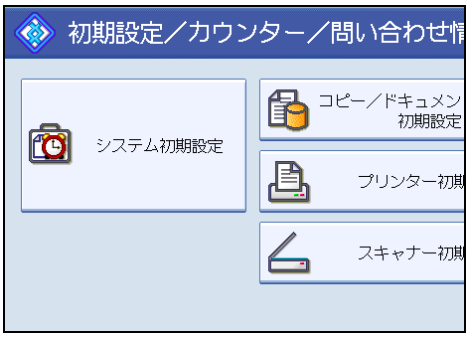
LDAP サーバーを使用するときに LDAP 認証を設定することによって、ユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定します。

LDAP サーバーを利用するには、あらかじめ LDAP サーバーを登録しておく必要があります。LDAP サーバーの登録方法については「LDAP サーバーを設定する」を参照してください。

重要

- LDAP 認証を設定しない場合は、［管理者用設定］タブにある［LDAP サーバー登録／変更／消去］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に問い合わせてください。

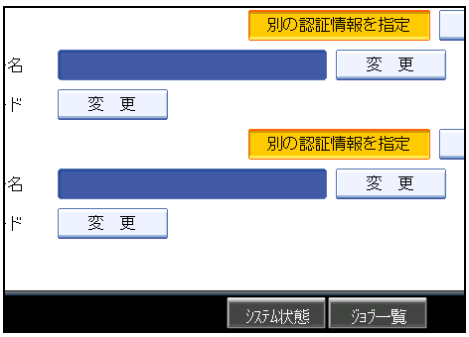
1. ［初期設定／カウンター／問合せ情報］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。



3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、メールアドレス、フォルダー宛先から検索することができます。

6. LDAP 認証を設定したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。
7. ［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。
8. LDAP 認証の［別の認証情報を指定］を押します。
9. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。



10. ログインユーザー名を入力し、[OK] を押します。

文字の入力方法については、『本機をお使いになる方へ』「文字の入力のしかた」を参照してください。

11.「ログインパスワード」の [変更] を押します。

12. パスワードを入力し、[OK] を押します。

13. 確認用にもう一度パスワードを入力し、[OK] を押します。

14. [設定] を押します。

15. [閉じる] を押します。

16. [初期設定／カウンター／問合せ情報] キーを押します。

補足

- 名前の登録については、「名前を登録する」を参照してください。
- [指定しない] を選択した場合は、[管理者用設定] タブにある [LDAP サーバー登録／変更／消去] で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。
- 設定した内容を変更するときは、手順 3-手順 15 を行います。

参照

- P.63「LDAP サーバーを設定する」
- P.216「名前を登録する」

6. Windows の補足情報

Windows に関する補足情報を説明します。

Windows からのファイル直接印刷

Windows でコマンド（lpr、ftp、sftp）を使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

重要

- **この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、例えば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。**
- **搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。**

セットアップ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1. **本機の操作部で TCP/IP プロトコルを有効にし、IP アドレスなど TCP/IP に関するネットワーク環境を設定します。**

   本機の TCP/IP プロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

2. **Windows に TCP/IP プロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。**

   ネットワークに関する設定内容はネットワーク管理者の方に確認してください。

3. **Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 で lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX 用印刷サービス」を組み込みます。**

補足

- IP アドレスの設定方法については、「ネットワーク」を参照してください。

参照

- P.36「ネットワーク」
- P.305「DHCP を使用する」

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバー上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

補足

- システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。

その他の場合

印刷を行うコンピューターの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

1. メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。

Windows 2000 の場合

¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合

¥WINDOWS¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

2. hosts ファイルに IPv4 と IPv6 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4 の場合

192.168.15.16 printer # NP

192.168.15.16 は IPv4 アドレスの例、printer はプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

IPv6 の場合

2001:DB::100 printer # NP

2001:DB::100 は IPv6 アドレスの例、printer はプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3. ファイルを上書き保存します。

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

- IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、および Windows Vista/7 です。

印刷方法

lpr、ftp、sftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

Windows 2000 の場合：

［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008 R2 の場合：

［スタート］-［すべてのプログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

補足

- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次のとおりです。
  - lpr：10
  - ftp：3
  - sftp：3
- ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

lpr

IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -S プリンターの **IP** アドレス ［**-P** オプション］ ［**-ol**］ ¥パス名¥ファイル名

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -S プリンターのホスト名 ［**-P** オプション］ ［**-ol**］ ¥パス名¥ファイル名

バイナリーファイルを印刷する場合は -o l（小文字の O と、小文字の L） オプションを付けてください。

ホスト名が printer のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> lpr -Sprinter -Pfiletype=RPS -o l C:¥PRINT¥file1
```

ftp/sftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

印刷するファイルが 1 つの場合

```
ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [オプション]
```

印刷するファイルが複数の場合

```
ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名...]
```

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。ここでは ftp で説明します。

1. 本機の IP アドレス（または hosts ファイルに設定した本機のホスト名）を引数にして ftp コマンドを起動します。

```
% ftp 本機の IP アドレス（またはホスト名）
```

2. ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

```
User:
Password:
```

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

3. バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。

4. 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2
```

5. ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。

- mput コマンドではオプションを指定できません。
- ftp をご使用の場合は、pwd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、cd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、pwd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、ssh 設定の公開鍵を作成しておく必要があります。公開鍵の作成方法については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- 個人認証（ベーシック認証・Windows 認証・LDAP 認証）が有効になっている場合は、未認証ユーザー（正しくログインユーザー名とログインパスワードを入力しても認証されないユーザー）ではログインできません。
- mput コマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊『セキュリティー編』を参照してください。

参照

- P.277「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

7. Mac OS X で使う

Mac OS X を使って印刷する場合の設定方法を説明します。オプションの PS3 カードが必要です。Mac OS X の共有フォルダーを作成する方法は、『スキャナー機能編』を参照してください。

USB インターフェースを使う

Mac OS X 10.3.3 以降では USB インターフェースを使って印刷することができます。

補足

- Mac OS X の操作方法は、使用している OS のバージョンや環境によって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれの OS のマニュアルを参照して設定してください。
- Mac OS X 10.3.3 以降のサポート速度は USB2.0 相当です。

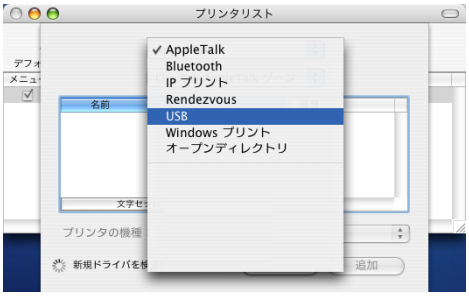
Mac OS X 10.5 以前の場合

Mac OS X 10.5 以前のバージョンで、USB インターフェースを使って印刷するための設定方法を説明します。

1. プリンター設定ユーティリティーを起動します。

2. ［追加］をクリックします。

3. ポップアップメニューから［USB］を選択します。



USB インターフェースで接続しているプリンターが表示されます。

4. プリンターを選択し、「プリンタの機種：」のポップアップメニューから［WIDECONTROLLER］を選択します。

機種名の一覧が表示されます。

5. インストール可能なオプションを選択し、［続ける］をクリックします。

6. 機種名の一覧から USB で接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。

7. プリンターリストを閉じ、プリンター設定ユーティリティーを終了します。

Mac OS X 10.5 以降の場合

Mac OS X 10.5 以降で、USB インターフェースを使って印刷するための設定方法を説明します。

1. アップルメニューの［システム環境設定...］をクリックします。

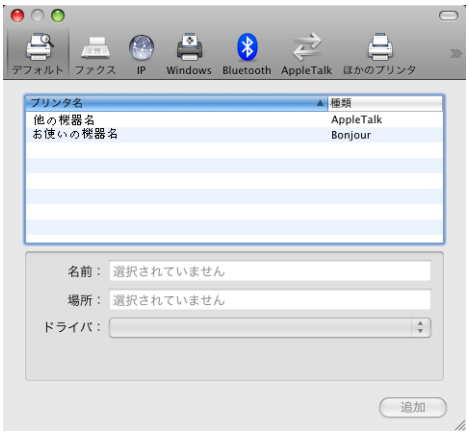
「システム環境設定」ウィンドウが表示されます。

2. 「ハードウェア」のカテゴリーにある［プリントとファクス］アイコンをクリックします。

「プリントとファクス」ウィンドウが表示されます。

3. ［+］をクリックします。

機器名の一覧ウィンドウが表示されます。



4. 「種類」に「USB」と表示されているプリンターを選択します。

5. 「ドライバ：」のポップアップメニューから［使用するドライバを選択...］を選択します。

   Mac OS X 10.6.x をお使いの場合は、［ドライバ:］のポップアップメニューから［プリンターソフトウェアを選択....］を選択します。

   インストール可能なドライバーの一覧が表示されます。

6. 機器名の一覧から USB で接続しているプリンターの機器名を選択します。

7. ［追加］をクリックします。

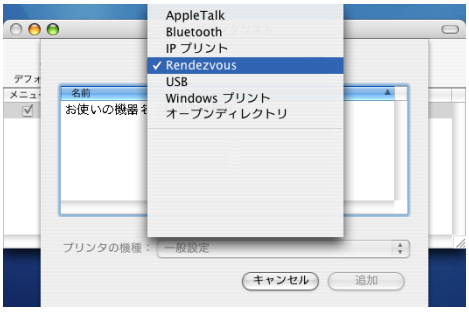
   プリンタードライバーのインストールが開始されます。

8. 「プリントとファクス」ウィンドウを閉じます。

Rendezvous を使う

Mac OS X 10.2.3 から Mac OS X 10.3.x では、Rendezvous を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

1. **プリンター設定ユーティリティーを起動します。**
2. **［追加］をクリックします。**
3. **ポップアップメニューから［Rendezvous］を選択します。**



接続しているプリンターが表示されます。

4. **プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［WIDECONTROLLER］を選択します。**

   機種名の一覧が表示されます。

5. **機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。**
6. **プリンターリストを閉じ、プリンター設定ユーティリティーを終了します。**

補足

- Macintosh と Rendezvous で接続する場合、「エミュレーション検知」が「しない」に設定されているときは、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。エミュレーションの切り替えについては、『プリンター機能編』「エミュレーションを切り替える」を参照してください。
- Rendezvous 上で IP アドレスを設定する必要ありません。

Bonjour を使う

Mac OS X 10.4 以降では、Bonjour を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

補足

- Macintosh と Bonjour で接続する場合、「エミュレーション検知」が「しない」に設定されているときは、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。エミュレーションの切り替えについては、『プリンター機能編』「エミュレーションを切り替える」を参照してください。
- Bonjour 上で IP アドレスの設定をする必要はありません。
- Mac OS X の操作方法は、使用している OS のバージョンや環境によって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれの OS のマニュアルを参照して設定してください。

Mac OS X 10.4 の場合

Mac OS X 10.4 で、Bonjour を使って印刷するための設定方法を説明します。

1. アップルメニューの［システム環境設定...］をクリックします。

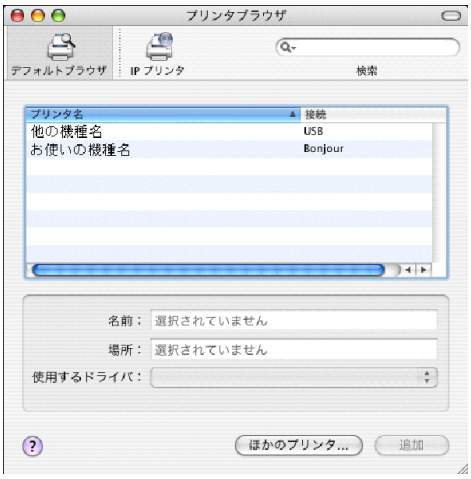
「システム環境設定」ウィンドウが表示されます。

2.「ハードウェア」のカテゴリーにある［プリントとファクス］アイコンをクリックします。

「プリントとファクス」ウィンドウが表示されます。

3.［+］をクリックします。

機器名の一覧ウィンドウが表示されます。



4. 「接続」に「Bonjour」と表示されているプリンターを選択します。
5. 「使用するドライバ：」のポップアップメニューから［WIDECONTROLLER］を選択します。
6. 機種名の一覧から Bonjour で接続しているプリンターの機種名を選択します。
7. ［追加］をクリックします。

   プリンタードライバーのインストールが開始されます。
8. 「プリントとファクス」ウィンドウを閉じます。

Mac OS X 10.5 以降の場合

Mac OS X 10.5 以降で、Bonjour を使って印刷するための設定方法を説明します。

1. アップルメニューの［システム環境設定...］をクリックします。

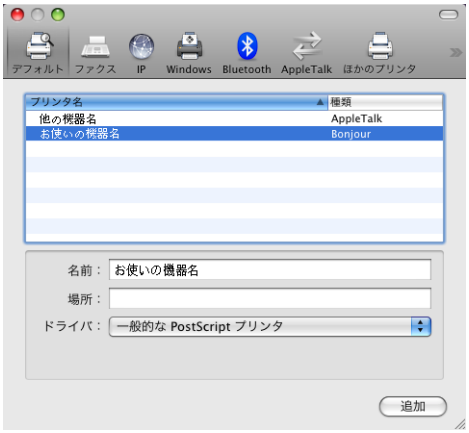
   「システム環境設定」ウィンドウが表示されます。

2.「ハードウェア」のカテゴリーにある［プリントとファクス］アイコンをクリックします。

「プリントとファクス」ウィンドウが表示されます。

3.［+］をクリックします。

機器名の一覧ウィンドウが表示されます。



4.「種類」に「Bonjour」と表示されているプリンターを選択します。

5.「ドライバ：」のポップアップメニューから［使用するドライバを選択...］を選択します。

Mac OS X 10.6.x をお使いの場合は、［ドライバ:］のポップアップメニューから［プリンターソフトウェアを選択....］を選択します。

インストール可能なドライバーの一覧が表示されます。

6. 機器名の一覧から Bonjour で接続しているプリンターの機器名を選択します。

7.［追加］をクリックします。

プリンタードライバーのインストールが開始されます。

8.「プリントとファクス」ウィンドウを閉じます。

8. UNIX で使う

本機を UNIX 環境で使用する場合の設定方法を説明します。

セットアップ（UNIX）

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、設定方法の説明です。

本機は LPD プロトコルをサポートしており、RFC1179 に準拠した LPD 搭載のホストから使用することができます。

設定方法は各 OS に搭載された LPD システムによって異なっています。

LPD の設定方法

BSD ベースのリモートプリンターの設定方法、および Solaris2.x におけるネットワークプリンターの設定方法を説明します。

補足

- コマンド例は、使用している OS によって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれの OS のマニュアルを参照してください。

BSD ベースの LPD システム

システム上でスーパーユーザー（root 権限）または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

- **適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている**
- **本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている**
- **本機の設定における TCP/IP プロトコルおよび LPD プロトコルがともに有効になっている**

/etc/printcap へのエントリー追加

lpr コマンドを使って LPD 印刷ができるように、/etc/printcap を修正します。

ここでは、プリンター名、ホスト名、論理プリンター名が以下のように設定されているものとします。

プリンター名：printer_prn

ホスト名：printer_host

論理プリンター名：filetype=RPS

- エントリー追加例

```
printer_prn Network Printer:¥
:lp=:¥
:rm=printer_host:¥
:rp=filetype=RPS:¥
:sd=/usr/spool/lpd/printer_prn:¥
:lf=/var/log/printer-lpd-errs:¥
:mx#0:
```

補足

- 「printer_prn | Network Printer:¥」のフィールドは、プリンターの識別名（プリンター名）となります。lpr コマンドから指定するプリンター名は、ここで指定する識別名となります。
- 「printer_prn | Network Printer:¥」のフィールドでは、「 | 」を使っていくつものプリンター識別名を記載することができます。
- :lp=:¥以降のフィールドは、プリンター属性に関する記載となります。ケーパビリティの名称で表されます。
  - lp

    本機を接続する際のデバイス名となります。本機をネットワークプリンターとして使用する場合には、通常このフィールドには何も指定しません。（なお、プリンターをワークステーション上に直接接続する際には、デバイスファイル名を記載します。）
  - rm

    本機のホスト名を指定します。必要に応じて/etc/hosts ファイルにホスト名を事前に記載する必要があります。
  - rp

    論理プリンター名を指定します。本機では、印刷時のオプション指定文字列を指定します。特に必要がなければ、lp（デフォルト）を指定します。

    登録したプログラム番号の指定方法については、「エミュレーションとプログラム」を参照してください。
  - sd

    印刷を行う際に一時的に使用するスプールディレクトリのパス名を指定します。スプールディレクトリはネットワークプリンターごとに必要になり、/etc/printcap に記載するエントリー毎に作成しなければなりません。
  - lf

    ログを格納するファイルのフルパス名を指定します。
  - mx

スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを指定します。通常、何も指定しないか適当な値を設定します。0 を指定すると無制限、指定しないと 1024K バイトとなります。

スプールディレクトリの作成

ターミナル上でスプールディレクトリを作成します。root 権限が必要です。

（例）

```
# mkdir/user/spool/lpd
# cd/user/spool/lpd
# mkdir printer_prn
# chown daemon printer_prn
# chgrp daemon printer_prn
# chmod 770 printer_prn
```

LPD システムを再起動します（LPD システムの再起動方法については、OS ごとに方法が異なります。詳細は OS に添付のドキュメントをご確認ください）。

（例）

```
# lpc restart printer_prn
```

印刷動作の確認

ここまでに作成したプリンターが正しく動作するかを確認します。

Usage: lpr -P プリンター名 ファイル名[ファイル名...]

（例）

```
% lpr -Pprinter-prn file1
```

補足

- プリンター名には、/etc/printers.conf にエントリーを追加した際のプリンター名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。

参照

- P.297「エミュレーションとプログラム」

Solaris の LP システム

システム上でスーパーユーザー（root 権限）または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

- **適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている**
- **本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている**
- **本機の設定における TCP/IP プロトコル及び LPD プロトコルがともに有効になっている**

プリンターの作成

Solaris では、ネットワークプリンターとリモートプリンターの 2 種類のプリンターを作成することができます。

ここでは、プリンター名、ホスト名、論理プリンター名が以下のように設定されているものとします。

プリンター名：printer_prn

ホスト名：printer_host

論理プリンター名：filetype_RPS

- リモートプリンターの作成方法

  # /usr/sbin/lpadmin -p printer_prn -s printer_host!lp -T dumb -I（大文字のアイ） any （非 PS プリンター設定）

  または

  # /usr/sbin/lpadmin -p printer_prn -s printer_host!filetype_RPS -T PS -I（大文字のアイ） postscript （PS プリンター設定）

- ネットワークプリンターの作成方法

  # lpadmin -p printer_prn -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=printer_host:lp -v /dev/null -T unknown -I（大文字のアイ） any （非 PS プリンター）

  または

  # lpadmin -p printer_prn -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=printer_host:filetype_RPS -v /dev/null -T PS -I（大文字のアイ） postscript （PS プリンター）

補足

- 詳細は、Solaris に付属のドキュメントを参照して確認してください。
- 非 PS プリンター設定で、印刷時に使用するプログラムを指定する場合は、lp を filetype=P1 などと置き換えてください。

プリンターの有効化

作成したプリンターを有効化し、プリンターが動作できる状態にします。

accept printer

destination printer "printer" now accepting requests

enable printer

printer "printer" now enabled

印刷動作の確認

作成されたプリンターが正しく動作しているか、コマンドを入力して確認します。

Usage : lp -d プリンター名 ファイル名 [ファイル名 ...]

% lp -d printer_prn file1

補足

- プリンター名には、/etc/printers.conf にエントリーを追加した際のプリンター名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。
- PostScript プリンターを作成した場合には、ファイル名で指定されるファイルは PostScript データでなければ、正しく出力されない場合があります。
- バナーページが出力される場合がありますので、不要な場合には、コマンドラインで「-o nobanner」指定により付加せずに出力できます。

オプション指定

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ（,）で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール（=）を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ（,）を追加します。

オプション指定の方法に制限がある OS の場合

オプション指定にイコール（=）が使用できない OS では、イコールの代わりにアンダーライン（_）が使用できます。

例えば、filetype をオプションに指定するときは、filetype_RPS（省略形は fil_RPS）のように入力してください。

また、オプション指定にカンマ（,）が使用できない OS では、カンマの代わりにセミコロン（；）が使用できます。

Solaris 2.6 以上で指定できるオプションの数について

Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、プリンターの種類やコマンドによって、指定できるオプション数が異なります。

- lpr
  - リモートプリンターの場合

    文字列制限の範囲内で複数指定可能
  - ネットワークプリンターの場合

    コマンドにかかわらず一つのみ指定可能
- rsh

  文字列制限の範囲内で複数指定可能
- rcp

  コマンドにかかわらず一つのみ指定可能

- ftp

  文字列制限の範囲内で複数指定可能

補足

- RPGL、または RTIFF エミュレーションから印刷オプションを指定できます。RPGL の印刷オプションについては、『RP-GL/2 編』、RTIFF の印刷オプションについては、『RTIFF 編』を、それぞれご確認ください。

エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。

filetype（または fil）＝エミュレーションの指定値（またはプログラム登録番号の指定値）

- エミュレーション：指定値

  RPCS：RCS

  PostScript 3：RPS または POSTSCRIPT

  RP-GL/2：RGL

  RTIFF：RTF

  PDF：PDF

- プログラム登録番号：指定値

  プログラム 1：P01

  プログラム 2：P02

  プログラム 3：P03

  プログラム 4：P04

  プログラム 5：P05

  プログラム 6：P06

  プログラム 7：P07

  プログラム 8：P08

  プログラム 9：P09

  プログラム 10：P10

  プログラム 11：P11

  プログラム 12：P12

  プログラム 13：P13

  プログラム 14：P14

  プログラム 15：P15

  プログラム 16：P16

PostScript 3 で印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer ファイル名 file1）

- <rsh> % rsh printer print filetype=RPS < file1
- <rcp> % rcp file1 printer:filetype=RPS
- <ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

ftp の cd コマンドの利用

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

ftp> cd オプション

- 搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。

補足

- 現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。

  ftp> pwd

給紙トレイ

給紙トレイを指定します。お使いのオプションによっては、設定できる給紙トレイの指定値が異なります。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。**
- **増設していないトレイを指定しても無効です。**

PostScript 3、PDF

- tray=給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）

  給紙トレイ 1：tray1

  給紙トレイ 2：tray2

  給紙トレイ 3：tray3

  手差しトレイ：bypass

  自動トレイ選択：all

- トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（プリンターのホスト名 printer ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh printer print tray=tray2 < file1

  <rcp> % rcp file1 printer:tray=tray2

  <ftp> ftp> put file1 tray=tray2

用紙サイズ

用紙サイズを指定します。お使いの機種によっては、設定できる用紙サイズの指定値が異なります。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3 のときだけ有効です。**
- **存在していない用紙サイズは指定しても無効です。**

PostScript 3

- paper=用紙サイズの指定値

  指定値：a0（A0）、a1（A1）、a2（A2）、a3wide（12×18）、a3（A3）、a4（A4）、jisb1（B1）、jisb2（B2）、jisb3（B3）、jisb4（B4）、ledger（11×17）、letter（$8^1/_2$×11）、legal（$8^1/_2$×14）、custom（不定形サイズ）、ansic（ANSIC）
- A3 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh printer print paper=a3 < file1

  <rcp> % rcp file1 printer:paper=a3

  <ftp> ftp> put file1 paper=a3

用紙種類

用紙の種類を指定します。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。**
- **対応していない用紙種類は指定しても無効です。**

mediatype= 用紙種類の指定値

- mediatype=用紙種類の指定値

  指定値：plain（普通紙）、recycled（再生紙）、plainorrecycled（普通紙または再生紙）、translucent（トレーシングペーパー）、film（フィルム）、auto（自動選択）

再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh printer print mediatype=recycled < file1

<rcp> % rcp file1 printer:mediatype=recycled

<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled

排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときだけ有効です。**
- **増設していないトレイを指定しても無効です。**

PostScript 3、PDF

- outbin=排紙トレイの指定値

  upper、lower、manual

- lower に排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh printer print outbin=lower < file1

  <rcp> % rcp file1 printer:outbin=lower

  <ftp> ftp> put file1 outbin=lower

印刷部数

印刷部数を指定します。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。**
- **PostScript 3 または PDF の場合は、「qty」と同時に指定しないでください。**

copies=印刷部数（1～999）

10 部印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer ファイル名 file1）

<rsh> % rsh printer print copies=10 < file1

<rcp> % rcp file1 printer:copies=10

<ftp> ftp> put file1 copies=10

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。**
- **「copies」と同時に指定しないでください。**

qty=ソート部数（PostScript 3、PDF ：1～999）

10 部ソートして印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh printer print qty=10 < file1

<rcp> % rcp file1 printer:qty=10

<ftp> ftp> put file1 qty=10

解像度

印刷する解像度を指定します。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。お使いの機種によっては、設定できる解像度の指定値が異なります。**

resolution=解像度（200,300,400,600）

600dpi で印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 printer、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh printer print resolution=600 < file1

<rcp> % rcp file1 printer:resolution=600

<ftp> ftp> put file1 resolution=600

オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

BSD 系 UNIX ワークステーション

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除し、もう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。

または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除し、もう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。

1. スケジューラーを停止します。

   # /usr/sbin/lpshut

2. プリンターを削除します。

   # /usr/sbin/lpadmin -x プリンターの名前

3. スケジューラーを再起動します。

   # /usr/lib/lp/lpsched

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。

- lpq コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。

  % lpq -P 本機の名前

- rsh、rcp、ftp を使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。

  % rsh 本機のホスト名 パラメーター

  % ftp 本機のホスト名

  User: ユーザー名

  password:パスワード
  ftp> get パラメーター-

- rsh、rcp、ftp、sftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。

  stat：機器の状態（ステータス）

  stat：印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）

  info：給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）

  prnlog：これまでに印刷した記録（プリントログ情報）

  syslog：ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

ファイルにコピーする場合

rcp、ftp を使って、指定したパラメーターに応じた内容をファイルにコピーできます。

% rcp プリンターのホスト名：パラメーター ファイル名

% ftp プリンターのホスト名
User: ユーザー名
password:パスワード
ftp> get パラメーター ファイル名

補足

- パラメーターの種類は、表示する場合と同じです。

9. 付録

Windows ターミナルサービス／DHCP、WINS、そしてダイナミック DNS の使用方法の説明や、ダイヤルアップ機器や NetWare 環境、無線 LAN を使用する場合の注意、および本機対応インターフェース／フォーマット／プロトコル、搭載アプリケーションの仕様一覧を示します。

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server を使用する場合

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server を使用する方法の説明です。

動作環境

使用可能な OS と Citrix Presentation Server との組み合わせは次のとおりです。

Citrix Presentation Server 4.0/4.5

- Windows 2000 Server
- Windows Server 2003/2003 R2
- Windows Server 2008

制限

動作が制限される環境についての説明です。

「Windows ターミナルサービス」動作時

［スタート］メニューから Windows 2000 Server ファミリーでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Client をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、次の 2 通りの方法があります。

1. ［コントロールパネル］の［アプリケーションの追加と削除］を使用して Network Monitor for Client をインストールします。
2. MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

   CHANGE USER /INSTALL

   インストールモードを終了するには、MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

   CHANGE USER /EXECUTE

インストールモードを終了するには、MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

CHANGE USER /EXECUTE

詳しくは Windows のヘルプを参照してください。

印刷時

サイズの大きな画像や、フォントが大量に含まれたデータを印刷すると、画像や文字抜けが発生する場合があります。事前検証のうえ、運用してください。

「クライアントプリンタの自動作成機能」使用時

「クライアントプリンタの自動作成機能」とは、Citrix サーバーにログオンする時に、クライアント側で使用しているローカルプリンタの情報を基にして、Citrix サーバー側にて、そのクライアント専用の論理プリンタが自動的に作成される機能です。事前検証のうえ、運用してください。

- 大容量の画像データを印刷したり、ISDN などの電話回線を利用した WAN 環境でお使いになる場合、事前検証のうえ、運用してください。
- 「Citrix 管理コンソール」より、「クライアントプリンターで使用可能な帯域幅」をお使いの環境に合わせて設定して、使用してください。

サーバー側で印刷エラーが発生し、印刷ジョブや「クライアントプリンタの自動作成機能」で作成されたプリンターが削除されない場合、次の対処方法を行ってください。

- 「Citrix 管理コンソール」の「プリンタの管理」のプロパティにて「ログオフ時に保留中の印刷ジョブを削除する」設定を実施します。

「プリンタードライバーの複製機能」使用時

事前検証のうえ、運用してください。

正しく複製がされない場合は、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして、運用してください。

補足

- 制限事項について詳しくは、販売店にご確認ください。

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

動作対象の DHCP サーバーは、Windows 2000 Server 日本語版、Windows server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版、NetWare、および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。

WINS サーバーを使用する場合は、本機の設定項目で［WINS 設定］を［使用する］に設定してください。

WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。

WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IPv4 アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IPv4 アドレスを DHCP サーバーで予約してください。

複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。

ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

補足

- 本機が DHCP から取得した IPv4 アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。
- IPv6 環境では DHCP サーバーは使用可能ですが、IPv6 アドレスの割り当てを受けたり、ホスト名を取得することは出来ません。

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IPv4 アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。

- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Service）サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Network Monitor for Client のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使用する方法

1. **Web ブラウザーを起動します。**
2. **Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

   Web Image Monitor のトップページが表示されます。
3. **［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。
4. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
5. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
6. **「ネットワーク」の［IPv4］をクリックします。**
7. **［イーサネット＋無線 LAN］の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリ WINS サーバー］と［セカンダリ WINS サーバー］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。**
8. **［OK］をクリックします。**
9. **「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。**
10. **Web ブラウザーを終了します。**

補足

- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊の『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

telnet を使用する方法

telnet でも WINS の設定ができます。

参照

- P.183「wins」

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME および PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。

本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。

- セキュリティー設定がされていない
- セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、IEEE 802.11 a/b/g の場合

  PRNXXXXXX（PRNXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

  ただし、ホスト名が CNAME と同じ（PRNXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、IEEE 802.11 a/b/g の場合

  PRNXXXXXX（PRNXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

補足

- メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG（0））はサポートしていません。

動作対象の DNS サーバー

静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で、DHCPv4 サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DNS サーバー

IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCPv4 サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DHCPv4 サーバー

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

参照

- P.155「dns」

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

ネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

リモート側のネットワーク上に NetWare のファイルサーバーが存在している場合、本機から送出されるパケットにより ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。これは NetWare の仕様によるものなので、この問題を回避するには次に示すネットワーク管理上での対応が必要です。ネットワーク管理上対応できない場合は、本機の設定で対応してください。

ネットワーク管理上の対応方法

ISDN ルーターで本機のパケットをフィルタリングし、本機のパケットが ISDN 回線に流れないように設定してください。

フィルタリングする本機の MAC アドレス（物理アドレス）は、本機から印刷するシステム設定リストの「イーサネットアドレス」に記載されています。

ルーターの設定を変更できない場合は、次の手順で対応してください。

プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用する場合）

1. **本書のセットアップ方法にしたがい、必ずファイルサーバーを指定します。**
2. **NetWare の使用環境に合わせてフレームタイプを固定します。**

プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用しない場合）

1. **ネットワークインターフェースボードは印刷していない間もネットワーク上にパケットを発行します。プロトコルの選択で NetWare を無効にします。**

補足

- システム設定リストの印刷方法については、『プリンター機能編』「テスト印刷する」を参照してください。

NetWare 環境で印刷する場合

重要

- IPv6 環境ではご使用になれません。

フォームフィードの設定

NetWare 上で用紙送り（フォームフィード）の設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。設定していると正しく印刷できない場合があります。

用紙送りしないようにするには、使用している OS に応じて次のように設定します。

- Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、プリンターのプロパティの［NetWare 設定］タブで［フォームフィード］のチェックを外します。

バナーページの設定

NetWare 上でバナーページの設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。

バナーページを付けないようにするには、使用している OS に応じて次のように設定します。

- Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、プリンターのプロパティの［NetWare 設定］タブで［バナーの使用］のチェックを外します。

本機のリセット後に印刷するとき

リモートプリンターとして使用している本機をリセットすると、プリンターは 30〜40 秒後にいったんプリントサーバーから切断され、そのあと再び接続されます。リセット後、切断されるまでの間も印刷ジョブは受け付けられますが、このジョブは実際には削除されて印刷されないことがあります。これは NetWare の仕様によるものです。

プリンターをリモートプリンターとして使用していて、リセットした直後に印刷するときは、プリントサーバー上でプリンターのステータスが未接続になったことを確認するか、リセットしてから 2 分ほど待って印刷してください。

拡張無線 LAN ボード（オプション）ご使用時の注意

拡張無線 LAN インターフェースを使ってネットワークに接続するときの注意点を説明します。

無線 LAN では、LAN ケーブルの代わりに電波を利用して情報のやりとりを行います。無線 LAN の電波は、一定の範囲内であれば壁などの障害物も越えて到達するため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生することがあります。

個人情報の漏洩

- ID、パスワード、クレジットカードの番号やメールの内容などが、第三者に盗み見られる。

ネットワークへの不正侵入

- ウィルスなどによってデータやシステムを破壊・改ざんされる。
- 特定の人物になりすまして不正な情報を流される。
- 機密情報が持ち出される。

これらの問題が発生するのを少なくするためには、本機や無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に搭載されている機能を確認し、セキュリティーに関する設定を行うことをお奨めします。

ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- 本機とアクセスポイントを近づける。
- アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

TCP/IP プロトコル（IPv4/IPv6 について）

IP アドレスとは TCP/IP ネットワーク上で機器を判別するための、重複しない特定の番号（アドレス）です。

その中で IPv4 というプロトコルに基づく 32 ビットのアドレス空間を「IPv4」（xxx.xxx.xxx.xxx の形で表される）、IPv6 というプロトコルに基づくアドレス空間を「IPv6」（xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形で表される）といいます。

本機では「IPv6」の工場出荷時の設定は「無効」になっているので、IPv6 環境でご使用になる場合は、本体パネルにて「IPv6」の設定を「有効」にしてください。その場合でも IPv4 は使用できます。

IPv6 環境では、本体の電源を入れたときにネットワークケーブルが本体に接続されていれば、自動で本体にローカルのアドレスが設定されます。これを「リンクローカルアドレス」と呼び、IPv4 環境での Autonet に相当します。

補足

- アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

IEEE 802.1X を設定する

セキュリティー向上のために IEEE 802.1X を設定する方法について説明します。

IEEE 802.1X は、Web Image Monitor の管理者モードで設定します。

IEEE 802.1X は、WPA-PSK/WPA2-PSK に比べ認証サーバーを利用することで更にセキュリティーの向上を図っています。

EAP タイプ（認証方式）は、EAP-TLS、LEAP、EAP-TTLS、PEAP の 4 つの種類を選択できますが、各 EAP タイプで証明書の要／不要、設定項目が異なります。ご注意ください。

証明書の種類、および要／不要については次のとおりです。

「サイト証明書」が必要な EAP タイプ

EAP-TLS、EAP-TTLS、および PEAP（LEAP 以外は必要です）

「サイト証明書」および「機器証明書」が必要な EAP タイプ

EAP-TLS、PEAP（フェーズ 2 メソッドが“TLS”のみ）

証明書が必要な場合は、証明書の導入を済ませた上で各項目の設定を行ってください。

サイト証明書の導入手順

認証局サーバーにアクセスし、「CA 証明書」を入手します。

証明書の入手方法は、ご使用の環境により異なります。

1. **Web Image Monitor に管理者としてログインします。**
2. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**
3. **「セキュリティー」の［サイト証明書］をクリックします。**
4. **「インポートするサイト証明書」の［参照］をクリックし、入手した「CA 証明書」を選択します。**
5. **［インポート］をクリックします。**
6. **インポートした証明書の状態が「信頼できる」であることを確認します。**

   「サイト証明書チェック機能」が［有効］になっていて、証明書の状態が「信頼できない」場合、通信できなくなることがあります。
7. **［OK］をクリックします。**
8. **［ログアウト］をクリックします。**
9. **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊の『セキュリティー編』をご確認ください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

機器証明書の導入手順

機器証明書を導入する方法について説明します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「セキュリティー」の［機器証明書］をクリックします。
4. 「機器証明書」画面で「証明書 2」を選択し、［要求］をクリックします。
5. 「証明書項目内容入力」画面で「共通名称」、「国コード」に適切な値を入力し、［OK］をクリックします。
6. 「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。
7. 「機器証明書」画面で、「要求中」である証明書の［詳細］（メモ型のアイコン）をクリックします。
8. 「証明書詳細情報」画面の「証明書要求用文字列」内のテキストをすべてコピーします。
9. 認証局サーバーにアクセスし、コピーした「証明書要求用文字列」を使用して「CA 署名済み証明書」を入手します。

   証明書の入手方法は、ご使用の環境により異なります。
10. 「機器証明書」画面で、「証明書 2」を選択し、［導入］をクリックします。
11. 手順 9 でダウンロードした「CA 署名済み証明書」をテキストエディタで開き、書かれているものをすべてコピーします。
12. 「証明書要求の入力」画面で、コピーした「CA 署名済み証明書」の内容をすべて貼り付けます。
13. ［OK］をクリックします。
14. 「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。
15. 「機器証明書」画面で、証明書の状態が「導入済み」になっていることを確認します。

16. 「利用する証明書」で、IEEE 802.1X に［証明書 2］を選択して［OK］をクリックします。
17. ［ログアウト］をクリックします。
18. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 「機器証明書」画面で「証明書 1」と「証明書 2」はどちらも選択できますが、「証明書 1」を選択した場合は「利用する証明書」の「IEEE 802.1X」のドロップダウンメニューで［証明書 1］を選択してください。
- 二つの証明書の要求を同時に行うと、証明書の発行先が表示されない場合があります。
- 証明書の要求を取りやめる場合は、［取りやめ要求］をクリックします。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者向け分冊の『セキュリティー編』をご確認ください。
- 手順 6 や手順 14 で［OK］をクリックしたあとに「該当ページが見つかりません。」と表示された場合は、さらに 1〜2 分待ってからブラウザーの［更新］をクリックしてください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

イーサネットで IEEE 802.1X を使用する

イーサネットで IEEE 802.1X を使用するための設定について説明します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「セキュリティー」の［IEEE 802.1X］をクリックします。
4. 「ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
5. 「ドメイン名」に、ご利用環境のドメイン名を入力します。
6. 「EAP タイプ」を選択します。EAP タイプによって設定項目が異なります。

   EAP-TLS

   - お使いの環境に合わせて設定してください。
     - 「サーバー証明書の認証」を選択します。
     - 「中間認証局の信頼」を選択します。

- 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
- 「サブドメイン許可」を選択します。

LEAP

- 「パスワード」の［変更］をクリックして、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。

EAP-TTLS

- 「パスワード」の［変更］をクリックして、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。
- 「フェーズ 2 ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
- 「フェーズ 2 メソッド（EAP-TTLS）」を選択します。

  お使いの RADIUS サーバーにより、使用できないメソッドがあります。
- 以降の項目はお使いの環境に合わせて設定してください。
  - 「サーバー証明書の認証」を選択します。
  - 「中間認証局の信頼」を選択します。
  - 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
  - 「サブドメイン許可」を選択します。

PEAP

- 「パスワード」の［変更］をクリックして、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。

  「フェーズ 2 メソッド」で［TLS］を選択する場合は、パスワードの設定は不要です。
- 「フェーズ 2 ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
- 「フェーズ 2 メソッド（PEAP）」を選択します。

  メソッドに［TLS］を選択する場合は、「IEEE 802.1X クライアント証明書」が必要です。
- 以降の項目はお使いの環境に合わせて設定してください。
  - 「サーバー証明書の認証」を選択します。
  - 「中間認証局の信頼」を選択します。
  - 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
  - 「サブドメイン許可」を選択します。

7. **［OK］をクリックします。**

8. **「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。**

9. メニューエリアの［設定］をクリックします。
10. 「インターフェース」の［インターフェース設定］をクリックします。
11. 「イーサネット」の「セキュリティ（802.1X）」で［有効］を選択します。
12. ［OK］をクリックします。
13. 「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。
14. ［ログアウト］をクリックします。
15. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 設定の不具合により、お使いのプリンターと通信できなくなることがあります。本機からネットワークサマリーを印刷して状況を確認することができます。
- 原因が特定できない場合は、本機の設定を通常のインターフェースに戻した後、はじめから手順をやり直してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

無線 LAN で IEEE 802.1X を使用する

無線 LAN で IEEE 802.1X を使用するための設定について説明します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「セキュリティー」の［IEEE 802.1X］をクリックします。
4. 「ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
5. 「ドメイン名」に、ご利用環境のドメイン名を入力します。
6. 「EAP タイプ」を選択します。EAP タイプによって設定項目が異なります。

   EAP-TLS

   - お使いの環境に合わせて設定してください。
     - 「サーバー証明書の認証」を選択します。
     - 「中間認証局の信頼」を選択します。
     - 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
     - 「サブドメイン許可」を選択します。

LEAP

- 「パスワード」の［変更］をクリックして、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。

EAP-TTLS

- 「パスワード」の［変更］をクリックして、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。
- 「フェーズ 2 ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
- 「フェーズ 2 メソッド（EAP-TTLS）」を選択します。

  お使いの RADIUS サーバーにより、使用できないメソッドがあります。
- 以降の項目はお使いの環境に合わせて設定してください。
  - 「サーバー証明書の認証」を選択します。
  - 「中間認証局の信頼」を選択します。
  - 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
  - 「サブドメイン許可」を選択します。

PEAP

- 「パスワード」の［変更］をクリックして、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。

  「フェーズ 2 メソッド」で［TLS］を選択する場合は、パスワードの設定は不要です。
- 「フェーズ 2 ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
- 「フェーズ 2 メソッド（PEAP）」を選択します。

  メソッドに［TLS］を選択する場合は、「IEEE 802.1X クライアント証明書」が必要です。
- 以降の項目はお使いの環境に合わせて設定してください。
  - 「サーバー証明書の認証」を選択します。
  - 「中間認証局の信頼」を選択します。
  - 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
  - 「サブドメイン許可」を選択します。

7. **［OK］をクリックします。**

8. **「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。**

9. **メニューエリアの［設定］をクリックします。**

10. **「インターフェース」の［無線 LAN 設定］をクリックします。**

11.「ネットワークインターフェース選択」に［無線 LAN］を選択します。
12.「通信モード」に［インフラストラクチャーモード］を選択します。
13.「SSID」をご利用のアクセスポイントに合わせて入力します。
14.「セキュリティー方式」に［WPA］を選択します。
15.「WPA 暗号方式」を、ご利用のアクセスポイントに合わせて選択します。
16.「WPA 認証方式」に、［WPA］を選択します。
17.［OK］をクリックします。
18.「設定の書き換え中」画面が表示されます。1～2 分経過してから［OK］をクリックします。
19.［ログアウト］をクリックします。
20. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 設定の不具合により、お使いのプリンターと通信できなくなることがあります。本機からネットワークサマリーを印刷して状況を確認することができます。
- 原因が特定できない場合は、本機の設定を通常のインターフェースに戻した後、はじめから手順をやり直してください。

参照

- P.127「Web ブラウザーを使う」

ネットワーク仕様

対応インターフェース／フォーマット／プロトコル

インターフェース	1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T、IEEE 802.11a/b/g
フレームタイプ	EthernetII、IEEE 802.2、IEEE 802.3、SNAP
プロトコル：プリンター機能	TCP/IP（IPv4、IPv6）、LPR、RSH、RCP、DIPRINT、FTP、IPP、IPX/SPX（NetWare）、SMB、IPP-SSL、WSD（Printer）
プロトコル：スキャナー機能	TCP/IP（IPv4、IPv6）、RSH、FTP、SMTP、SMB、POP3、NCP、SMTP-C、FTP-C
プロトコル：ドキュメントボックス機能	TCP/IP（IPv4、IPv6）、FTP、HTTP、FTP-C、HTTPS
プロトコル：機器管理機能	TCP/IP（IPv4、IPv6）、RSH、RCP、FTP、SNMP、HTTP、TELNET、NBT、DHCP、DNS、LDAP、FTP-C、HTTPS、DNS-C、SNTP、SSDP

IPP と SMB は、Network Monitor for Client で使用します。

IPP は、Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 で IPP ポートを使用する場合、OS の標準 IPP ポートを使用できます（Windows 2000 は、Network Monitor for Client をご使用ください）。

WSD（Printer）は、Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の WSD ポートを使用します。

UNIX OS 標準の rsh、rcp のみサポートしています。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報を記載しています。

expat について

Copyright © 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper

Copyright © 2001, 2002 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files （the “Software”）, to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

補足

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://expat.sourceforge.net/

FreeBSD 4.6.2 について

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

Heimdal

Copyright © 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden).

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

ILU

Copyright (c) 1991-1999 Xerox Corporation. All Rights Reserved.

Unlimited use, reproduction, modification, and distribution of this software and modified versions thereof is permitted. Permission is granted to make derivative works from this software or a modified version thereof.

Any copy of this software, a modified version thereof, or a derivative work must include both the above copyright notice of Xerox Corporation and this paragraph. Any distribution of this software, a modified version thereof, or a derivative work must comply with all applicable United States export control laws.

This software is made available AS IS, and XEROX CORPORATION DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED

WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, AND NOTWITHSTANDING ANY OTHER PROVISION CONTAINED HEREIN, ANY LIABILITY FOR DAMAGES RESULTING FROM THE SOFTWARE OR ITS USE IS EXPRESSLY DISCLAIMED, WHETHER ARISING IN CONTRACT, TORT (INCLUDING NEGLIGENCE) OR STRICT LIABILITY, EVEN IF XEROX CORPORATION IS ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

IPS™ print language emulations

Copyright © 1987-2006 Zoran Corporation. All rights reserved.

JPEG LIBRARY

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

The m17n library

http://www.m17n.org/index.html

The m17n library 1.2.0 release

Copyright (C) 2003, 2004

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)

Registration Number H15PRO112

The m17n library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

The m17n library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with the m17n library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA.

MD4

Copyright © 1990-2, RSA Data Security, Inc. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the “RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm” in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as “derived from the RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm” in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided “as is” without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

MD5

Copyright © 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the “RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm” in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as “derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm” in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided “as is” without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

nana

Copyright (c) 1995,1996,1997,1998 Phil Maker All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE

DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetBSD について

1. Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product:

This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

Copyright © 1996-2005 The NetBSD Foundation, Inc.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2.Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

- This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by the NetBSD Foundation.
- This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
- This product includes software developed for the NetBSD Project. See http://www.netbsd.org/ for information about NetBSD.
- This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.
- This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.
- This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.
- This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)
- This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@mincom.oz.au)
- This product includes software designed by William Allen Simpson.
- This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.
- This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.
- This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.
- This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
- This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross.
- This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.
- This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch.
- This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.
- This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.

- This product includes software developed by Mika Kortelainen.
- This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.
- This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.
- This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.
- This product includes software developed by Adam Glass.
- This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.
- This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Projet.
- This product includes software developed by Alex Zepeda.
- This product includes software developed by Alistair G. Crooks.
- This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.
- This product includes software developed by Allen Briggs.
- This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman.
- This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
- This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
- This product includes software developed by Bill Paul.
- This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)
- This product includes software developed by Boris Popov.
- This product includes software developed by Brad Pepers
- This product includes software developed by Bradley A. Grantham.
- This product includes software developed by Brini.
- This product includes software developed by Causality Limited.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor.
- This product includes software developed by Charles Hannum.
- This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and

by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

- This product includes software developed by Charles M. Hannum.
- This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.
- This product includes software developed by Christian E. Hopps.
- This product includes software developed by Christian Limpach
- This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.
- This product includes software developed by Christos Zoulas.
- This product includes software developed by Chuck Silvers.
- This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Colin Wood.
- This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited
- This product includes software developed by Daishi Kato
- This product includes software developed by Dale Rahn.
- This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.
- This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Darrin B. Jewell
- This product includes software developed by David Miller.
- This product includes software developed by Dean Huxley.
- This product includes software developed by Eduardo Horvath.
- This product includes software developed by Eric S. Hvozda.
- This product includes software developed by Eric S. Raymond
- This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)
- This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)
- This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)
- This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.
- This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.
- This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.

- This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.
- This product includes software developed by Ezra Story.
- This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Gardner Buchanan.
- This product includes software developed by Gary Thomas.
- This product includes software developed by Gordon Ross
- This product includes software developed by Gordon W. Ross
- This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.
- This product includes software developed by Harvard University and its contributors.
- This product includes software developed by Harvard University.
- This product includes software developed by Herb Peyerl.
- This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Iain Hibbert
- This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.
- This product includes software developed by Ian W. Dall.
- This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.
- This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.
- This product includes software developed by James R. Maynard III.
- This product includes software developed by Jared D. McNeill.
- This product includes software developed by Jason L. Wright
- This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, http://www.and.com/
- This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.
- This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.
- This product includes software developed by Joerg Wunsch
- This product includes software developed by John Birrell.
- This product includes software developed by John P. Wittkoski.
- This product includes software developed by John Polstra.
- This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Jonathan Stone.

- This product includes software developed by Jukka Marin.
- This product includes software developed by Julian Highfield.
- This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.
- This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.
- This product includes software developed by Kenneth Stailey.
- This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.
- This product includes software developed by Klaus Burkert,by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.
- This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Leo Weppelman.
- This product includes software developed by Lloyd Parkes.
- This product includes software developed by Luke Mewburn.
- This product includes software developed by Lutz Vieweg.
- This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.
- This product includes software developed by Manuel Bouyer.
- This product includes software developed by Marc Horowitz.
- This product includes software developed by Marcus Comstedt.
- This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.
- This product includes software developed by Mark Brinicombe.
- This product includes software developed by Mark Murray
- This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe
- This product includes software developed by Markus Wild.
- This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.
- This product includes software developed by Masanobu Saitoh.
- This product includes software developed by Masaru Oki.
- This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.
- This product includes software developed by Mats O Jansson.
- This product includes software developed by Matt DeBergalis
- This product includes software developed by Matthew Fredette.
- This product includes software developed by Matthias Pfaller.
- This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Michael Graff.
- This product includes software developed by Michael L. Hitch.

- This product includes software developed by Michael Shalayeff.
- This product includes software developed by Michael Smith.
- This product includes software developed by Mike Glover and contributors.
- This product includes software developed by Mike Pritchard.
- This product includes software developed by Minoura Makoto.
- This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.
- This product includes software developed by Niels Provos.
- This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.
- This product includes software developed by Niklas Hallqvist.
- This product includes software developed by Onno van der Linden.
- This product includes software developed by Paul Kranenburg.
- This product includes software developed by Paul Mackerras.
- This product includes software developed by Per Fogelstrom
- This product includes software developed by Peter Galbavy.
- This product includes software developed by Phase One, Inc.
- This product includes software developed by Philip A. Nelson.
- This product includes software developed by Philip L. Budne.
- This product includes software developed by RiscBSD.
- This product includes software developed by Roar Thronaes.
- This product includes software developed by Rodney W. Grimes.
- This product includes software developed by Roger Hardiman
- This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.
- This product includes software developed by Rolf Grossmann.
- This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Ross Harvey.
- This product includes software developed by Scott Bartram.
- This product includes software developed by Scott Stevens.
- This product includes software developed by Shingo WATANABE.
- This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.
- This product includes software developed by Soren S. Jorvang.
- This product includes software developed by Stephan Thesing.
- This product includes software developed by Steve Woodford.

- This product includes software developed by Takashi Hamada
- This product includes software developed by Takumi Nakamura.
- This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Terrence R. Lambert.
- This product includes software developed by Tetsuya Isaki.
- This product includes software developed by Thomas Gerner
- This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Tobias Weingartner.
- This product includes software developed by Todd C. Miller.
- This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by TooLs GmbH.
- This product includes software developed by Toru Nishimura.
- This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.
- This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.
- This product includes software developed by Waldi Ravens.
- This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. http://www.zembu.com/
- This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.
- This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.
- This product includes software developed by Yasushi Yamasaki
- This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.
- This product includes software developed by the Alice Group.
- This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.
- This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
- This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.
- This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.
- This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.

- This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.OpenSSL.org/)
- This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.
- This product includes software developed by the RiscBSD kernel team
- This product includes software developed by the RiscBSD team.
- This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.
- This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.
- This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
- This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.
- This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.
- This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.
- This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
- This product includes software developed for the FreeBSD project
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.

- This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET,Swedish University Computer Network.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.
- This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.
- This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.
- This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz,TeleMuse.
- This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).
- This software includes software developed by the Computer Systems Labora-tory at the University of Utah.
- This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/).
- This product includes software developed by Allen Briggs.
- In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:
- This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD" , "FreeBSD" , "Mach" (by CMU).
- In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:
- This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

Open LDAP

Copyright 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,

2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and

3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1）

Copyright © 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved

As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose （the GNU license being the most restrictive）; see below for details.

[However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN

OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM （INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS）, EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh - source code

Copyright © 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.

All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.

Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>

<http://www.core-sdi.com>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

Copyright © 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES （INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION） HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT （INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE） ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4）

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl

Theo de Raadt

Niels Provos

Dug Song

Kevin Steves

Daniel Kouril

Wesley Griffin

Per Allansson

Jason Downs

Solar Designer

Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES （INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION） HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT （INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE） ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5）

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c） Compatibility code （openbsd-compat）

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller

Theo de Raadt

Damien Miller

Eric P. Allman

The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR

ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES （INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION） HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT （INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE） ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open SSL

Copyright © 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. （http://www.openssl.org/）"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit （http://www.openssl.org/）"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES （INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS

INTERRUPTION） HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT （INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE） ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young （eay@cryptsoft.com）. This product includes software written by Tim Hudson （tjh@cryptsoft.com）.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young （eay@cryptsoft.com） All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young （eay@cryptsoft.com）.

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson （tjh@cryptsoft.com）.

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation （online or textual） provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young （eay@cryptsoft.com）" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-）.

4. If you include any Windows specific code （or a derivative thereof） from the apps directory （application code） you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson （tjh@cryptsoft.com）"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT,

INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES （INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION） HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT （INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE） ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

racoon

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.

All rights reserved.

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE® cryptographic software from RSA Security Inc.
- RSA, BSAFE are either registered trademarks or trademarks of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
- RSA Security Inc. All rights reserved.

Sablotron (Version 0.82)

Copyright © 2000 Ginger Alliance Ltd. All Rights Reserved.

a） The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 （hereinafter, “Sablotron 0.82”）, with modifications made by the product manufacturer. The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer,

and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b） The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c） The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 （hereinafter, “MPL 1.1”）, and the application software of this product constitutes the “Larger Work” as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement（s）.

d） The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: http://support-download.com/services/device/sablot/notice082.html

e） The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com

f） MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

samba

本製品に搭載している SMB 送信機能では samba を使用しています。

For SMB transmission, this machine uses Samba. Copyright (c) Andrew Tridgell 1994-1998.

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USAEveryone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software-- to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if

you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you

received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.) The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW . EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND /OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE . THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER , OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES,

INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and a brief idea of what it does. Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

補足

- 本製品に搭載している SMB 送信機能に関するソースコードは次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://support-download.com/services/scbs

SASL について

Copyright © 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name “Carnegie Mellon University” must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact

   Office of Technology Transfer

   Carnegie Mellon University

   5000 Forbes Avenue

   Pittsburgh, PA 15213-3890

   （412） 268-4387, fax: （412） 268-7395

   tech-transfer@andrew.cmu.edu
4. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

   “This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University （http://www.cmu.edu/computing/）.”

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT,

NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

SPX/IPX

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

TIFF ライブラリー

ソフトウェアの著作権等に関する情報を記載しています。

- RTIFF エミュレーションのソフトウエアは、カリフォルニア大学バークレイ校の開発によるものを含みます。

その配布条件に従い、バークレイ校の開発部分に関する著作権表示を以下に記します。

Copyright 1979, 1980, 1983, 1986, 1988, 1989, 1991, 1992, 1993, 1994

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

   This product includes software developed by the University of California, Berkeley, and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES （INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS

OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION）HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT （INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE） ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- RTIFF エミュレーションのソフトウエアは、Sam Leffler 氏とシリコン・グラフィックス社が開発したフリーソフトウエアの TIFF ライブラリーを含みます。その配布条件に従い、TIFF ライブラリー部分に関する著作権表示を以下に記します。

Copyright© 1988, 1989, 1990, 1991 Sam Leffler

Copyright© 1991 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that （i） the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and （ii） the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Stanford and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the

Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any

other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent (s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity. Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2(a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

補足

- 本製品に搭載している TrouSerS（Version 0.27）に関するソースコードは、次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://www.ricoh.com/support/trousers/index.html
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。http://sourceforge.net/cvs/ ?group_id=126012

WPA Supplicant

Copyright (c) 2003-2009, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and /or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name (s) of the above-listed copyright holder (s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

リサイクル部品について

本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

商標

ドキュメントボックス、RPCS、RP-GL/2、RTIFF、RPDL は、株式会社リコーの商標または登録商標です。

Adobe、Acrobat、Acrobat Reader、Adobe Reader、PostScript は、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。

Apple、Bonjour、Macintosh、Mac OS、TrueType は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

Citrix、Citrix Presentation Server、Citrix XenApp、MetaFrame は、Citrix Systems, Inc.の登録商標です。

Firefox は、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IPS は、米国およびその他の国々で登録された Zoran Corporation とその各子会社の登録商標または商標です。

JAWS®は Freedom Scientific BLV Group, LLC の米国およびその他の国における登録商標です。

Monotype は、Monotype Imaging Inc.の登録商標です。

NetWare、IPX、IPX/SPX、NCP、NDS は、米国 Novell, Inc.の登録商標または商標です。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国々における登録商標です。

UPnP™ is a trademark of the UPnP™ Implementers Corporation.

Microsoft®、Windows®、MS-DOS®、Windows Server®、Windows Vista®は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

- MS-DOS の製品名は、Microsoft® MS-DOS®です。
- Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® 2000 Professional

  Microsoft® Windows® 2000 Server

  Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
- Windows XP の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® XP Professional Edition

  Microsoft® Windows® XP Home Edition

  Microsoft® Windows® XP Media Center Edition

  Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition
- Windows Vista の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Vista® Ultimate

Microsoft® Windows Vista® Business
Microsoft® Windows Vista® Home Premium
Microsoft® Windows Vista® Home Basic
Microsoft® Windows Vista® Enterprise

- Windows 7 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows® 7 Home Premium
Microsoft® Windows® 7 Professional
Microsoft® Windows® 7 Ultimate
Microsoft® Windows® 7 Enterprise

- Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition

- Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition

- Windows Server 2008 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise

- Windows Server 2008 R2 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise

その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

索引

記号・数字

8021x.....184

アルファベット

access.....148
authfree.....149
autonet.....150
AutoNet.....305
bonjour.....151
Bonjour.....287
Citrix Presentation Server.....303
DDNS 設定.....36
devicename.....152
dhcp.....153
DHCP.....305
dhcp6.....154
DHCPv4 サーバー.....310
diprint.....154
dns.....155
DNS サーバー.....310
DNS 設定.....36
domainname.....157
etherauth.....157
etherconfig.....158
ftp.....188, 191, 193, 199, 277, 280, 302
FTP（項目の変更）.....249
FTP（フォルダー宛先の消去）.....250
FTP（フォルダー宛先の登録）.....245
FTP（フォルダー宛先の変更）.....248
FTP（プロトコル変更）.....250
GigaBit イーサネットインターフェース.....73
GigaBit イーサネットインターフェース（接続）.....75
help.....158
hostname.....158
IEEE 1284 インターフェース.....73
IEEE 1284 インターフェース（接続）.....78
IEEE 802.1X.....316
IEEE 802.1X （イーサネット）.....318
IEEE 802.1X 認証初期化.....36
IEEE 802.1X （無線 LAN）.....320
ifconfig.....159
info.....160, 191
ipp.....160
IPP（Network Monitor for Client）.....139
ipsec.....161
IPsec.....36
IPv4 ゲートウェイアドレス.....36
ipv6.....161
IPv6 ゲートウェイアドレス.....36
IPv6 ステートレスアドレス自動設定.....36
IP アドレス.....19
ISDN.....312
LDAP 検索.....53
LDAP サーバー.....63
LDAP サーバー（消去）.....68
LDAP サーバー（設定）.....63
LDAP サーバー（登録）.....63
LDAP サーバー登録／変更／消去.....53
LDAP サーバー（変更）.....68
LDAP 認証.....274
logout.....162
LPD.....291
lpq.....188, 193, 302
lpr.....162, 277, 279
NCP 配信時プロトコル.....36
NCP（フォルダー宛先の消去）.....256
NCP（フォルダー宛先の登録）.....251
NCP（フォルダー宛先の変更）.....254
NCP（フォルダーの直接指定）.....253
NCP（フォルダーをネットワーク参照から指定）.....254
NCP（プロトコル変更）.....256
netware.....163
NetWare.....110, 313
NetWare 3.xJ.....110, 118
NetWare 4.xJ.....112, 121
NetWare 5.1J.....112, 121
NetWare 5.1J ピュア IP 環境.....113
NetWare 5J.....112, 121
NetWare 5J ピュア IP 環境.....113
NetWare 6.5J.....112, 124
NetWare 6.5J ピュア IP 環境.....116
NetWare 6J.....112, 124
NetWare 6J ピュア IP 環境.....116
NW フレームタイプ.....36
passwd.....164

pathmtu.....165
Ping コマンド実行.....36
POP3/IMAP4 設定.....47
POP before SMTP.....47
PostScript 3 編.....11
prnlog.....165, 193
rcp.....188, 191, 193, 199, 302
Rendezvous.....286
route.....165
RP-GL/2 編.....11
rsh.....188, 191, 193, 199, 302
RTIFF 編.....11
set.....167
sftp.....188, 191, 193, 199, 277, 280, 302
show.....170, 194
slp.....170
smb.....171
SMB コンピューター名.....36
SMB（フォルダー宛先の消去）.....244
SMB（フォルダー宛先の登録）.....238
SMB（フォルダー宛先の変更）.....243
SMB（フォルダーの直接指定）.....241
SMB（フォルダーをネットワーク参照から指定）.....242
SMB（プロトコル変更）.....244
SMB（ログイン画面）.....242
SMB ワークグループ.....36
SMTP サーバー.....47
SMTP 認証.....47, 273
snmp.....171
SNMP.....187
SNMPv3 通信許可設定.....36
sntp.....175
spoolsw.....176
ssdp.....176
ssh.....177
SSID 設定.....43
SSL/TLS 通信許可設定.....36
status.....178, 188, 193
syslog.....178, 199
telnet.....101, 147
UNIX.....291
upnp.....178
USB 2.0 インターフェース.....73
USB インターフェース（接続）.....76
USB ポート固定.....53
USB ホストインターフェース.....73
USB ホストインターフェース（接続）.....77
web.....178
Web Image Monitor.....101, 127
Web ブラウザー.....127
wiconfig.....179
Windows ターミナルサービス.....303
Windows ネットワークプリンター.....109
wins.....183
WINS サーバー.....307
WINS 設定.....36
WPA.....316
WPA2.....316
wsmfp.....184

あ

宛先のグループ登録.....258
アドホックチャンネル.....43
アドレス帳.....211
アドレス帳（宛先の管理）.....214
アドレス帳: 宛先リスト印刷.....53
アドレス帳自動登録時データ利用設定....53
アドレス帳（登録先グループ）.....211
アドレス帳（登録情報）.....211
アドレス帳登録／変更／消去.....53
アドレス帳（認証）.....273
アドレス帳（認証情報）.....211
アドレス帳（認証保護）.....211
アドレス帳のデータ利用について.....221
アドレス帳バックアップ／リストア.....53
アドレス帳（フォルダー）.....211
アドレス帳見出し切り替え.....53
アドレス帳（メールアドレス）.....212
アドレス帳（ユーザー名の管理）.....214
イーサネットインターフェース.....73
イーサネットインターフェース（接続）.....74
イーサネット速度.....36
イーサネット用 IEEE 802.1X 認証.....36
印刷機能移行時間.....21
印刷時優先画質.....21

印刷部数（UNIX）.....300
印刷優先機能設定.....21
インターフェース接続.....73
インターフェース設定.....36, 101
インターフェース設定リスト.....45
インプットプライム.....42
インフラストラクチャーモード（電波状態）.....81
ウォームアップ通知音.....21
エミュレーション（UNIX）.....297
オートオフ時間設定.....33
オートログアウト時間設定.....33
オプション.....16
オプション指定（UNIX）.....296
オプション指定の変更（UNIX）.....301

か

解像度（UNIX）.....301
カウンター（クリア）.....230
カウンター表示／印刷.....53
拡張認証管理.....53
画像ずれ補正.....21
紙厚設定：給紙トレイ.....27
紙厚設定：用紙手差し.....27
画面.....17
管理者登録／変更.....53
管理者認証管理.....53
管理者メールアドレス.....47
管理者モード.....131
管理者モード（Web Image Monitor）....132
管理者用設定.....53
キーリピート設定.....21
機器情報（UNIX/telnet）.....191
機器情報通知実行.....53
機器証明書.....317
機器データ暗号化設定.....53
基本設定.....21
給紙トレイ（UNIX）.....298
給紙トレイ優先設定：コピー.....27
給紙トレイ優先設定：プリンター.....27
グループ（宛先の確認）.....262
グループ（宛先の削除）.....263
グループ（宛先の登録）.....259
グループ（グループからの削除）.....265
グループ（グループ名の消去）.....268
グループ（グループ名の変更）.....266
グループ（登録）.....258
グループ登録／変更／消去.....53
グループ（別グループに登録）.....261
ゲストモード.....131
原稿送り開始方法.....21
原稿送り開始待ち時間.....21
この本の読みかた.....15
コピー機能＆ドキュメントボックス機能編.....11
コピー／ドキュメントボックスオートリセット時間設定.....33

さ

サーバー側メール保持.....47
サイト証明書.....316
時刻設定.....33
時刻タイマー設定.....33
システムオートリセット時間設定.....33
システム状態／ジョブ一覧表示時間設定.....21
システムログ情報（UNIX/telnet）.....199
自動メール通知.....144
受信プロトコル.....47
受信メールサイズ制限.....47
取得情報.....193
仕様.....323
使用上の注意.....312
使用上の注意（拡張無線 LAN ボード）.....314
使用説明書.....11
状態表示（UNIX）.....302
状態表示（UNIX/telnet）.....188
商標.....361
初期設定.....18
初期設定（終了）.....19
初期設定（変更）.....18
信号線制御.....42
スキャナーオートリセット時間設定.....33
スキャナー機能編.....11
スキャナー再送信回数.....47
スキャナー再送信間隔時間.....47
制限（Windows ターミナルサービス）.....303

セキュリティー強化.....53
セキュリティー編.....11
セキュリティー方式選択.....43
設定項目（Web Image Monitor）.....133
設定値初期化.....43
セレクト状態.....42
操作画面.....17
送信者名自動指定.....47
送信初期ユーザー名・パスワード.....47
送信メール本文登録／変更／消去.....47
双方向通信.....42
ソート部数（UNIX）.....300

た

ダイナミック DNS.....309
正しくお使いいただくために.....15
直接印刷.....277
通信テストコール実行.....53
通信モード.....43
定型文字列登録／変更／消去.....21
低電力移行時間設定.....33
電波状態.....43, 81
搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報.....324
動作環境.....303
ドキュメントボックス.....98
ドキュメントボックス（イーサネット）.....98
ドキュメントボックス蓄積文書一括消去.....53
ドキュメントボックス蓄積文書自動消去.....53
ドキュメントボックス（無線 LAN）.....100
トップページ（Web Image Monitor）.....128
ドメイン名.....36
トラブル解決編.....11

な

並び順入れ替え.....53
成りすまし送信対策.....214
認証保護.....214, 269
認証保護（グループ設定）.....271
認証保護（ユーザー設定）.....269
ネットワーク TWAIN スキャナー.....95
ネットワーク TWAIN スキャナー（イーサネット）.....96
ネットワーク TWAIN スキャナー（無線 LAN）.....97
ネットワーク＆システム初期設定編.....11
ネットワークインターフェース選択.....36
ネットワークインターフェースボードの情報.....194
ネットワークセキュリティーレベル.....53
ネットワーク（設定）.....82
ネットワーク配信.....92
ネットワーク配信（イーサネット）.....92
ネットワーク配信（無線 LAN）.....94
年月日設定.....33

は

排紙先：プリンター.....21
排紙トレイ（UNIX）.....299
倍率補正：コピー.....21
倍率補正：プリンター.....21
はじめに.....13
バナーページ（NetWare）.....313
パラレルインターフェース.....42
パラレルタイミング.....42
パラレル通信速度.....42
ファームウェアバージョン表示.....53
ファイルコピー（UNIX）.....302
ファイル送信.....89
ファイル送信（イーサネット）.....89
ファイル送信（無線 LAN）.....91
ファイル転送設定.....47, 106
フェライトコア（GigaBit イーサネットケーブル）.....75
フェライトコア（イーサネットケーブル）.....74
フォームフィード（NetWare）.....313
フォルダー登録.....238
フォルダー（ワンタッチ送信）.....214
複製、印刷が禁止されているもの.....13
ブザー音.....21
プリンター.....82
プリンター（イーサネット）.....82
プリンターオートリセット時間設定.....33
プリンター機能編.....11
プリンター手差し用紙サイズ.....27

プリンター（無線 LAN）.....84
プリントジョブ情報（UNIX/telnet）.....193
プリントログ情報（UNIX/telnet）.....193
プレビュー範囲設定.....21
プログラム（UNIX）.....297
文書複製の抑止（おことわり）.....14
ヘルプ（Web Image Monitor）.....137
ヘルプへのリンク（Web Image Monitor）.....137
ホスト名.....36, 277, 278
ホスト名（DHCP）.....278
ホスト名（DNS）.....278
本機以外からの設定方法.....101
本機以外からの設定方法（telnet）.....101
本機以外からの設定方法（Web Image Monitor）.....101
本機をお使いになる方へ.....11
本書についてのご注意.....15
本体 IPv4 アドレス.....36
本体 IPv6 アドレス.....36
本体名.....36

ま

マークについて.....15
未承認アクセス対策.....214
見出し編集.....53
無線 LAN.....43
無線 LAN インターフェース.....73
無線 LAN インターフェース（接続）.....79
無線 LAN（セットアップ）.....79
メール宛先.....233
メールアドレス（消去）.....236
メールアドレス（変更）.....235
アドレス帳（メールアドレス）.....211
メール受信間隔時間設定.....47
メール送信.....85
メール送信（イーサネット）.....85
メール送信（無線 LAN）.....87
メール通信ポート設定.....47
メール通知機能.....140
メール通知用アカウント.....141
メール認証.....142
メールアドレス（登録）.....233
メール（ワンタッチ送信）.....214
メッセージ.....199
メニュー（Web Image Monitor）.....131
メモリー自動消去設定.....53
メモリー全消去.....53
モード（Web Image Monitor）.....131

や

有効プロトコル.....36
ユーザーコード（消去）.....225
ユーザーコード（登録）.....222
ユーザーコード認証.....215, 222
ユーザーコード（変更）.....224
ユーザー情報.....216
ユーザー情報（消去）.....219
ユーザー情報（登録番号の変更）.....218
ユーザー情報（名前の登録）.....216
ユーザー情報（名前の変更）.....217
ユーザー認証（Web Image Monitor）.....130
ユーザー認証管理.....53
ユーザー別カウンター.....227
ユーザー別カウンター（一覧印刷）.....229
ユーザー別カウンター（機能別印刷）.....227
ユーザー別カウンター（全ユーザークリア）.....232
ユーザー別カウンター（表示）.....227
ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷.....53
ユーザー別カウンター（ユーザー別印刷）.....228
ユーザー別カウンター（ユーザー別クリア）.....230
優先機能設定.....21
要求時メール通知.....145
要求メール.....146
用紙サイズ（UNIX）.....299
用紙サイズ設定：トレイ 1.....27
用紙サイズ設定：トレイ 2.....27
用紙サイズ設定：トレイ 3.....27
用紙残量設定.....27
用紙種類（UNIX）.....299
用紙種類設定：トレイ 1–3.....27
用紙種類設定：用紙手差し.....27
用紙設定.....27
用紙枚数カウンター表示.....21

予熱移行時間設定.....33
読み取り前一時停止時間.....21

ら

リスト印刷.....45
リセット後印刷（NetWare）.....313
略称.....16
レルム.....70
レルム（消去）.....72
レルム（設定）.....70
レルム（登録）.....70
レルム登録／変更／消去.....53
レルム（変更）.....71
ログアウト（Web Image Monitor）.....130
ログ一括消去.....53
ログイン（Web Image Monitor）.....130
ログ転送設定.....53

わ

割り込み動作時の出力.....21
ワンタッチ送信（フォルダー）.....214
ワンタッチ送信（メール）.....214

© 2010

使用説明書〈ネットワーク&システム初期設定編〉

JA JP 2010年12月 D094-7550